

業務資料No. 207

昭和45年度

# 市場調査報告書

昭和47年3月

海外移住事業団

RY

国際協力事業団

受入 月日	'84. 4. 10	700
登録No.	03181	81.4
		EM

## ま え が き

南米移住地の農業開発に当っては、その生産物が殆んどの場合世界市場と極めて緊密な関係にあるので、移住地の主要作物等に関して世界に於ける生産状況、並びにその市場状況について昭和38年から44年に亘ってその調査を実施して来たが、一応マクロな調査を終了し得たので、本年度からは南米移住地の主要作物及び移住地類地地域の主要作物の生産及びその作物に関する地域流通機構等をミクロ的に把握し、農業開発及び農業指導等に資する為に地域市場関係調査を始めた。

本年度は最も緊急を要するものを取りあげ、蔬菜類についてパラグワイ国よりブエノスアイレス市場向輸出可能性調査、又ドミニカ国のプエルトリコ市場向輸出可能性調査、ボリビア国に於いては果樹類のアルゼンチン向輸出可能性調査及び沖縄移住地に棉作を導入するに当ってこれの搬出方法（輸出）等の調査、ブラジルについては道路等の整備により国内市場が広域化している一方、ラーモス移住地等のネクタリン、ブドウの生産は今後ますます増産が見込まれ、地区、卸市場のみでは販売が行詰る恐れがあることからポルトアレグレ支部でサンパウロ等大消費市場の調査を行った。

しかし、本調査を在外機関に移し、これが初年目であることもあって、本調査報告は必ずしも体裁、及び調査内容等、その意を十分に表わしきれていない点もあり、多少の疑問点があると思われるが、この点は各位の忌憚のない御批判と御助言を御願ひする。

昭和47年3月

業務第二部長

JICA LIBRARY



1053316[4]

## 目 次

I. パラグワイ産冬作トマトのアルゼンチン国，ブエノスアイレス市場への 輸出可能性について（アスンシオン支部）	1
II. 1) 果樹のアルゼンチン国輸出可能性及び同国の生産流通状況について （サンタクルース支部）	33
2) ボリビア棉の輸出ルートの開拓及びペルー国棉作状況について （サンタクルース支部）	53
III. 温帯果樹類のサンパウロに於ける市場性について （ポルトアレグレ支部）	61
IV. 蔬菜類のブエルトリコ市場向輸出の可能性について （サントドミンゴ支部）	117

## アスンシオン支部編

パラグワイ産冬作トマトのアルゼンチン、ブエノスアイレス市場  
への輸出可能性について

## I 調査の目的

パラグワイ国に於ける日系人のトマト生産地はアスンシオン近郊、イグアス入植地、ラ・コルメナ移住地、セグアス地区にしばられるが、これらの日系トマト生産者は現地人が栽培技術上難かしい冬作トマトの生産を中心に行ないアスンシオン市場に出荷して来たが、近年パ国人も次第に日系入植者のトマト栽培技術を身につけ冬作トマトの生産をあげて来ていること、又一方、アスンシオン市場のトマト消費量には限度があることから、従来夏作トマトに比して高価格取引ができた冬作トマトも、近年トマト生産コストを割る低価格を呈するに至っており、最早アスンシオン市場のみを市場対象とすることは不可能な状況にあることから、輸出業の方策を考えなければならず、よって本年度Buenos Aires 市場の開拓を行うべく本調査を実施したものである。

## II 調査者

アスンシオン支部

## III 調査期間

昭和45年7月

## IV 調査地

アルゼンチン国ブエノスアイレス市

## V 調査内容

### I 亜国のトマト生産及び販売の概況

#### 1. 亜国のトマト生産状況について

a) 亜国農牧省統計局の発行する "BOLETIN ESTADISTICO AGROPECUARIO" によると1964年度～1969年度の5ヶ年間のトマト栽培面積・収穫面積・生産量の平均は次の通りである。

1964～1969年(5ヶ年間平均)	トマト栽培面積	21,740 ha (年間)
1964～1969年(5ヶ年間平均)	トマト収穫面積	20,217 ha (年間)
1964～1969年(5ヶ年平均)	トマト生産量	339,260 ton (年間)

これから見るとトマト収穫面積は、トマト栽培面積の年間9.3%に当る約1,500 ha 前後の未収穫面積があるが、これは亜国北部(SALTA, JUJUY, TUCUMAN)の霜害地域の未収穫面積と地域により水害、干害に見舞われた面積である。又、ha当りの平均生産量を見ると、 $\frac{339,260 \text{ ton}}{20,217 \text{ ha}} = 16.781 \text{ ton}$ となっている。勿論、生産量は地域別に差異があり、1968～1969 農年の実績を見ると次の通りである。

BUENOS. AIRES 地域	収穫面積	1,680 ha	収穫量	25,700 ton = 15,298 Kg/ha
JUJUY	"	3,070 "	"	42,050 " = 13,697 Kg/ha
MENDOZA	"	4,300 "	"	55,400 " = 12,884 Kg/ha
RIO NEGRO	"	3,960 "	"	85,900 " = 21,692 Kg/ha

SALTA	地域	収穫面積	2,550 ha	収穫量	51,300 ton = 20,118 Kg/ha
SAN JUAN	"	"	900 "	"	13,700 " = 15,222 Kg/ha
SANTA FE	"	"	490 "	"	16,400 " = 33,469 Kg/ha
TUCUMAN	"	"	1,000 "	"	20,900 " = 20,900 Kg/ha
その他	"	"	2,270 "	"	40,750 " = 17,952 Kg/ha

b) アルゼンチン国の主要トマト生産地別の生産量は次表1に見る通りである。

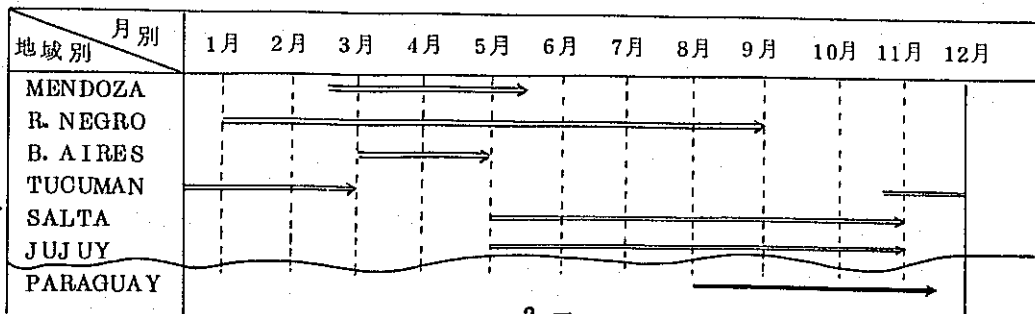
表1 亜国64/65農年度より68/69農年までの生産地別生産量表

年度別	TOTAL	B. AIRES	JUJUY	MEN-DOZA	RNEGRO	SALTA	SAN JUAN	SANTA	TU CUMAN	その他
栽培面積(h)	(108,700ha) ha		ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha	ha
64/65	24,100	1,900	2,780	6,650	6,000	2,510	1,500	650	650	1,460
65/66	19,300	1,870	2,840	5,000	3,590	2,290	1,360	450	690	1,210
66/67	21,900	1,900	2,910	6,200	3,900	2,600	1,520	570	700	1,800
67/68	21,350	1,836	3,025	5,865	3,373	2,142	1,130	462	781	2,736
68/69	22,050	1,850	3,290	4,300	3,960	2,670	900	580	1,000	3,500
収穫面積(h)	(101,086ha)									
64/65	22,620	1,813	2,775	6,145	5,690	2,258	1,465	629	605	1,240
65/66	18,037	1,737	2,840	4,997	3,136	2,099	1,220	427	656	925
66/67	20,329	1,705	2,910	6,132	3,705	1,940	1,390	517	681	1,349
67/68	19,880	1,742	2,642	5,865	3,073	2,142	1,130	366	748	2,172
68/69	20,220	1,680	3,070	4,300	3,960	2,550	900	490	1,000	2,270
生産量(t)	(169,630ton)									
64/65	392,000	29,850	42,150	67,150	126,250	45,200	29,650	25,650	10,900	14,700
65/66	303,800	28,350	42,600	66,850	58,450	41,300	26,450	17,350	11,860	10,590
66/67	333,600	26,650	43,500	80,700	75,950	32,500	23,700	21,250	14,420	16,930
67/68	314,800	26,750	32,700	80,600	49,300	42,060	22,600	12,800	14,050	33,940
68/69	352,100	25,700	42,050	55,400	85,900	51,300	13,700	16,400	20,900	40,750

資料; BOLETIN ESTADISTICO AGRICOLA

これら主要なトマト生産地域別の生産トマトのブエノス・アイレス市場出荷時期を見てみると、次表2の出荷状況にある。

表2 亜国主要トマト生産地別のブエノス・アイレス市場出荷 Time table



即ち、アルゼンチン国のB. AIRES市場向けトマトは、TUCUMAN県から始まり、RIO NEGRO県MENDOZA県BUENOS AIRES県、最後にアルゼンチン北部SALTA、JUJUY県で終る。

ブラグアイ産の冬作トマトの出荷期は、7、8、9、10月の4ヶ月間とすると、この時期の亜国産トマトはTUCUMAN県、SALTA県、JUJUY県とR. NEGRO県晩生トマトが競合する。勿論このことは、緯度25°線を中心とする亜熱帯気候に同位置することにより、バ国生産者にとっては宿命的なトマト生産競争地域となっている。これらSALTA県、JUJUY県及びTUCUMAN 県の中の主要な生産地は次の地方である。

SALTA県では NUEVA ORAN地方 ENBARCACION地方

JUJUY県では SAN MARTIN地方

TUCUMAN県では DIQUE. EL COPILLAL地方 (SAN MIGUEL DE TUCUMAN  
を中心とする。)

## 2. 亜国のトマト生産コストおよび輸送コストについて

a) 亜国トマト生産者の生産規模は、当国のトマト生産規模に比較すると極めて大規模経営である。特にMENDOZA, B. AIRES, SANTA FE, RIO NEGRO 地方の加工用トマト栽培を中心とするトマト栽培農家の経営面積は、1戸で200ha以上を経営する農家もある。

SALTA県、JUJUY県、TUCUMAN県でも1農家のトマト栽培面積は、約10～12haと云われ、当国のトマト栽培農家1～2haに比していかに大規模面積経営が行なわれているかが解る。従って、栽培方法も収穫のみが手労働によるが、ほとんど機械化されている。アルゼンチン国のトマト栽培のコストを見る場合、勿論、冬作と夏作によっても異なり、又、加工用トマトと生食用トマトによっても差異があるし、当然、大面積栽培と小面積栽培によっても差異があるが、ひとつの目安として現行の海外移住事業団ブエノス・アイレス支部の融資資料を参考にし、生産コストを見て見ると次表3の通りである。

表3 亜国の加工用・生食用トマトの生産コスト表(ha当り) 単位 m\$ n. (ペソ)

区 分		加工用トマト	食用トマト	備 考	
収 入	数 量	20,000 Kg	45,000 Kg	品種加工用—Perito, 生食用—Platense (INTA)	
	単 価	Kg/15	Kg/15		
金 額	300,000(m\$ n)	1,300,000(m\$ n)			
支 出	資 材 費	種子代	2,500(m\$ n)		9,000(m\$ n)
		肥料代	20,000 "		45,000 "
		農薬代	3,000	50,000	
		苗 床	1,000	3,000	
	小 計	26,500	107,000		
出	労務費	植付費	3,000	12,000	
		整地費	10,000	35,000	



区 分		加工用トマト	食用トマト	備 考	
支	労務費	収穫費	25,000 (m\$ <sub>n</sub> )	85,000	
		管理費	10,000	50,000	
		小 計	48,000	182,000	
出	その他	外注費	5,000	5,000	トラクター外注
		販売費	8,000	20,000	
		税金 (3%)	9,000	45,000	
		小 計	22,000	70,000	
合 計		96,500	359,000		
差 引		198,500 (m\$ <sub>n</sub> )	941,000 (m\$ <sub>n</sub> )		

亜国の場合、加工用トマトと食用トマトの生産割合は3：1の割合であると農牧省技師（SALTA普及員）は述べている。上表3に見る通り、トマトの利益率からすると、加工用トマト（66.1%）生食用トマト（72.3%）で、食用トマトの利益率は高いが、食用トマトの場合は、市場の制限があること、又、栽培管理が困難であることなどから大面積栽培者は加工用トマトの栽培を中心としている。

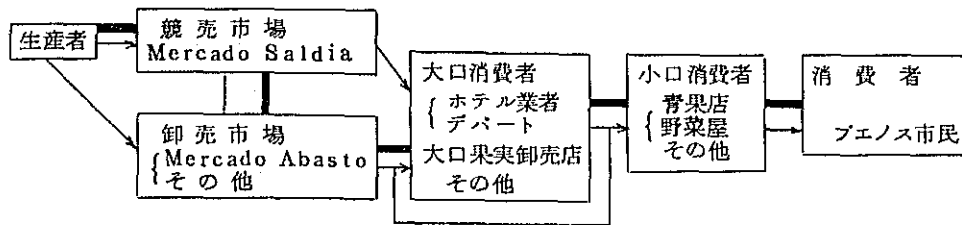
b) 亜国におけるトマト生産地から、ブエノス・アイレス市場に対する輸送方法は、その殆んどが陸上輸送（大型トレーラートラック）と汽車輸送→自動車輸送のコンビネーションにより出荷する。加工用トマトについては生産地域の加工工場にDIRECTO にトラック輸送する方法が取られている模様である。生食用トマトの主要生産地からブエノス・アイレス市場までの輸送コスト（トラック輸送の例）は次の通りである。

SALTA 県→	BUENOS. AIRES	250 ~ 320 m\$ <sub>n</sub> /箱
JUJUY 県→	"	220 ~ 280 m\$ <sub>n</sub> /箱
TUCUMAN 県→	"	200 ~ 250 m\$ <sub>n</sub> /箱
RIO NEGRO 県→	"	180 ~ 210 m\$ <sub>n</sub> /箱
SANTA FE 県→	"	80 ~ 100 m\$ <sub>n</sub> /箱

一般に20吨～30吨の大型輸送方法が取られる理由は、汽車輸送の場合には生産地から駅までトラック輸送、生産地駅からB. AIRES 駅まで汽車、B. AIRESから市場までトラック輸送となり、荷物の積み替え回数が多くなり輸送コストが高つくこと、また、積替作業回数が多くなるために商品価値が落ちることにある。

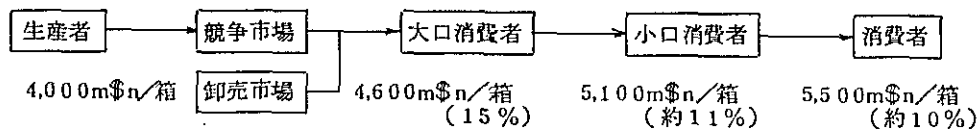
3. 亜国のトマト販売ルートとそのルート別販売価格について

a) 亜国のトマト販売ルートを見てみると次の機構によって販売されている。



ブエノス・アイレス市場を対象とするトマト大口生産者、またはトマト輸入業者のトマトは、その量が多い場合は一手に大量のトマトが販売可能な競争市場に入る。卸し売り市場に枠を持つ卸し売り人は、競争市場より荷物を買い取り、卸し売り市場に於て大口消費者に、卸し売りするケースが多い。従って、Mercado Saldiaの競争価格はMercado Abasto 価格に比較して通常低価格で取引きされている。

b) ちなみに通常の王国販売ルートを追いながら、生産者から消費者までの取引価格を見てみると次の通りである。



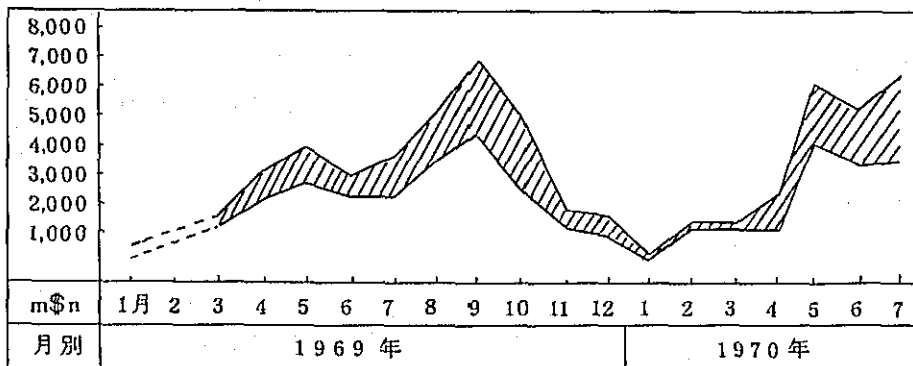
即ち、生産者売価格から消費者売価格までには 36%アップの価格となる。

#### 4. BUENOS. AIRES のトマト卸売り市場価格について

a) 王国B. AIRES市場（卸売市場）価格は、下表4のMERCADO SALDIAS競売価格グラフ（月別）に見る通り、極めて激しい価格変動を示している。

表4 MERCADO SALDIASのトマト競争価格（月平均）グラフ  
（食用トマト1級品の最高、最低価格/箱当り）

1969年度平均 { 最高 3,262 ペン/箱 } 平均 2,775 ペン/箱  
                  { 最低 2,289 ペン/箱 }



月別にみると例年冬期（8、9、10月）に価格は上る。春期に入る11月には値下りが始まり、

秋期の7月中旬頃まで価格は低調である。この動向は、B. AIRESのMercado Abastoを始めとする他の卸売市場に於ても、取引価格の差異はあっても、値動きは同様のカーブを示している。即ち、生産の難しい冬場にかけて高相場となり、生産の容易な夏場は低相場となることは当国トマト相場と類似している。

(註) ブエノス・アイレスの卸売り市場の取引価格はMercado Saldiasの競売価格がベースであり、Mercado Abastoを始めとする卸売専門市場は、Mercado Saldias 競売価格の約10%~15%高の卸売価格で取引されていると想定することができよう。

b) 食用トマトの等級別卸売価格を見てみると解る通り、等級によって価格の差は極めて大きい。

例えば、Mercado Abastos 7月14日現在の卸売り価格(箱付き)は、

食用1級品	{	最高 6,700m\$/箱	}	— 平均 5,350m\$/箱
		最低 4,000m\$/箱		
食用2級品	{	最高 4,800m\$/箱	}	— 平均 3,900m\$/箱
		最低 3,000m\$/箱		
食用3級品	{	最高 3,500m\$/箱	}	— 平均 2,750m\$/箱
		最低 2,000m\$/箱		

又、各等級別の最高・最低価格の差も相当大きい。一般にブエノス・アイレス卸売市場に於ける等級づけ(Clasicacion)の条件は、大きいこと、型、色の3点が重要視されている。例えば、食用トマト1級品の条件は、

- (イ) 粒がある程度大きく揃っていること。
- (ロ) 型ちが丸型で(変型しないもの)へタが小さなもの。
- (ハ) 色が少し赤味がでているもの。
- (ニ) くされ、又は傷(キズ)のないもの。

特にトマトは見た目が商品価値を決定するものであり、従って卸売業者の箱詰め技術は、極めて重要な意味を有している。一般にアルゼンチン国内の大規模生産者は、自己、または生産組合でトマト箱詰め専門人夫を有しており、現地で箱詰めして市場に出荷している。また、大規模生産者は、自己の名前入りのトマト箱で、出荷を行ない市場に対して、自己の"TRADE MARK"の売り込みを行なっている。

## 5. BUENOS. AIRES トマト卸売市場の荷扱い状況について

### 1) B. AIRESのトマト市場

B. AIRES のトマト市場に当国から輸出し売り込む場合、対象として考えられる市場は、B. AIRES 市営または個人経営による次の8つの大型青果物市場である。

MERCADO ABASTO — Calle Corriente y Agueru  
MERCADO RINIERA

MERCADO DORREGO

MERCADO TURDERA

MERCADO ESPINETO

MERCADO PECA

MERCADO SAN MARTIN

MERCADO SAL DIAS — Estacion Saldias PETIRO NORTE

## 2) MERCADO ABASTO 荷扱い概況

上述MERCADOの中で最大の荷扱量を示しているのは Mercado Abasto である。

a) Mercado Abasto は B. Aires 市営卸売市場である。

b) Mercado Abasto は、週間(月・火・金曜日)3日の販売日がある。

c) 現在、競売が行なわれているそ菜果実類の主要な品目は

そ菜類 — トマト、ピーマン、カボチャ、ジャガイモ、レモラチャ etc

果実類 — ナランハ、ポメロ、バナナ、リンゴ、イチゴ etc

d) 1970年7月現在の競売日1日平均のトマト荷扱量は、時期により差異があるが5千箱程度と云われる。

(註) Sr. Evaristo (Inspector General de Mercado de ABASTO)からの聞き取り調査による。

e) 販売の方法は、市場の中に仲買人(ABASTADOR)がマス(PuestoまたはCasilla)を所有し、生産者から買い取りした品物又は生産者から販売を委託された品物を自己のマスで、大口消費者を対象に販売している。

イ) 販売を委託された場合はCOMISIONISTAとして、10%のコミッションを取ることが慣習となっている。但し、現実にはコミッションにはハバがあり、得意先には6~8%にまでComisionを落して荷扱いを行なっている模様である。

ロ) 荷扱い単位は各作物とも箱を単位として扱っており、トマトの例をとって見ると大口消費者は、販売日に最低2箱から50箱程度を買取っており、大きな仲買人は(Abastador)1日に約500~1千箱の荷扱いをしている。

ハ) 各仲買人はトマトのみ荷扱いすると言うように、単一青果の扱い業者は皆無のようで、時期の青果を広く取扱っている。但し、そ菜荷扱い業者と、果実類の荷扱い業者とは市場の中で区分されている。

ニ) 仲買人は、青果の輸入業者も兼ねており、大きな業者はブラジル、またはパラグアイ国等に時期時期に進出し、買取りも行なうが、輸出国の大口生産者は信頼のおける仲買人と組んでおり、市場の状況を仲買人からキャッチして市場の品物不足時期を狙って輸出を行なっている。

(備考) 例 Sr ALADINO PETRONAVE → COOP, COTIA (BRASIL)

S r AMERICO J. MONACCI → CANESA (PARAGUAY)

S r HORACIO G. CONGOERO → NAHUEL. SA (BRASIL)

ホ) 仲買人は一般に4~5名荷扱い人夫を保有しており、生産者からの荷受けを行ないながら一方では、荷姿の調整整備(混雑物の除去、腐れ・傷物の排除・等級別に品物の規格化・箱の整備その他)を行ない、通常1級品・2級品・3級品・クズ物と4段階に商品を等級づけ、箱付価格で売買される。

へ) 仲買人(Abastador)がComisionistaとして生産者の青果物を販売した場合の生産者に対する支払方法は、委託された全生産品が売却された時点で、仲買人のComisionその他経費を差引いて生産者に請算されるのが普通であり、その場合、伝票決採方式がとられている。

ト) 仲買人は、マスを取得する場合、一般にマスの権利の譲渡が行なわれており、1マス最低400,000ペソ以上で取引されていると聞く。またMercado Abastoの場合B. AIRES市営であり、マスの所有者は月当り4,000ペソ前後の税金が設定されている。

### 3) MERCADO SALDIASの概況

Mercado AbastoをはじめとしてB. AIRES市内の大型メルカドは、その規模の差はあっても市場の様式は同じものであるが、唯一Mercado Saldiasの販売システムは「競売方式」をとっている。

a) Mercado Saldiasの経営主は、Productores de Frutas y Hortalizas S. A. C. e Iと呼び、亜国北部(Salta, Jujuy, Tucumanの3県)のそ菜・果実生産者である。Productores de Frutas y Hortalizas S. A. C. e IのDirector Juan Felix Gialcioの話によると、この市場の目的が北部の生産者保護にあり、同地区からの生産物がでる時期にはBRASILまたはPARAGUAYその他国外からの輸入青果物品はボイコットする基本方針である。

(註) 1970年7月現在、PARAGUAY, BRASIL産トマト共に持込み、競売にかけることを禁止している。

b) Mercado Saldiasの競売日は週間(月、水、金曜日)の3日間である。

c) 年間を通じて同市場で競売が行なわれる青果物品の主要な品目は

そ菜類 — トマト、ピメントン、モローネ、カボチャ、ナスビ、チャウチャ、キューリ、その他  
果実類 — スイワ、ナランハ、ポメロ、バナナ、パイナップル、リンゴ(各種共極少数)

d) Mercado Saldiasの年間荷扱量は1969年度1,897,848箱で、この内訳の概略は

1) 品種別競売量	TOMATO	—	1,130,000箱(約60%)
	PIMENTON MORONE	—	280,000箱(約15%)
	ZAPALLITO	—	195,000箱(約10%)
	CHAUCHA	—	95,000箱(約5%)
	その他	—	190,000箱(約10%)

ロ) 月別競売量	1月	3,653箱	SALTA, JUJUY産が主体  TUCUMAN産が主体	
	2月	—		
	3月	11,094箱		
	4月	64,867箱		
	5月	301,420箱		
	6月	410,665箱		
	7月	303,369箱		— 7月13日霜害
	8月	130,687箱		
	9月	70,947箱		
	10月	162,030箱		
	11月	286,297箱		
	12月	152,813箱		

e) 競売の方法は、Mercado Sardinias が公認の競売人 (REMATADOR) が生産者に商品の競売を委託されて競売する方法がとられる。

(イ) 競売人に対するコミッションは通常、競売落札額の10%と規定されている。

(ロ) 競売商品については、場所代として1箱について1日120ペソの経費を支払う。

(ハ) 競売品の決済については、買手(落札者)が信用のおける実績のある買手であれば、落札伝票に署名し(30日以内)の手形決済を行なっているが、実績のない買手の場合は現金買いを強要する。

(註) 現在、同市場にトマトを出荷しているMISIONES州EL DORADO 佐藤氏の話しによると、B. AIRES に代理人を持たない場合は、集金は相当困難であり、未収が残る危険性があると云っている。

## II 亜国ブ。アイレス市場に対するパラグアイ産トマトの輸出の可能性について

### ● 1. パ国産トマトの輸出概況について

a) パ国中央銀行の"BOLETIN ESTADISTICA MENSUAL"の資料によると、1961年度より1969年度までの亜国市場向け生食用トマトの輸出状況は次表5の通りである。

表5 パ国産トマトのブ。アイレス市場向け輸出および輸出金額表 (Ton/1,000\$)

年度	1961	1962	1963	1964	1965	1966	1967	1968	1969
区分									
輸出量(t)	1	1	—	96	195	495	1,038	1,905	1,380
輸出額(1千\$)	0.05	0.09	—	11	30	81	80	185	158.7
ton 当 価 格	0.050	0.090	—	0.1145	0.1538	0.1636	0.0771	0.0971	0.115

(註) 輸出額は、F.O.B ASUNCION価格である。

表に見る通り、パ国産トマトの亜国ブ。アイレス市場向け輸出量は、年々増大してきている。輸

出額については一般に当国からの輸出が相手国輸出業者との間のL.O開設方式による為、現行の中銀課税対象額の最低額0.09 \$/ton と設定しているために実際のトマト輸出取引額とは差異がある。

- b) ここ最近2ヶ年間の月別輸出トマトの状況を見ると、当国からのブ、アイレス市場向けトマト輸出は、時期的に見ると冬期(8, 9, 10月)の冬作トマトにしぼられている。即ち、前表4のブ、アイレス卸売市場の高揚時期を狙ってパ国产トマトが出荷されている。

表6 パ国产トマトのブエノス・アイレス市場向月別輸出品表(1968~1970年7月現在)

年度 月別	1968年度		1969年度		1970年度	
	箱数	Kg	箱数	Kg	箱数	Kg
7月	—	—	—	—	(200)	( )
8月	20,977	450,240	36, —	—	( )	( )
9月	14,103	310,760	36,075	769,585	( )	( )
10月	47,610	1,017,220	25,449	586,280	( )	( )
11月	—	—	900	24,300	( )	( )
計	82,690	1,778,220	62,424	1,380,165	200	

(資料) 農牧省植物検疫局資料

1969年度に於いては、亜国北部(SALTA, JUJUY, TUCUMAN)の霜害が7月12日にあり、8月、9月にブ、アイレス市場価格が急揚したことから当国輸出は9月から開始された模様である。1968年度はRIO NEGROの水害被害およびSALTA, JUJUYの7月上旬の降霜被害によるものと判断する。当国冬作トマトと競合するSALTA県, JUJUY県, TUCUMAN県地域は、年々栽培面積は少量づつ上昇して来ているが、例年霜害による被害はのがれられない現状にある模様である。従って、当国のトマト輸出は亜国北部地方の霜害の時期、霜害の大きさの大小によって、ブ、アイレス向けトマトの輸出時期と輸出品、市場価格が決定されると云えるが、あとひとつ、予想が難しいファクターとなっているのは、BRASIL産輸出トマトである。現状ではブラジル産トマトはCoop, GOTIA等の大口生産者からの時期的出荷であるが、輸出単位が1船40,000箱程度の大口出荷であり、市場に対する大きな影響力を有しており、当国輸出トマトの最大の競争相手である。

- c) 1969年度におけるパ国产輸出トマト取扱業者をリストアップして、その取扱量を示したのが、次表7である。これらトマト輸出業者として登録されている業者の中には、COOP, HORTIFRUT PARAGUAYA S. A (CANESA)のような当国の輸出業者は少なく、例えば、ROMULO SARGETTI (PETRONAUES)の如く、アルゼンチン輸入業者(ソノ殆んどが卸売市場ノ ARASTADOR)に名義を借しているものが多い。

表7 1969年度パ国輸出トマト取扱業者別、取扱量表

輸 出 業 者	箱 数	Kg
9 月		
COOP. HORTIFRUT PARAGUAYA	17,320	346,400
IND. CITRICA PARAG. SA	4,250	97,750
NOBUHARU SATO	3,600	72,000
NAYIB ALMELES	3,100	74,400
ROMILO PIRIO	1,285	29,025
CAMPINAS SRL	1,450	25,250
MIRIAN DE GONZALEZ	700	16,100
FABIAN STORNI	1,129	27,600
ROMULO SARGETTI	600	13,800
RAFAEL FERRIRA	2,515	64,350
ALEJANDRO VALLEJOS	126	2,910
計	36,075	769,585
10 月		
COOP. HORTIFRUT PARAG.	7,050	163,900
NAYIB ALMELO	2,450	58,800
RAMON FLORENTIN	700	14,000
NOBUHARU SATO	2,900	58,000
IND. CITRICA PARAG.	5,500	126,500
CAMPINAS S.R.L	1,450	29,000
MIRIAN DE GONZALEZ	1,700	40,500
RAFAEL STORNI	1,009	25,240
FEORGIO F. GODOY	100	2,500
計	25,449	586,280
11 月		
RAFAEL FERRIRA	900	24,300
計	900	24,300

2. パ国産トマトのブ. アイレス市場向け輸送ルートについて

- a) 当国トマトをアルゼンチン、ブ. アイレス市場向け輸出する場合の輸送ルートとして考えられる方法は次の3方法である。

飛行機輸送方法    自動車輸送方法    汽車輸送方法

この3つの方法を具体的に検討してみると、

(1) 飛行機輸送方法

トマト輸送を行なう飛行機会社は次の2社であり、その輸送能力は次の通りである。



航空会社名	週間便数	1回の輸送量	輸送料金(Bs~Asu)	輸送時間	備考
BRANIF	2回(土・日)	1,000 Kg 最高	26.46Gs/Kg	1.30h	到着空港 CEISA
LAP	6回(日隔除)	2,500 Kg #	10Gs/Kg	2.10h	" "

TAN(チャーター料)

(註) 輸送ルート アスンシオン→ブエノス CEISA→ブエノス市場

(註) 飛行機輸送の利点と欠点

- イ. 利点 — 短時間で輸送が可能であること。
- ロ. 欠点 — 輸送料金が高くつくこと。
  - 1回の輸送量が少量であること。
  - 到着空港がブ. アイレス市外となり、再度トラック輸送となる為、輸送上品質を損害する場合が多い。
  - 飛行機輸送は短時間で積み込み、積下しを行なう必要があること、又、キャビンが円型である為、積荷の破損が多い。

(2) 自動車輸送方法

トマト輸送を自動車で行う場合大手輸送会社 3社の輸送能力は次の通りである。

輸送会社名	稼動トラック数	1回の輸送量	輸送料金(ASU~BS,As)	輸送時間	備考
NIFON YUSEN	11台	23 ton 車	3.15Gs/Kg (25Gs/t)	48hs	1車=25\$×23 =575\$
MARTIN FIERRO	約20台	20 ton 車	8.50Gs/Kg (8,500Gs/t)	30~ 40hs	1車=455\$= MINIMO
UNION SANTAPECINO					

(註) 輸送ルート アスンシオン→クロリンダ→レジステンジャ→サンタフェ→ブ.アイレス(市場)

自動車輸送の利点と欠点

- (利点) — 比較的短時間で輸送が可能であること。
  - 輸送料金が安価であること。
  - 積替し回数が少ない為に荷破損が少ないこと。
  - 大量の輸送が可能である。

(欠点)

△ 問題点 1) 1970年8月5日現在、亜国側はトマトの輸入を許可し、陸上輸送を8月末迄の期間許可しているが、トマトトラック輸送の最適な輸送ルートである。アスンシオン→クロリンダ経由輸送ルートは、クロリンダに亜国植物検疫所を設置していない為に実質上輸送ができない状況である。

昨年は9月末に FORMOSA 植物検疫所係員をクロリンダに派遣して、輸入トマトの植物検疫が行なわれた。

- ロ) 先週、農牧大臣 ING, BERTONY が亜国政府を訪問した折、陸上輸送許可を9月末まで延期すること、及びクロリндаに植物検疫所を設置することを要請した。亜国側はこのことについて承認したが、未だ正式な通知はないとのことである。
- ハ) アスンシオン → エンカル → ポサーダス経由はバルサの都合で大型20屯～30屯車は輸送不可能である。

(3) 汽車輸送方法

トマト輸送を汽車で行なう場合、当面考えられる国際列車の輸送能力は次の通りである。

	週間便数	1回の輸送量	輸 送 料 金	輸 送 時 間	備 考
国際列車	3 回	30屯/1車 (註) 5台迄使用可能	2,43Gs/Kg ASUN～ENC - 1,789ペソ/Kg ENC～Bs, As - 5,936ペソ/Kg	3～4日	
			計 7,725ペソ		

(註) 輸送ルート アスンシオン→エンカル→ポサーダス→ブエノス(URGUI SA)→ブエノス市場

汽車輸送の利点と欠点

- (利点) — 大量の輸送が可能であること。  
— 輸送料金が安価であること。
- (欠点) — 輸送時間が極めて長くかゝる為にトマトの品質管理ができないこと。  
— 荷の積替え作業の回数が多い為に荷物の破損が多いこと。

3. 本国産トマトのブ. アイレス市場輸出の為の荷作りについて

a) 輸出用トマトの荷作り調整について

一般に当国からブ. アイレス市場に出荷するトマトは、荷姿が悪いとの評判がある。これは、ブ. アイレスのトマト市場に精通した箱詰め技術者がいないことにより、当国輸出トマトの殆んどは、ブ. アイレス市場の VENDEDOR の手によって再度荷姿の調整・整備を行なっている状況である。特に、汽車輸送による場合は、出荷調整後ブ. アイレス市場にでるまでに、約5～7日の期間を要する為に、トマトの熟れが異なってくる為ブ. アイレス到着時に、再調整を必要とする場合もある。

(註) 亜国主要生産地からの出荷トマトは、そのほとんどが生産地にて完全な箱詰めを行なって出荷されている。

b) 輸出用トマト箱について

一般にブエノス・トマトの出荷用木箱は、ユーカリ材が多く、材質が白色であるために清潔感があること、軽いこと、釘通しが容易であること、レットルが明確に見えること等の利点を有し、極めてトマトの商品価値を高めることに役立っている。アルゼンチンに於けるトマト箱価格は、新箱

270ペソ/箱、古箱200ペソ/箱で取引されている。又、当国のトマト箱は主にガタンブ、チンボ材の箱が多いが、ガタンブは釘通しが悪く、チンボ材の箱は仕上りの色が悪い。箱の価格は、新箱50~55Gs/箱、古箱40Gs/箱で取引されている。

4. パ国産トマトのブ。アイレス市場向け輸出の為の輸出手続きについて

ブエノス・アイレス市場に対するトマト輸送を行なう場合の輸出手続きを順を追って見ると次の通りである。

輸出国側(パラグアイ国側)

- 1) 輸出入登録 .....商工省 }  
.....税 関 } 輸出人として登録する。  
.....農牧省 }
- 2) 銀行手続 ..... 中 銀  
.....取引銀行にてL.C開設 (Banco Nac, Argentina)
- 3) 輸出手続(通関人) ..... Banco Nac, Argentina - Imp A La Renta - Facturacam.
- .....大 蔵 省 { — Derecho Fiscal №12112  
..... — Rep. Comercial
- .....中央銀行 — Decreto 18784/66
- .....港務管理局 — Taza Poruaria
- .....商工会議所 — Comp. №1774
- ..... 亜国領事館 — Visacion Consural
- .....農 牧 省 { — Certificado de Sanidad  
..... — Verificacion de Embarque
- .....税 関 — Permiso de Exportacion

輸入国側(アルゼンチン国側)

- 1) 輸入人登録 —
- 2) 銀行手続 — 経費 700箱/1車分 35,000ペソ
- 3) 輸入手続 — 通関人(クロリンダ)

当国からの輸出手続きに要する日程は、約2日と見られている。一方、亜国側の輸入手続(主にクロリンダの手続)は、当国側の輸出書類が完備して後、約2分ノ1日と云われる。

5. パ国産トマトのブ。アイレス市場向け輸出に要する経費について

当国からのブ・アイレス向けトマト輸出を行なう場合のコストを各輸送方法別に見てみる。

- その前提条件として ◎ 輸送方法 —
- トラック輸送 700箱=(17,500Kg箱込 NETO 14,000Kg)
  - 汽車輸送 700箱=(17,500Kg箱込 NETO 14,000Kg)
- ◎ 輸送ルート — トラック輸送 アスンシオン→クロリンダ→  
ブ。アイレス市場

表8 各輸送方法別輸出トマト経費積算表

(単位 Gs)

経 費 区 分	トラック輸送 (Gs)	汽 車 輸 送 (Gs)	備 考
1. 輸出諸経費	( 24,688 )	( 24,688 )	14 ton × 90 \$ = 1,260 \$
Gasto de la Embarque	5,757	5,757	
Derecho Fiscal	1,558	1,558	
Repocicion Comercial	468	468	
Tasa Portuaria	2,752	2,752	
Decreto 18784/56	1,558	1,558	
Gasto Visacion (商工会議所)	250	250	
Gasto Visacion Consural	1,023	1,023	
Gasto de Visacion Comescial	2,382	2,382	
Gasto de Verificacion	1,500	1,500	
Certifhcado Sanidad	1,180	1,180	
Gasto de Verif, Sanidad	1,200	1,200	
Gasto de Telegrama	580	580	
印紙・その他	480	480	
通関入手数料	4,000	4,000	
2. 輸出トマト荷作費その他	( 65,550 )	( 65,550 )	
荷作り人夫賃	20,000	20,000	箱詰人夫賃及び荷積人夫賃
チケット用紙購入費	1,050	1,050	700枚 × 1.5
箱 購 入 費	35,000	35,000	700箱 × 50
アランブレ・釘購入費	3,500	3,500	700箱 × 5
その他の経費	6,000	6,000	製材所一倉庫までの運賃
3. 輸 送 運 賃	( 57,330 )	( 72,990 )	
アスンシオン〜プ. アイレス	57,330	72,990	汽車輸送—2,433Gs/屯 × 30屯 トラック輸送—25\$/ton車 (日本郵船の特別価格)
4. 亜国側諸経費	( 29,228 )	( 30,644 )	
輸入通関諸経費	12,000 (クロリンダ)	9,000 (ボサーダ)	ボサーダ—28,500ペソ/回 クロリンダ—38,000ペソ/回
銀行L〇開設費	1,000	1,000	
販 売 税	5,500	5,500	
保険料(輸送)	2,000	2,000	
ブエノス駅—市場	—	4,416	700箱 × 20ペソ = 14,000ペソ
市場荷下し人夫賃	3,312	3,312	700箱 × 15ペソ = 10,500ペソ
市場持込権利金	4,416	4,416	700箱 × 20ペソ = 14,000ペソ
その他の経費	1,000	1,000	通信費その他(市場ニュース提供費)
合 計 (Gs)	176,796	193,872	

(資料) Super Mercado 資料および通関人 Godoy 事務所提供資料による。

汽車輸送 アスンシオン → ポサーダス →  
ブエノス(Urquiza) → プ市場

◎ 課税対象額 — トラック輸送 — AFORO 額 90\$ / Ton

AFORO MINIMAM 0.09\$ / Kg

従って、トラック輸送と汽車輸送別の1箱当りの輸出経費を試算すると、

トラック輸送による場合  $176,796Gs \div 700箱 = 252.5Gs/箱$

汽車輸送による場合  $193,872Gs \div 700箱 = 277Gs/箱$

さて、例えば1969年度に於けるブエノス市場の1級品食用トマト年間平均価格(2.775m\$/箱)でVendedorに販売を委託した場合の試算は

トラック輸送の場合(売価)

$2,775m\$n/箱 = 875Gs/箱$

△ 10%手数料 = 87.50Gs/箱

△ 輸出諸経費 = 252.5Gs/箱

差引計 535Gs/箱  $Kg当 535Gs/24Kg = 22.3Gs/Kg$

汽車輸送の場合(売価)

$2,775m\$n/箱 = 875Gs/箱$

△ 10%手数料 = 87.50Gs/箱 (Vendedor手数料)

△ 輸出諸経費 = 277Gs/箱

差引計 510.5Gs/箱  $Kg当 510.5Gs/24Kg = 21.27Gs/Kg$

(註) 但し、この価格は生産者がExportador となって輸出した場合を想定したもので、輸業者あるいは、農業協同組合が取扱料として、生産者手取り価格の5%を取った場合は

トラック輸送の場合の生産者トマト価格

$22.3Gs/Kg - (22.3Gs/Kg \times 5\%) = 21.19Gs/Kg$  手数料 1.11Gs

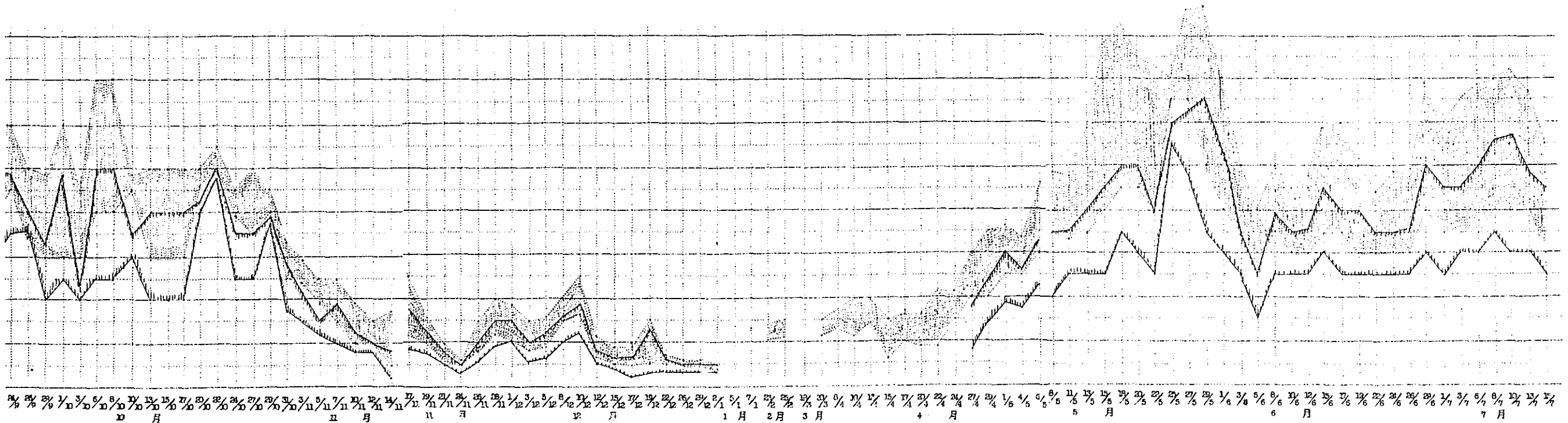
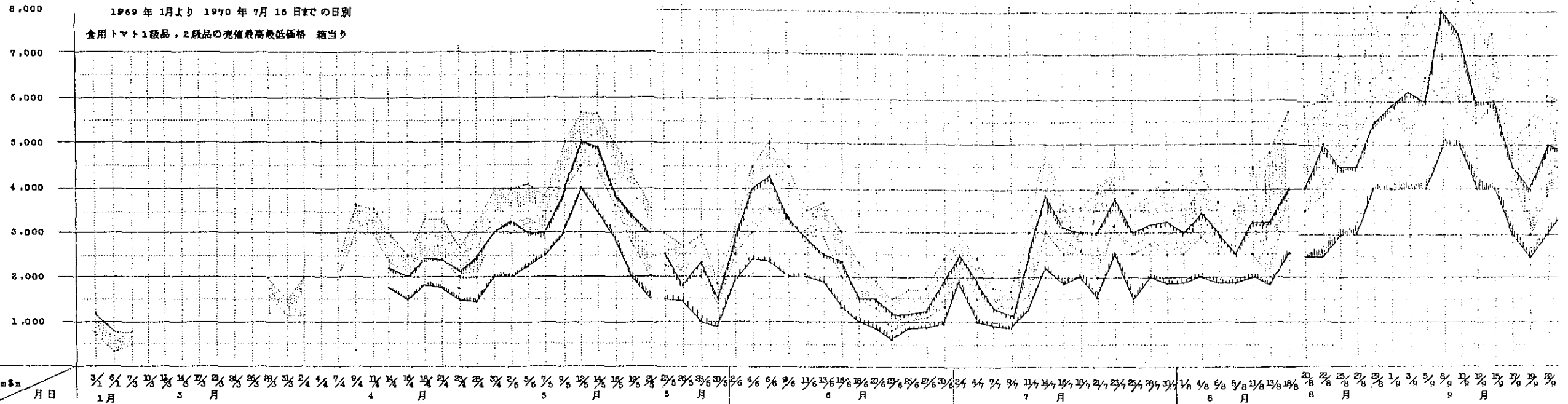
汽車輸送の場合の生産者トマト価格

$21.27Gs/Kg - (21.27Gs/Kg \times 5\%) = 20.21Gs/Kg$  手数料 1.06Gs

#### ■ パ国冬作トマトを亜国Bs. As 市場に輸出する為の予備調査の結論

1. 近年、アスンシオン近隣日系入植者、パ国人農家の冬作トマト生産は急激に伸張してきている。当国国内市場が極めて狭あいであることから、生産増は冬期国内市場にハン澁し低価格を呈する為、亜国ブエノス市場を開発しなければならないが、この予備調査の結果、冬期ブ。アイレス市場は亜国北部(SALTA, JUJUY, TUCUMAN等)の生産と密接な関係があり、一言にして云えば、北部の生産トマトに及ぼす寒害(特に霜害)の状況によって決まる。但し、霜害により亜国生産が減少しても当国産トマトの独占市場とは楽観視できず、ブラジル産トマトは当国トマトの強敵であることは注視すべきである。

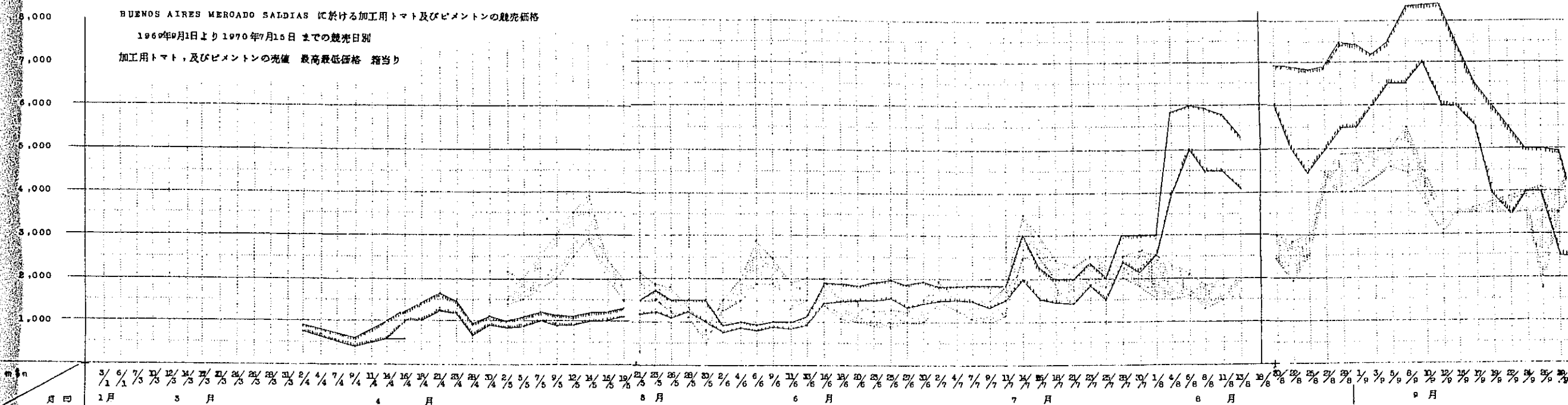
BUENOS AIRES, MERCADO BALDIAS に於けるトマト販売価格グラフ



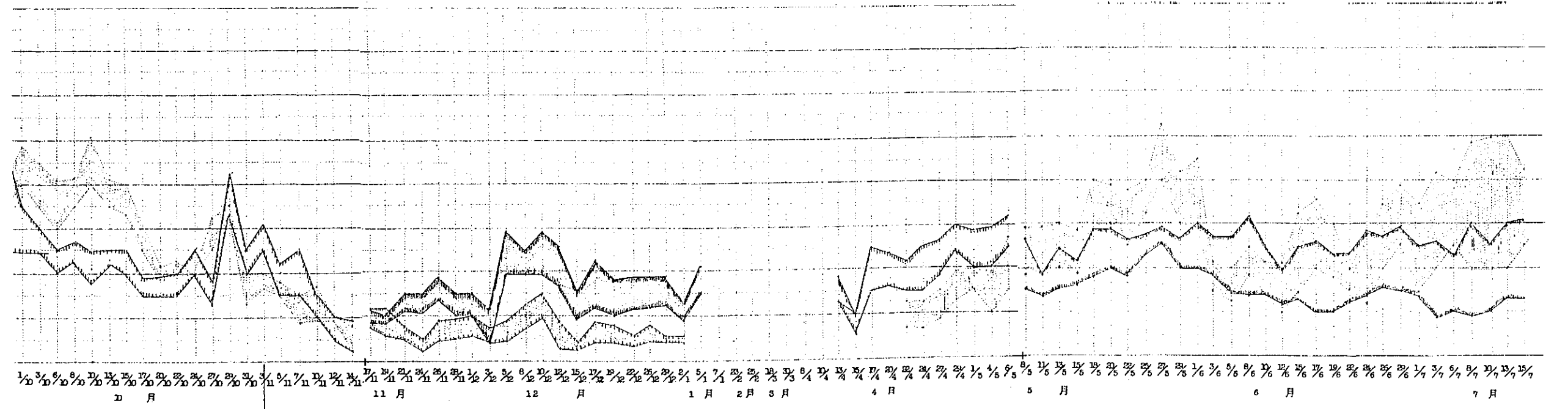
BUENOS AIRES MERCADO SALDIAS に於ける加工用トマト及びピメントンの競売価格

1969年9月1日より1970年7月15日までの競売日別

加工用トマト、及びピメントンの売値 最高最低価格 箱当り

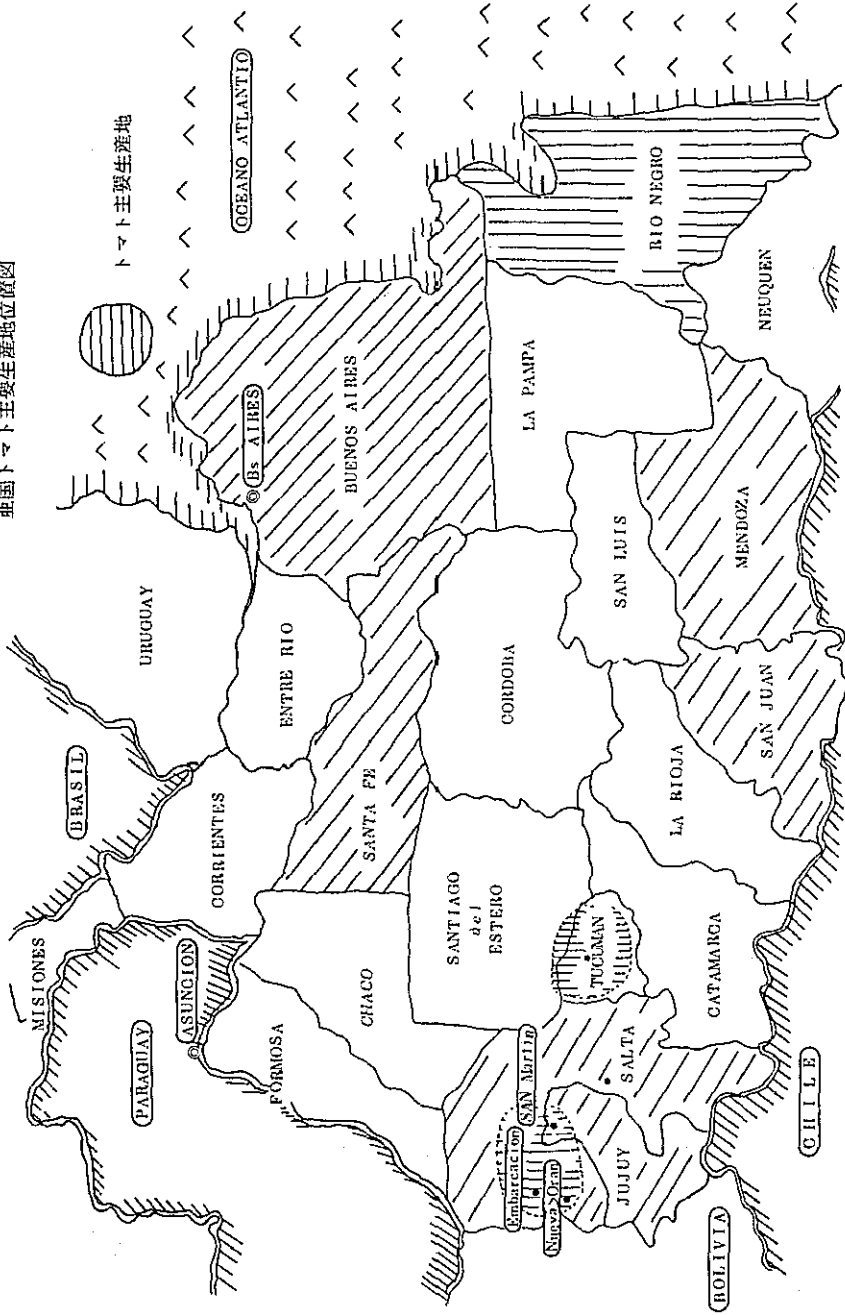


日 3/1 6/1 7/3 12/3 13/3 14/3 15/3 16/3 17/3 18/3 19/3 20/3 21/3 22/3 23/3 24/3 25/3 26/3 27/3 28/3 29/3 30/3 1/4 2/4 3/4 4/4 5/4 6/4 7/4 8/4 9/4 10/4 11/4 12/4 13/4 14/4 15/4 16/4 17/4 18/4 19/4 20/4 21/4 22/4 23/4 24/4 25/4 26/4 27/4 28/4 29/4 30/4 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5 6/5 7/5 8/5 9/5 10/5 11/5 12/5 13/5 14/5 15/5 16/5 17/5 18/5 19/5 20/5 21/5 22/5 23/5 24/5 25/5 26/5 27/5 28/5 29/5 30/5 1/6 2/6 3/6 4/6 5/6 6/6 7/6 8/6 9/6 10/6 11/6 12/6 13/6 14/6 15/6 16/6 17/6 18/6 19/6 20/6 21/6 22/6 23/6 24/6 25/6 26/6 27/6 28/6 29/6 30/6 1/7 2/7 3/7 4/7 5/7 6/7 7/7 8/7 9/7 10/7 11/7 12/7 13/7 14/7 15/7 16/7 17/7 18/7 19/7 20/7 21/7 22/7 23/7 24/7 25/7 26/7 27/7 28/7 29/7 30/7 1/8 2/8 3/8 4/8 5/8 6/8 7/8 8/8 9/8 10/8 11/8 12/8 13/8 14/8 15/8 16/8 17/8 18/8 19/8 20/8 21/8 22/8 23/8 24/8 25/8 26/8 27/8 28/8 29/8 30/8 1/9 2/9 3/9 4/9 5/9 6/9 7/9 8/9 9/9 10/9 11/9 12/9 13/9 14/9 15/9 16/9 17/9 18/9 19/9 20/9 21/9 22/9 23/9 24/9 25/9 26/9 27/9 28/9 29/9 30/9



日 1/10 3/10 5/10 8/10 10/10 12/10 13/10 14/10 15/10 16/10 17/10 18/10 19/10 20/10 21/10 22/10 23/10 24/10 25/10 26/10 27/10 28/10 29/10 30/10 1/11 2/11 3/11 4/11 5/11 6/11 7/11 8/11 9/11 10/11 11/11 12/11 13/11 14/11 15/11 16/11 17/11 18/11 19/11 20/11 21/11 22/11 23/11 24/11 25/11 26/11 27/11 28/11 29/11 30/11 1/12 2/12 3/12 4/12 5/12 6/12 7/12 8/12 9/12 10/12 11/12 12/12 13/12 14/12 15/12 16/12 17/12 18/12 19/12 20/12 21/12 22/12 23/12 24/12 25/12 26/12 27/12 28/12 29/12 30/12 1/1 2/1 3/1 4/1 5/1 6/1 7/1 8/1 9/1 10/1 11/1 12/1 13/1 14/1 15/1 16/1 17/1 18/1 19/1 20/1 21/1 22/1 23/1 24/1 25/1 26/1 27/1 28/1 29/1 30/1 1/2 2/2 3/2 4/2 5/2 6/2 7/2 8/2 9/2 10/2 11/2 12/2 13/2 14/2 15/2 16/2 17/2 18/2 19/2 20/2 21/2 22/2 23/2 24/2 25/2 26/2 27/2 28/2 29/2 30/2 1/3 2/3 3/3 4/3 5/3 6/3 7/3 8/3 9/3 10/3 11/3 12/3 13/3 14/3 15/3 16/3 17/3 18/3 19/3 20/3 21/3 22/3 23/3 24/3 25/3 26/3 27/3 28/3 29/3 30/3 1/4 2/4 3/4 4/4 5/4 6/4 7/4 8/4 9/4 10/4 11/4 12/4 13/4 14/4 15/4 16/4 17/4 18/4 19/4 20/4 21/4 22/4 23/4 24/4 25/4 26/4 27/4 28/4 29/4 30/4 1/5 2/5 3/5 4/5 5/5 6/5 7/5 8/5 9/5 10/5 11/5 12/5 13/5 14/5 15/5 16/5 17/5 18/5 19/5 20/5 21/5 22/5 23/5 24/5 25/5 26/5 27/5 28/5 29/5 30/5 1/6 2/6 3/6 4/6 5/6 6/6 7/6 8/6 9/6 10/6 11/6 12/6 13/6 14/6 15/6 16/6 17/6 18/6 19/6 20/6 21/6 22/6 23/6 24/6 25/6 26/6 27/6 28/6 29/6 30/6 1/7 2/7 3/7 4/7 5/7 6/7 7/7 8/7 9/7 10/7 11/7 12/7 13/7 14/7 15/7

亜国トマト主要生産地位図





2. ブエノス卸売市場に於けるトマト価格は、日々極めて大きな変動があり、市場の動向に機敏に反応して最高価格で販売することを目標としなければならないが、その為にはバ国日系人の優良トマトが市場に於けるTrade Mark とならなければならないし、消費者の要求に答える量と質をまとめなければならない。
3. 従来、バ国トマト生産者は、生産から販売まで一環することを理想としながらも、所謂ブ、アイレス市場にまで手が届かず、輸出業者に庭先販売、委託販売（1969年度）方法で取引してきたもので、近年、アスンセーナ農協、ジョボイラ農協、コルメナ農協を始めとする生産者側から、日系トマト生産者の一本化によるブエノス市場進出の声が強いが、残念ながら本年度にトマトを輸出し、ブエノス市場にて PUESTO を持ち直販することは、ブエノス市場の動きを完全に把握していないだけに現段階では危険であると見られる。
4. 従って本年度は第一段階として、生産者団体が Exportador として市場に荷物を持ち込み、信頼の於けるブエノス市場の Vendedor に販売を委託することからスタートすべきと思う。但し、生産者が一番問題に感じている Vendedor の決採方法については、これをチェックする Vendedor チェッカーシステムを取ることは考えられよう。
5. 生産者団体が Exportador として荷扱いを行なう場合、最低輸出単位1車700箱の輸出を行なう場合、最低輸出資金は、輸出経費 20,000Gs、トマト前払金 170,000Gs（半額前払い）計 370,000Gs 程度の資金の準備を要する。また、輸出人（Exportador）として、集荷調整、輸出通関手続、輸送手配等は、相当煩雑な事務処理と、青果物だけに敏速な処置を要するので、この仕事に長い経験を有する Super Mercado の協力を求めることも一考であろう。
6. 過去のブ、アイレス市場の冬作トマト市場価格から推定すると、冬期8月末から11月中旬までは値上りカーブを描いており、本年度もアルゼンチン北部は6月下旬～7月上旬にかけて霜害を受けており、例えばブラジル産トマトとの競合があったとしても、当国の品質優良な1級品食用トマトならば1箱当り 2,250 m\$<sub>n</sub>/箱～2,300 m\$<sub>n</sub>/箱 の平均価格で販売できると思われる。即ち、生産者が念頭としている庭先手取り 15Gs/Kg は確保可能であろう。
7. さて、このトマト輸出を実施するに当って解決を要する問題点を例証すると  
問題点

a) 亜国側がバ国産トマトの輸入を制限していること。

（註）現在のところバ国産のトマトの輸出は、許可されておらず、亜国側では8月末より輸入を許可すると云っているが未定。本件、バ国政府を通じて亜国政府にブッシュを要する。

b) 当国からのブ、アイレス市場に対する最適の輸送ルートであるクロリンダ経由輸出が、クロリンダに植物検疫所が設置されていない為に実際に輸出手続きが行なえないこと。

（註）本件、バ国政府より要請中であるが、再度バ国政府を通じて亜国政府にブッシュを要する。

c) 現在、個々別々にある日系トマト生産販売組織を一本化して、対ブエノス・アイレス市場輸出体制を確立しなければならないこと。

(註) 本件、早期に各生産者団体が会合を持ち、トマト輸出組織の一本化を進める要あり。

d) ブ。アイレス市場のトマト市場価格の値動きを敏速にキャッチしなければならないこと。

(註) 本件については、三井商事の Bs. AIRES ～ ASUNCION 間テレックスの使用が可能と思われる。

e) ブ。アイレス卸売市場に於いて、販売能力があり、且つ信頼のおける Vendedor を撰定しなければならないこと。

(註) Mercado Abasto の日系人販売人(伊勢田真美)とのコネクトも一考されよう。

## VI Bs. AIRES ソ菜果実市場開発に対する一考察

1970年7月、日系ソ菜農家の生産作目の中心である、トマト作目の市場開発を積極的に進めるために「パ国冬作トマトを亜国Bs. AIRES 市場に輸出するための調査」を実施するとともに、亜国Bs. AIRES 冬期市場に対する日系トマト生産者の組織化輸出による市場開発を指導して来た。残念ながら、本年度の輸出状況を総体的に見ると

- i) 輸出組織化の一本化が図れず、荷扱量が不足して、経済的かつ合理的な輸送、荷造り、販売が出来なかったこと。
- ii) 輸出組織化が遅れたこと、合せて亜国政府側のクロリダ開港許可の遅れにより、Bs. AIRES 冬期市場への輸送出荷時期を逸したこと。
- iii) 輸出準備体勢の不足(輸出用箱、荷造り用倉庫整備、荷造り人夫の募集等)から来るロス。
- iv) 輸出トマトの選別、集荷等に対して、生産者自身の知識と自覚に欠け、不良品の集荷等から来るロス。
- v) 生産地から集荷地の連絡、又Bs. AIRES 市場との連絡、情報収集が悪かったこと。
- vi) 特に本年度Bs. AIRES 冬期市場は全般的に低調であったこと等々から、当初予想していた程の実績をあげ得なかったが、一方生産者自身が輸出を行った実績と自信が生まれたこと、又、Bs. AIRES 市場開発に対するマインドが出来たことは貴重な収穫であった。

勿論、目標とする日系ソ菜農家の経営の安定化を図るためには、当面の生産主体である冬作トマト生産を中心に、Bs. AIRES 市場開発のベースを作らなければならないが、年次、当国の有利な自然的条件と日系ソ菜農家のもつ高度なソ菜栽培技術を生かした多角的なソ菜類生産を図り、次第に長期的経営の安定化を図り得る果樹類生産へと移行すべきと考える。

従って本年度に於ける冬作トマトのBs. AIRES 市場出荷を契機にして、冬作トマト作目以外のソ菜類、果樹類、市場の開拓を今後とも進めて行かなければならないものであり、その意味から、手もとにある資料をとりまとめ、Bs. AIRES ソ菜市场開発の一考察とするものである。

### I Bs. AIRES 市場開発が可能なソ菜類及び果樹類品目の選定条件と方針について

(i) Bs. As. 市場出荷品目選定の前提条件と出荷基本方針

Bs. AIRES 市場開発が可能なソ菜類及び果樹類品目選定の基本的な条件は、

一当国の自然条件を有利に生かすことが出来る作目

一当国日系ソ菜・果樹農家のもつ地域性と組織力により、計画生産、計画出荷を図ることにより有利な生産と市場開発が出来る作目

一当国日系ソ菜・果樹農家の有する高度な栽培技術を生かすことが出来る作目

の3条件であると考え。当面こころ、二年間は、輸出組織の確立と生産組織の強化に重点を置いて「生産基盤、販売基盤の確立」を図り次年出荷期間の拡張、出荷量の増大を図るべきである。

従って本年度（1971年度）のBs. AIRES 市場出荷方針は、

一冬作トマト輸出組織化の確立（一本化）を図り、中心となる冬作トマトの計画生産、計画出荷を行い、

一この冬作トマト輸出組織と輸出ルートを活用し、Bs. As. 市場性の高いトマト以外のソ菜類数品目を選定し、最低経済輸出単位量を目標として生産出荷を進め、

一将来Bs. As. 市場出荷が有望視出来る、他のソ菜類、果樹類品目については、可能な限り試験的出荷を実施する。

の方針で進めるべきと考える。

(ii) 1971年度の出荷品目選定と出荷方針

従って、1971年度最低経済輸出単位量を目標として選定するソ菜類品目は、

一Bs. AIRES 市場に於いて平均的高価格を呈する冬期市場（7月、8月、9月、10月）に出荷出来る品目

一Bs. AIRES 市場に出荷されているソ菜品目と比較して品質、価格面に対抗出来る品目で栽培技術上輸出単位となる量産が可能な品目

一当国からの経済輸送方法である陸上、汽車輸送により、荷いたみ、品質低下が少ない品目、かつ鮮度が勝負する品目であれば、高い航空輸送コストに耐え得る品目

一輸出箱、荷造り、輸送等が冬作トマトと同様の施設、事業組織、輸出ルートを利用出来る品目を選定し、特に1971年度は最低経済輸出単位量を目標として輸出するとは言え、或る程度試験的要素も含むので市場性から見た安全性の高い品目2～3品目にしほり、経済効率化を計るべきと考える。

又、1971年度に試験的出荷を実施する品目は、ソ菜類品目のみに限らず、果樹類品目も加え、前述した1-(i)作目選定基本条件から見て、有望視出来る品目を積極的に試験出荷して、

一Bs. AIRES 市場の各品目の市場性（品質管理、出荷量、販売量、出荷時期、価格変動、その他）を調査、研究する。

一Bs. AIRES 市場への荷造り方法、輸通関状況、輸出方法について調査、研究する。

一Bs. AIRES市場状況，輸出状況等を参考にし、当国生産方法（採算ベースに乗る栽培管理方法）を研究する。

このことは、1972年以後当国日系人生産野菜果実類の長期的市場開発計画を樹立するに当たっての品目別、生産計画、出荷計画設定のための具体的かつ積極的な調査研究を意味するものである。

## II Bs. AIRES市場出荷が可能と見られる、野菜類、果実類品目の検討事項について

### (i) Bs. AIRES市場への出荷可能性品目

前述の選定条件をベースとして、過去市場出荷経験、又当国での生産栽培実績等を整理し、下表9のとおり、当国からBs. AIRES市場進出が可能と見られる、野菜類・果実類品目をピックアップして検討して見ると野菜類品目の中では昨年度輸出実績のある冬作トマトが、生産販売部面ともに最高困難な輸出品目と見られ、この経験を活用すれば、他の品目の輸出はそれ程困難とは思えない。むしろ市場性から来る、採算性に問題があると見られる。果実類についてはイタリアブドウ、パイナップル、ガジャワ等Bs. AIRESの市場性は有望視出来る作目であり（柑キツ類の様に柑キツカイヨウ病問題から亜国側が輸入禁止している品目もあるが）、むしろ長期的作目であるだけに、輸出単位となる生産計画をいかに進めるかに問題がある。

### (ii) Bs. AIRES市場における取り引き価格の状況

果実類関係のBs. AIRES市場性についての調査は今後の課題とし、当面急務となっているこれら野菜類品目についてBs. AIRES二大市場であるMERCADO ABASTO, MERCADO SALDIAに於ける、最近2ヶ年間の市場動向を見てみると、総体的に8月、9月をピークとして冬期市場に高騰する野菜品目である。特にこれらの野菜類品目の中から、1971年度Bs. AIRES市場出荷方針に基づき、トマト品目以外の野菜輸出品目を具体的に選定するに当たって、輸出上のネックとなっている。集荷、荷造り調整（生産地から集荷地への輸送、箱づめ荷造り調整）及び国外輸送（Bs. AIRESへの輸送手段、輸送コスト、輸送時の品質管理）が容易に出来、かつ輸送市場単位を対象とした計画生産、計画出荷が可能な品目であることを条件とするならば、野菜品目の中ビメントン、モローネ、チャウチャの3品目を来年度の輸出可能品目として選定することを推呼する。

### (iii) 出荷時期の設定とその時期の市場取引価格の状況

1970年度に実施した冬作トマト輸出は輸出处勢の遅れから、輸出時期を逸し、9月下旬に開始10月中旬に終了している。次図1、2のグラフに見るとおり、9月は市場価格のピーク時ではあるが、下落カーブを描き始める分岐点でもあり、10月初めから11月初めにかけて急落するものが通例である。従って当国からの冬期出荷期を3ヶ月とするならば、冬作トマト、並びに1971年度に輸出野菜品目として選定するピーマン、モローネ、チャウチャの3品目とも9月中旬、遅くとも9月下旬に出荷を終了する、出荷体勢、即ち、価格が上昇カーブを描き始める7月上旬から9月中旬迄の3ヶ月間とすべきである。ちなみに、これら野菜類4品目の1969年度亜国市場に於ける7月、8月、9月の冬期市場価格を見てみると、次表10の通りである。

表9 Bs. AIREIS 市場出荷が可能と見られるソノ菜類及果実類品目の生産・販売概要表

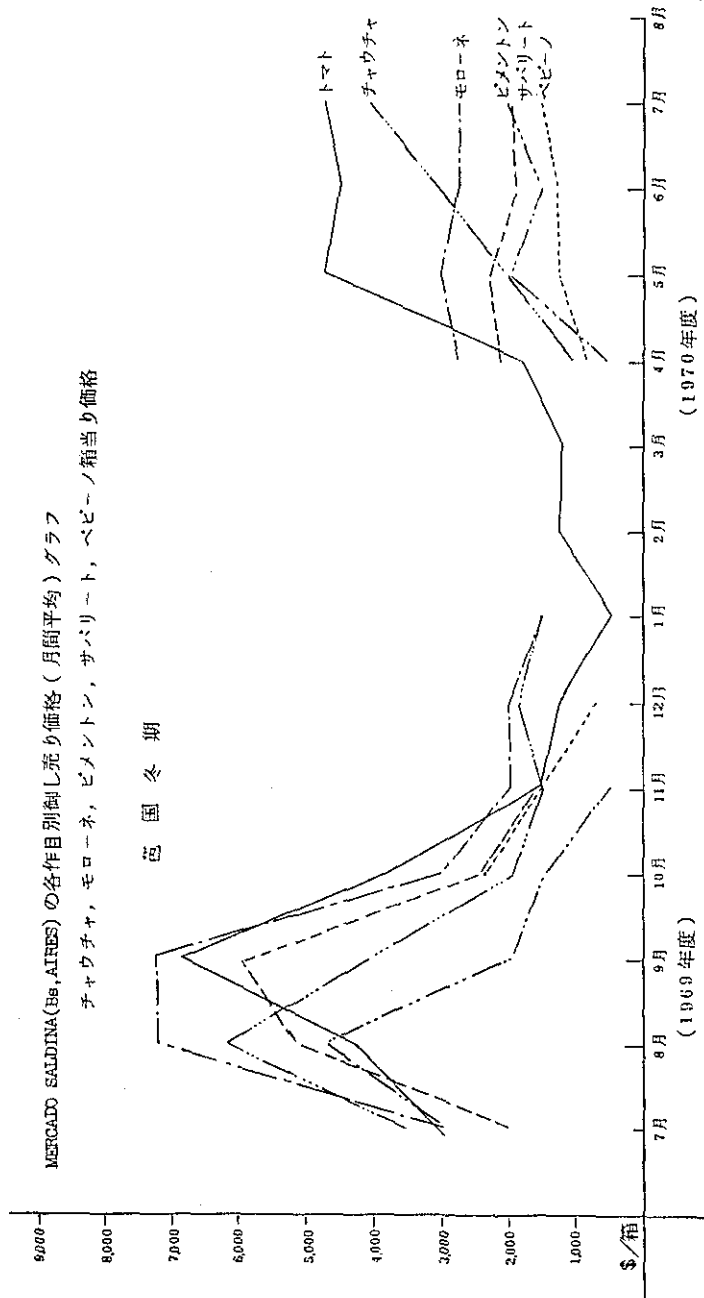
可能性があると見られる品目	生産状況		状況		販売状況		状況		備考
	栽培実績の有無	生産可能性の有無	生産可能期間	輸出実績の有無	荷造り調整の難易	輸送の難易			
ソノ菜類	食用トマト	有り	有り	有り	1月~12月(年間)	有り	難(可)	難(可)	(可)は可能品目
	ビメントン	有り	有り	"	有り(試験的)	易(可)	易(可)		
	モローネ	有り	有り	"	有り(可)	易(可)	易(可)		
	チャウチャ	有り	有り	"	無し	易(可)	易(可)		
	キウウリ	有り	有り	"	有り(試験的)	易(可)	易(可)		
	マイス(チョコクロ)	有り	有り	"	無し	易(可)	易(可)		
	スイカ	有り	有り	"	無し	易(可)	易(可)		
	メロン	有り	有り	"	無し	易(可)	易(可)		
	イチゴ	有り	有り	"	無し	難(可)	難(可)		航空輸送を要する
	サバリート	有り	有り	"	無し	易(可)	易(可)		
果実類	ボンカン	有り	有り(短期間不可)	無し	7月~9月下	無し	易(可)	易(可)	亜国輸入禁止令の問題あり
	パイナップル	有り	有り(可)	無し	"	無し	易(可)	易(可)	良質品種栽培面積少
	ガジヤワ	有り	有り(可)	有り(試験的)	9月~10月下	有り(試験的)	易(可)	易(可)	"
	マシゴ	良質品種試験中	短期間では不可	無し	"	無し	易(可)	易(可)	良質品種栽培面積無し
	イタリアブドウ	有り	有り(短期間不可)	無し	"	無し	易(可)	易(可)	栽培面積無し
	バナナ	有り	有り(可)	無し(芭国人有り)	"	無し	易(可)	易(可)	

図(11) Bs. AIRES MERCADO SALDINA, 及び MERCADO ABASTO. の各作物別市場価格 (月別) 状況表

(11)-(1)

MERCADO SALDINA(Bs. AIRES) の各作物別卸し売り価格 (月間平均) グラフ

チャウチャ, モローネ, ビメントン, サパリート, ベビーノ箱当り価格



(第)一(2)

MERCADO ABASTO(Bs,Ag.)の各作物別販売価格(月間平均)グラフ

マイス, チョクロ, スイカ, トマト, モローネ, イチゴ, メロン, 箱当り価格

芭国冬期

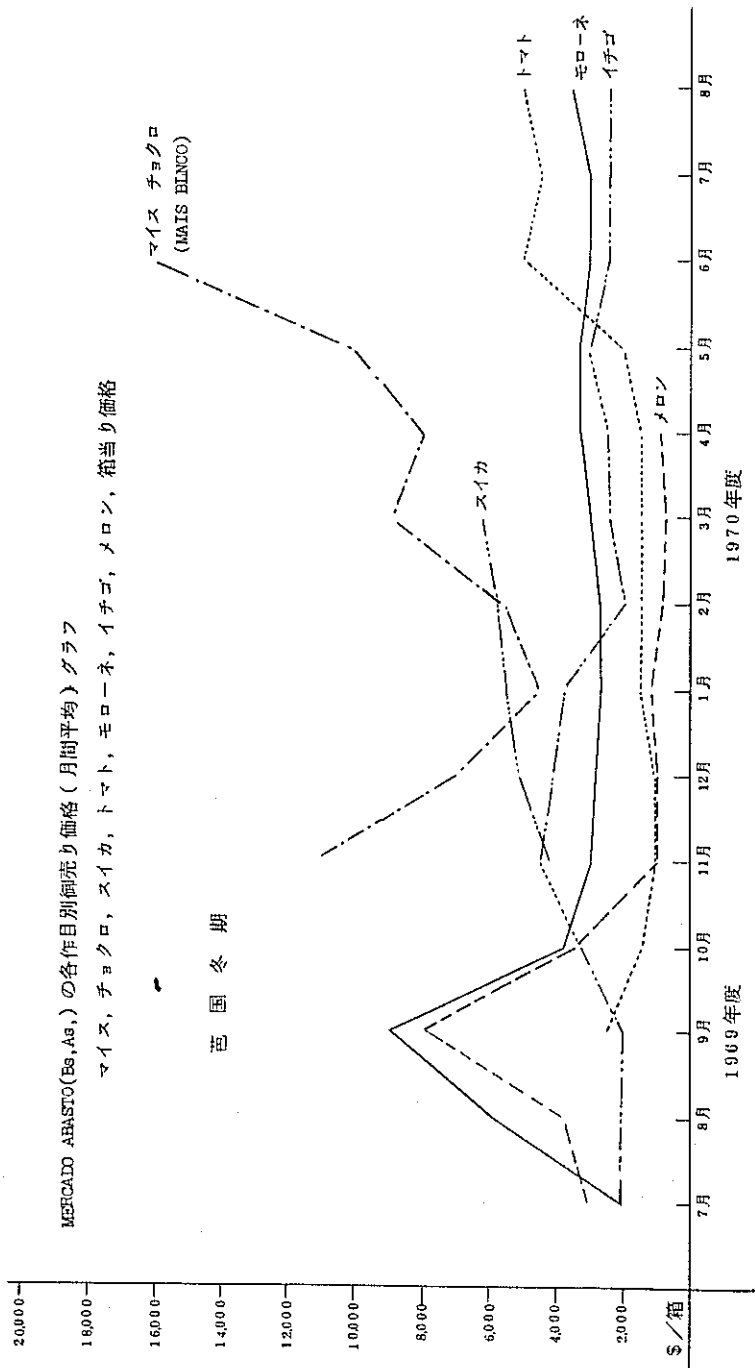


表10 亜国冬期市場に於ける冬作物別平均価格表(1969年度)  
単位 U\$A/箱(一級品質)

品 目	MERCADO SALDIA (Bs. AIRES)(A)				MERCADO ABASTO (Bs. AIRES)(B)				(A)と(B) の平均	備 考
	7月	8月	9月	平均	7月	8月	9月	平均		
食用トマト(1級品)	3,000	4,000	5,500	4,126	2,750	3,825	—	3,287	3,706	
ビメントン	2,000	5,200	6,000	4,400	—	—	—	—	4,400	
モローネ	3,000	7,200	7,200	5,800	2,200	6,000	8,000	5,400	5,600	
チャウチャ	3,500	6,200	4,000	4,566	—	—	—	—	4,566	

別添(1)資料 Bs. AIRES市場に於けるソ菜類品目の価格グラフ参照。

(備考) 1969年度資料は亜国北部地域大霜害年であり、通常年度よりも高価格を呈している。

1970年度7月迄の状況から推察すると、4月下旬から上昇カーブを描き始め8月、9月時にピークとなり、10月に入ると急落下するのが冬作トマト、ビメントン、ロコッテ、チャウチャの通常値動きカーブである。

(iv) 輸出、輸入についての規定条件

さて1970年度に最低輸出単位を目標として出荷が可能と見られる、ソ菜品目、ビメントン、モローネ、チャウチャの3品目及び試験的出荷を計画したい。ソ菜果実類品目は、いずれも新規輸出品目であり、下表11に見るとおり対亜輸出はALALC輸出品目として譲行されているが、輸出課税対象額(AFORO)が設定されていない品目が多数を占めている。

表11 対亜国ソ菜・果実類輸出規定条件事項

品 目	ALALC規定	NAB. ALALC 係	NABALALC 課 税 率	AFORO	備 考
(ソ菜類品目)					
食用トマト	自由品目	0.809	1.8%	0.09\$/Kg	◎AFORO額の設定されていない品目についてはその都度、芭国政府に設定を要請するものである。
ビメントン	"	0.809001	"	0.20\$/Kg	
モローネ	"	0.809001	"	0.20\$/Kg	
チャウチャ	"	0.701099	"	—	
サバリート	自由品目	0.701099	1.8%	—	
スイカ	"	0.701099	"	—	
メロン	"	0.701099	"	—	
マイスチョコクロ	"	0.701099	"	—	
キュウリ	"	0.701099	"	—	
イチゴ	"	0.808001	"	—	
(果実類品目)					
ボンカン	禁 止	08.02003	1.8%	0.15\$/Kg	一亜国側の柑キツ類輸入禁止令施行中
パイナップル	自由品目	08.01003	"	0.08\$/Kg	
ガジャワ	"	08.02003	"	—	
マンゴ	"	"	"	—	
イタリアブドウ	"	08.04001	"	—	
バナナ	"	"	"	0.036\$/Kg	



(V) Bs. AIRES 市場出荷の採算性

前述の通り、新規輸出品目であるだけに、輸出コストの正確な見積りは不可能な状況にあるが、最低、来年度（1971年度）に輸出可能性大であると見る、ビメントン、モローネ、チャウチャの3品目について下表12のとおり試算し、その採算性について検討してみた。

特にこの表12の策定の前提条件を次のとおりとして試算したものであることを留意されたい。

(前提条件)(a) - チャウチャ品目についてAFORO額が設定されていないが、現状価格から判断してAFORO 0.15 \$/Kgと見積った。

(b) - 箱づめ経費、輸送コストはトマト輸出経費をベースとして700箱単位（トラック、汽車）で見積った。

(c) - V. FACTURAはAFORO額を基準にして取り引きする方法（1970年度トマト取引方法）とした。

(d) - Bs. AIRESの販売推定価格は1969年度、冬期市場価格（7月、8月、9月の平均）の60%額とした。

即ち、	(1967年) 平均価格	推定価格
ビメントン	4,400 \$/箱	2,640 \$/箱
モローネ	5,600 \$/箱	3,360 \$/箱
チャウチャ	4,566 \$/箱	2,739 \$/箱

表12 1971年度新規輸出品目（ビメントン、モローネ、チャウチャ）の採算性試験表

区分	品目	ビメントン	モローネ	チャウチャ	備考
AFORO 額		0.20 \$/Kg	0.20 \$/Kg	(0.15 \$/Kg)	チャウチャ AFORO-0.15 \$/Kgと見積る。
V/FACTURA 額		2,100 \$	2,100 \$	1,785 \$	
輸出単位	総重量	14,000 Kg	14,000 Kg	15,400 Kg	トラック輸送を想定し輸出単位700箱とする。
	700箱 正味	10,500 Kg	10,500 Kg	11,900 Kg	箱づめは従来のトマト輸送箱を想定する。
	(輸出経費)	(Gs)	(Gs)	(Gs)	
1.	芭国側輸出経費	31,307	31,307	27,239	通関人 JUAN RICARDE 積算見積り書による。
2.	亜国側輸入経費	12,637	12,637	11,906	" " "
3.	輸送・荷造経費	102,900	102,900	102,900	トラック輸送方法を前提とする。
4.	手数料・その他	116,423	148,175	120,781	Bs. AIRES 売入 (10%), 輸出請負人 (7%), 輸出委員会 (3%)
	計	263,267	295,019	262,826	
	売上げ推定 (A)	582,120	740,880	603,910	1969年度冬期市場平均価格の60%額を認定。
	△ 輸出経費 (B)	263,267	295,019	262,826	
	手取り総額(A)-(B)	318,853	445,861	341,084	手取り額は生産者倉庫渡し手取り価格である。
	Kg 当り	30.36 Gs/Kg	43.46 Gs/Kg	28.66 Gs/Kg	

別添(II)資料、1971年度輸出単位を目標として出荷するソ菜品目（ビメントン、モローネ、チャウチャ）の輸出経費明細表

### Ⅲ Bs. AIRES市場出荷品目選定についての結論（指針）

本調査によって結論を出すのはあまりにも資料不足であり、次年、調査、検討して行かなければならないが、当面Bs. AIRES市場開発の第一段階としての目標を設定する、一つの指針であるという意味から意見するものである。

#### (i) 1971年度にBs. AIRES市場に輸出単位を目標として出荷する品目

品 目	品 質	出 荷 時 期	出荷量(目標)	備 考
食用トマト	日 本 種(1級品)	7月下旬～9月下旬	50,000箱	1971年度の輸出主体品目 冬作トマト品目に附随出荷 する。 " "
ビメントン	亜国改良種( " )	8月上旬～9月上旬	3,500 "	
モローネ	" ( " )	8月上旬～9月上旬	3,500 "	
チャウチャ	" ( " )	7月下旬～8月中旬	1,400 "	

#### 〔輸出品目選定理由〕

- Ⅰ-Bs. AIRES市場価格からみて冬作トマトと同様の価格変動カーブを呈する冬期高価格ノ菜品目であることから、冬作トマト輸出組織、輸出ルートを活用して出荷が出来ること。
- Ⅱ-Bs. AIRES市場状況から見て十分採算性がある品目であること。
- Ⅲ-生産地からの集荷、荷造り、調整が容易でかつ、Bs. AIRES市場迄の長距離輸送に耐え得る品目であること。
- Ⅳ-栽培経験を有する作物であり、計画、生産(量産)が可能な品目であること。

#### (ii) 1971年度にBs. AIRES市場開発を目標として試験出荷する品目

区分	品 目	品 質	出 荷 時 期	出荷量(目標)	備 考
菜 類	サバリート	BRASIL 又はアルゼンチン改良種	7月中旬～8月中旬	20箱	出荷期がトマト輸出 時期より遅れる
	スイカ	日 本 種	10月上旬～11月下旬	20箱	
	メロン	日 本 種	10月中旬～11月下旬	20箱	
	マيس・チョコロ	MAIZ, BLANCO	7 月 上 旬	20箱	航空輸送方法及輸出箱 箱の研究
	キューリ(ナスビ)	日 本 種	7月上旬～10月中旬	20箱	
果 実 類	イチゴ	BRAZIL 改良品種(大型)	9 月 ～ 1 月	( )	航空輸送方法及輸出箱 箱の研究
	ガジャワ	BRAZIL 改良品種(大型)	9月下旬～10月中旬	20箱	
	イタリアブドウ	大型1級品	11月下旬～12月下旬	( )	航空輸送方法及輸出箱 箱の研究
	パイナップル	BRAZIL 食用品種(大型)		( )	
	ボンカン	日 本 種	7月中旬～9月上旬	20箱	亜国側の輸入禁止令 があり解決を要する

#### 〔試験出荷品目として選定した理由〕

- Ⅰ-スイカ、メロン、ボンカン、ガジャワ等はBs. AIRES市場の嗜好性を調査する要があること。
- Ⅱ-サバリート、マيسチョコロ等は、Bs. AIRES市場価格の変動が大きく、生産量品質等を研

究する要があること。

iii -イチゴについては、輸送、荷造り方法、及外国輸入品(MEXICO, BRAZIL)との品質価格の点荷、比較検討を要すること。

iv -イタリアブドウについては、輸送、荷造り方法、市場性、BRAZIL 輸入品との品質、コストとの比較等について調査を要すること。

v -ボンカンについては、Bs. AIRES 市場性(特に嗜好性)について調査の要あり、又亜国側の輸入禁止令(柑キツ類)の打解策について検討を要すること。

vi -これらの品目は Bs. AIRES 市場の調査及び資料収集が行われていない品目であり、今後の研究を要する品目であること。

## サンタクルース支部編

1. 果樹のアルゼンチン国輸出可能性及び同国の生産流通状況について
2. ポリビア綿の輸出ルートの開拓及びペルー国綿作状況について

## <第1編>

### 果樹のアルゼンチン国輸出の可能性及び同国の生産流通状況について

#### I 調査の目的

暮国日系移住地であるサンファン移住地は、米作主体の営農形態をとっているが、米作が必ずしも営農安定作物となっていないことから、適永年作目の開発導入が望まれている。しかし、永年作目としては、牧畜、果樹等が導入されているが、いまだ営農の主幹作目とはなっていない。特に果樹については、当地の自然条件（気象条件、土壌条件等）が、かんきつ、バナナ、パイナップル等の栽培に適しているにもかかわらず、その多くは家庭果樹（自家消費向）程度しか栽培されずに、みるべきものとして、ボンカンが移住地全体で3,000本程度植栽されているのみである。これは国内市場が狭隘によるためであり、当地の自然的好条件を生かせずにいることから、隣国アルゼンチンの果樹市場の状況、流通形態等を調査するとともに、あわせ輸出の可能性を検討し、以って移住地の営農発展に資することを目的として本調査を実施した。

#### II 調査者

サンタクルース支部

#### III 調査地

アルゼンチン国 ブエノスアイレス市

＼ ゴ ル ド バ 市

＼ ト ウ ク マ ン 市

＼ サ ル タ 市

#### IV 調査内容

##### I 一般概況

##### (i) アルゼンチン国主要都市の人口

SALTA市 18万人(SALTA州 50万人)

TUCUMAN市 40万人

CORDOBA市 80万人(CORDOBA州 150万人)

BUENOS AIRES市 280万人(市近郊を含めた場合 700万人)

注) CORDOBA市は現在アメリカ系、イタリア系の二大自動車工場があり、市は日増しに発展しており10年後には100万人の大消費都市になるといわれている。TUCUMAN市は市財産の90%が砂糖によって占められており、1971年度は17~18ヶ所の製糖工場が操業する模様。なお砂糖キビはアルゼンチン国内にて自給。

##### (ii) 気温、雨量、標高

SALTA市 気温 28℃~30℃(最高40℃、最低2~5℃)

	雨量	1,250 mm
TUCUMAN市	気温	25℃ (最高 45℃, 最低 5℃)
	雨量	1,200 mm
	標高	700 m
CORDOBA市	気温	10～12月 17～20℃
		1～3月 25℃
		4～9月 10℃
	標高	798 m

## II 市場状況

各市に於ける作物の数量的把握(時期的, 地域的移入量, 過不足量など)は取引が個人ルートケースが多く, 取扱業者, 関係機関より聴取しても不明な点が多く, また取引価格も聴取内容に大差があり, その把握に困難をようした。

### (1) バナナについて

#### 1. ブエノスアイレス市

年間を通じ6～7月のみ頃が市場にて国内生産バナナが切れる時期であるが, その期間も含み年中ブラジルより外観, 品質共に秀れた大型のバナナ(以前は「ナニカ種」であったが, 現在はそれよりさらに長く形の良い「ナニコン種」が入っている)が入り, 速くエクアドルからも入っており, 市場は年中潤っている状況で, 殊に10月～3月頃が集中し, 若干過剰気味のようにである(卸値についてはこの種で1房 \$b40～60であった。)

アルゼンチン国内の主な生産地としてはミシオネス州, フォルモッサ州, サルタ州であり, 国内生産物のもは概してブラジル産より小さい。ブエノス・アイレス市民に限らず, アルゼンチン人はバナナの外観, 大きさにデリケートであり, 外観良く, 大型のものを好む。また料理用バナナをほとんど食べない。

ブラジルより1969年年間135万トン輸入され, 梱包方法は船の場合穴のあいたポリエチレン袋を稲ワラに包んで輸送するのが一般的である。またブエノス到着後, 高温調節器にて熟させ, 市場に出している。

さて, ブラジルよりの取引ルートの一例を参考までに示すと, 先行販売といって, アルゼンチン側の卸商が商品に直接手を触れず, 且つ買手が商品を受取る前に商社が売手に販売代金を前払するといった方法である。即ち売手が商品を発送した旨の通知書(発送品リスト付)を取扱商社が受取ると直ちに買手に連絡すると共に, 売手に前金を送金する。買手が港にカミオンにて商品取引に赴き, 現場で商社と買手が諸差引を行ない, そこで10%の手数料をとる, といった方法である。これは, もちろん両者間の長年の商業活動に伴う信用取引であることはいうまでもない。

なお, 参考までに, 缶詰用バナナを取扱ったある代表的な商社の話を述べると, 以前缶詰用バナ

ナの取引先が会社のため、取引量が多く、未収金のケースが多々あり(5,000ドルを1ヶ年間も未納といったケース)、採算が一時合わなかったこともあり、現在は取扱っていないとのことであった。

## 2. コルドバ市

ア) コルドバ市場には、ミシオネス州、フォルモッサ州、サルタ州よりカミオンにて年中入って来ており、その上ブラジル(サンパウロ)よりも陸路を利用したカミオンにて年中入って来ている。

イ) コルドバ市にての消費量は1ヶ月当り1,000,000 Kg位と推定されている。

ウ) 価格についてはサルタ州より入るもので卸値0.50/Kg、輸送費0.20/Kg、小売値0.83/Kg、手数料0.06/Kg、サンパウロより直接入るものは、輸送費入れて0.50/Kg(サンパウロにて0.20~0.25/Kgのもの)である。

エ) コルドバ市場には最盛期多い日で1日当り4~5台のカミオンにて、少ない月である4月~8月でも2日当り3台のカミオンにて、各方面より入って来ているのが現状である。

## 3. トクマン市

ア) トクマン州はバナナが少ししか出来ないのでミシオネス州、フォルモッサ州、サルタ州より入っており、ブラジルよりも入っており、合計年間約3万箱(1箱12~24 Kg入り)が入っているところから、トクマン市場は一応潤っているところである。

イ) バナナの卸値は\$6~7/箱(12~24 Kg入り)である。

## 4. サルタ市

ア) サルタ市場には自州のものが12~2月頃出回っており、コルドバ、トクマンへも移出している。ブエノス市へは余り移出されていないようであるが冬に多く出している。

イ) サルタ州におけるバナナの年間生産量は200,000箱(1箱25 Kg入り)といわれている。

ウ) サルタ州内、サルタ市北方275Km地点に、エンバルカシオンという所があり、ここで日本人一世20~30名が、バナナ、パイナップルなどを代表した営農に従事しているとのことである。なお、その地で卸商を営んでいる垣本益雄氏によれば、ボリビアのバナナの品質は良いと話していたそうである。なお、日系人の話によると、サルタには、大きな型のバナナが不足している、とのことであった。

## (II) バイナップルについて

### 1. ブエノスアイレス市

ア) バイナップルの年間における消費期といえば大体9~1月頃であり、その頃、ブラジルよりハワイ系のものが大量に入って来ている。卸値は40~50 \$b/箱(20 Kg入り)であり、大体12月頃が一番値段が良い。

イ) ブラジルより多い時期で1日4~5隻(1隻につき40~50トン)が入港し、そのうち半分がブエノス市場に積おろされる。ブエノス市場へのブラジルよりの年間入荷量は1969年10万箱、

1970年20万箱，1971年45万箱（推定）である。

ウ) サルタ州よりは9月～1月入ってきているが数量不明。

エ) ブラジルより品種“Hawai”“Blanco”が入っており，小売値が“Hawai”63\$b/箱（20Kg入り）“Blanco”63\$b/箱（40Kg入り）で“Hawai”が2倍高値，“Hawai”の場合1個2～3Kgで1箱に8個入っている。オノブラジルよりの“Hawai”は，ホルモン処理により収穫期の調整をしたものであり，また15～20日間耐用させるために防腐剤（品名不明）を切口に処理してある。

## 2. コルドバ市

ア) ミシオネス州，サルタ州より入りブラジルよりも大量に入っている。パラグワイよりも入っているとのことであった。ブエノス市と同じく夏しか食べない。市場には11～1月入っている。

イ) 小売値30Kg入り\$b66（1箱20ヶ入り）（国内生産物）。

## 3. トクマン市

トクマン州内はほとんど出来ず他州より入れている。数量は不明。

## 4. サルタ市

ブエノス市へ9月～1月出しているが，12月～1月しか売れ行きが良くない。

### (iii) その他の果物，野菜について

#### 1. ブエノスアイレス市

ア) メロン（品種“Rocio de Miel”）がサンファン州，メンドサ州，サルタ州，サンチャゴ・デ・エステーロ州より入り，梱包は6個入り，10個入り，12個入り，14個入り（それぞれ\$b50）の箱にて出されている。遠くスペインよりも入っている（品質“Balancia”）。時期は12月～3月で，4月頃より市場にはなくなる。

イ) マンダリンは4月～9月有，その他の月入らない。

ウ) イチゴはサンタフェ州より入るが，遠くメキシコより1月～3月末（1箱5Kg入り\$b100～130）ブラジルより5月初～12月入るので，市場には年中ある。

エ) ナランハは，ミシオネス州より9～10月入り，メキシコより3～4月（1箱15～20Kg入り\$b80）入っているが，メキシコよりは6,000箱しか入っていない。

オ) ポメロ（グレープに極似）はサルタ州より入り，その他の場所よりも入れて年中市場を潤している。なおメキシコからもわずかの期間入っているようである。

カ) ネーブル類も6～8月に入っている。

## 2. コルドバ市

ア) メロンがサンファン州，メンドサ州，サンチャゴ・デ・エステーロ州より入る。

イ) オリーブはラリオハ州が名産地である（1,300ha）。

ウ) 花（キク，カーネーション）の大輪（ブエノスが立打ち出来ない現状）がコロンビアより入って



いる。

### 3. トクマン市

ア) ポメロ、バルタの生産量多く、ブエノス市へ出し、マンダリン、レモン、ナランハは少しの生産。

イ) ブドウは、メンドサ州、サンファン州より入る。

ウ) ポメロの小売値は30～35Kg入り\$17。

### 4. サルタ市

ア) ブエノスへ、トマト、タバコ、サトウキビを、コルドバへ、バナナ、ポメロ、ナランハを移出している。

イ) ポメロの小売値は4～6コが\$1.70。

## ■ 所 見

各地に於ける商業活動が個人ベースの場合が多いこと、及びそれを理由にして各出荷組合、統計事務所、中央市場内管理事務所に於ける数量的、價格の把握が全くなされておらず、且つ、各聴取場所に於ける聴取内容がまちまちで、その実態把握が困難であったこと等から、当初の調査目標に沿っての実績を十分に上げえなかったが、一方、本調査によって各地の代表的な卸商との対面と又今後の情報交換の約束等が出来たこと、又、各市場に於ける活発的な活動、農産物の種類（品名）等について実際に見聞し得たことは大きな収穫であった。

なお、次に各作物別に本調査を実施しての調査所見を記述する。

### (i) バナナについて

前述のごとく、アルゼンチン国内にて、量的には不明であるがミシオネス州、フォルモッサ州、サルタ州より相当のバナナがブエノス・アイレス、コルドバ、トクマン、サルタ市場へ流れ、一方、ブラジルよりブエノス市へは船にて、コルドバ市にはトラック便にて大量の且つアルゼンチン人好みの大型の品質の良いバナナが両国間の信用の下に流れ入っており、輸送状況、信用問題、距離的問題から断定を下すのは危険ではあるが、ブエノス、コルドバ市場へのバナナ輸出は相当困難と思われる。

しかし、サルタ、トクマン市場へは、粒の大きな良質のバナナであれば充分とは言えなくても可能性はあると考えられる。即ちアルゼンチン国内生産のバナナは、ブラジルのそれより小粒であること、距離的にブラジルと充分太刀打ち出来ること及び、サルタ市内居住の日系人よりサルタ市場に大きなバナナが欲しい旨耳にしたこと、などからである。とにかくも、アルゼンチン国内の取扱業者の物色選定、招へい後、再度、詳細について情報聴取の上、打合せをすることが現段階での特策且つ急務と思われる。

次に感じたことであり、且つ驚いたことは、料理用バナナがアルゼンチン人の食生活に入っていないことであり、口に合わない、あちこちで聞いたが、アルゼンチン人の当該バナナの認識不足も多少あると思われるので食生活面でのバナナの普及を進める必要があると感じた。

(ii) バйнаップルについて

バイナップルについて先ず述べたいことは、アルゼンチン人にとってこれを多く食べる期間が好みから12月～1月(夏)頃に限られているということである。従って、現状はアルゼンチン国内、ブラジル国内よりこの期間に殊に集中して各市場に入っており、その期間以外は、売れ行きが悪いとのことである。

さて、各市場別に見ると、ブエノス市、コルドバ市へは、ブラジルより缶詰用、生食用で大型のもの、HAWAII系(種類は無刺種のスムーズカイエンと思われる)及び生食用、ブランコ種(有刺種)が入っており、バナナと同じく、将来の見通しは困難といわざるを得ないが、トクマン市、サルタ市へはバナナより可能性があると思われる。

(iii) メロン、マيس、その他について

メロンはアルゼンチン国内各州より生産出荷され、各市場とも潤っている感じで、品質、外観共良く、スペインより“BALENCIA”という種類の極めて優れたものも入っており、ボリビアにとっては時期早尙の感じがあり、マيسは輸出国であるので問題外である。

その他、トマトが、サルタ市場に欲しい旨日系人の人より耳にしたので今後、調査、検討の要あり。

(iv) ボンカンについて

今回の市場調査対象品目に入っていないが、且つ予想もしていなかっただけに驚いたが、ボンカンが全くアルゼンチンに入っていなかった。ブラジルにては大量に生産されていることは周知の事だが、ブラジル国内の需要にのまれ、アルゼンチンへは全くと云っていいほど入っていないことを再確認させられた。

このような訳で、商社、小売商人はボンカンの名前すら知らなかったので我々のボンカンのPRに興味深く聴いており、ミカンの代表的な種類に属するので今後大いにブエノス・アイレス、コルドバ、トクマン、サルタ各市場へ触手できると云う希望がもてるようである。

## V 調査所見

従来ボリビアよりアルゼンチンへの商業活動はほとんどなされていなかったことから、運送経費、諸手続料、税金等については詳細な数字が把握されていず、今後これの調査が必要となるが、今回は日程上調査し得なかった為、次回に譲った。

なお、今回の調査で首尾よく面接し得た各地区の代表的な卸商、小売商等を“つて”に情報を交換するとともに、今後の具体的な取引に役立てて行きたい。

又、卸商、小売商をサンタクルースと呼び、実際にボンカン、バイナップル、バナナを目で確かめさせることも今後の取引の近道であることを付記する。

市村名	商社又は個人名	DIRECCION	TEL	取扱品名
ブエノス・ アイレス	LABARI S. R. L	AV. CORRIENTES 3169-80P OF. 80, BUENOS AIRES, AR- GENTINA.	87-8428	FRUTAS
	SAMUELLEVY S. R. L	AV. CORRIENTES 3247-OF 48/52 BUENOS AIRES, AR- GENTINA.	87-3092 88-4664 TELEX 012-2316 DIREC. TELEG "VAGMAR"	FRUTAS
	PASCAL MANGIALAVORI	MERCADO DE ABASTO, PABE LLON F, BUENOS AIRES ARGENTINA. LAVALLE3177, BUENOS AIRES. ARGENTINA	86-0308	FRUTAS
コルドバ市	BATTISTIN	MERCADO DE ABASTO PUESTO89, CORDOBA ARGENTINA.	24848	FRUTAS
トクマン市	JUAN MURILLO E' HIJO	MERCADO DE ABASTO PUESTO145, TUCUMAN ARGENTINA.	13259	
	JUAN MURILLO E' HIJO	SAN LUIS 647 TUCMAM ARGENTINA. (ESCRITORIO)	21246	
サルタ市	EDUARDO ISOLA	AV. SARMIENTO 292 SALTA. ARGENTINA	11270	
	MASUO KAKIMOTO	ENBARCACION, SALTA ARGENTINA		

## 参 考 資 料

### バ ナ ナ

熱帯果樹の一つとして、バナナは南米諸国に於いて栽培されている果物の一つである。

モンテビデオにての調査によると、世界生産の50%を示し、その内訳は、ブラジル56.5%、エクアドル21.4%、コロンビア5.6%、ペルー4.2%となる。国によりバナナを2種類に分類する。すなわち食卓用果物に用いるバナナと、食糧用、野菜に用いるバナナとがあり、これを普通プラタノと呼んでいる。前者は糖分含有量が多く、風味良好で果物として取り扱っている。なお後者は糖分が少量に含み、澱分の含有量が多く、これは野菜用として取り扱われている。

南米諸国では、バナナの栽培面積は年々増大しつつ、農作物栽培面積の内バナナの作付面積が一番多い。

南米での大量生産国は第1にブラジルで1961～1965年の年平均生産量は5,760,000トンであった。ラテン・アメリカ罐詰精製産業界協会事務局(ALIGA)による調査では1967年は6,000,000トン以上を示している。第2の生産国はエクアドルで1961～1965年の年平均生産量は2,183,000トンであり、エクアドル国農牧省による調査では1966年は2,687,700トンとなっている。

#### 1. アルゼンチン国のバナナ栽培と生産

アルゼンチン国でのバナナ生産はあまり大量ではなく、気象(霜、水害)により、生産量の減少した年もあったが、1949年から1969年までの生産増率は1,429.4%増産し、1949年の生産量9,228トンより、1969年は140,900トンに上がっている。

このように国内の消費量の内の40%を獲得することができた。

次にア国の栽培面積、収量等は下の表で示されている。

バナナの栽培面積、収量、販売量一覧表

項目	州別	フォルモサ	ミシオネス	サルタ	合計
栽培面積					
成木	"	3,920	235	1,163	5,318
未成木	"	2,105	—	120	2,225
計 (ha)		6,025	235	1,283	7,543
平均収量 Kg/ha		24,000	19,300	30,000	24,433
生産量(トン)					
販売用		83,800	4,067	34,890	122,757
計		108,360	4,550	34,890	147,800
バナナ本数 (本)					
成木 (本)		3,537,000	94,000	1,063,000	4,694,000
計		5,431,000	94,000	1,183,000	6,708,000

(ア国 農牧省統計)

## 2. ブラジル国のバナナ栽培と生産

ブラジル国でのバナナ生産量は南米第1で、1967年は402,780,000房を生産した。

1967年2月21日～24日にブラジル国リオ・デ・ジャネイロ市で開催されたブラジル農業経済組合(SOBER)の会合に於いて、ブラジル国よりのバナナ輸出量は1953～1966年の間、増産した傾向が見られない事がわかった。1968年以降は200,000トン以上を輸出している。

1967～1971年間のバナナの輸出の平均価格は下記に示す。

年 度	U\$S/ton
1967	26.7
1968	28.2
1969	29.7
1970	31.3
1971	32.8

ブラジルのバナナの品種はナニカ、ナニコン、プラタ、マッサウン、オウロ等である。ブラジル国の年次別バナナ輸出量、価格等を示すと表の通りである。

バナナの年次別生産量、輸出量、価格等一覧表(1953～66)

年 次	生産量 トン	輸 出 量		U\$S/トン
		ト ン	千 U\$S	
1953	3,701,240	178,711	9,219	51.9
1954	3,964,000	239,224	11,288	47.2
1955	4,085,500	210,722	10,251	48.6
1956	4,480,700	188,062	12,395	65.9
1957	4,688,440	218,489	13,322	60.9
1958	4,495,060	271,444	10,900	40.2
1959	4,885,200	213,079	4,369	20.5
1960	5,126,780	241,944	4,561	18.9
1961	5,428,920	245,946	3,799	15.4
1962	6,013,200	216,543	3,228	14.9
1963	6,162,020	205,900	2,924	14.2
1964	338,206,000房	225,540	5,818	25.8
1965	348,522,000房	215,746	6,274	29.1
1966	—	204,833	6,315	31.0

財務、経済統計局調査

## 3. エクアドル国のバナナ栽培と生産

エクアドル国での農産物栽培に於いて、バナナ栽培は最も盛んであり、主要な輸出品物である。エクア

ドルの東部地方は年間雨量2,000mmで、海拔500mの地帯でありバナナ栽培には適地である。全生産量の41%は不良商品としてすてられ、35%は輸出用とし、24%は国内消費にあてられている。なお国内消費24%を分類して見ると、33%は食卓用果物として用いて、50%は家畜用飼料に用い、17%は加工用として用いられている。平均収量は1ha当り19,330kgである。エクアドル国農牧省(農牧業普及改善総局)の調べによると、1966年にはバナナの栽培面積は186,688ha、収量89,569,200房、プラタノの栽培面積は39,478ha、収量32,877,100房とわかった。

エクアドル国の収量、輸出、消費等については下の表で示されている。

年次別バナナの生産、輸出、消費等一覧表

年次別	生産量 千トン	輸出品 千トン	消費不良品量 千トン
1950	571.4	169.6	401.8
1951	595.5	246.5	349.0
1952	676.9	429.8	247.1
1953	706.0	406.4	299.6
1954	1,686.3	492.2	1,194.1
1955	1,872.8	612.6	1,260.2
1956	1,953.0	578.9	1,374.1
1957	1,668.7	669.1	999.6
1958	1,754.7	742.7	1,012.0
1959	1,897.5	885.6	1,011.9
1960	2,075.2	895.6	1,180.1
1961	2,050.4	842.3	1,208.1
1962	2,114.9	897.8	1,217.1
1963	2,544.0	1,342.0	1,202.0

エクアドル中央銀行

エクアドル国のバナナの栽培面積を地方別に示すと下の表のようになる。

地方別バナナ栽培面積

地方別	1954	1963
北部地方	45,060 <sup>ha</sup>	25,120 <sup>ha</sup>
西部地方	27,450	5,280
中部地方	45,727	86,720
東部地方	14,307	8,320
南部地方	30,397	34,560
合計	159,941	160,000

#### 4. ベルギー国のバナナ栽培と生産

1964年の調査によると、44,460 haのプラタノの栽培面積で生産評価額は360,000,000 ソルであった。

#### 5. メキシコ国のバナナ栽培と生産

メキシコでのバナナの生産量は1968年の統計によると1,000,000トンとなっている。1950年より1968年の間、わずか5%の増産率となっている。

なお1967～68年は、増産率1.4%で1967年は全作付面積は76,300 haで、合計985,642トンの生産量があった。なお、生産額は750,769,000 ペソ・メヒカーノであった。

#### 6. ブラグアイ国のバナナ栽培と生産

1961年の農牧省の調査によると、9,694,000 房が生産されている。生産成木は11,792,549本で、未成木は6,800,000本で1本当り0.8房の生産率となる。

#### 7. コロンビア国のバナナ栽培と生産

コロンビア国では、バナナ栽培地域は大きく3地域に分類される。

##### 1) サンタマルタ地域

栽培歴史が最も古く、18,000 haの面積で現在生産中。

品種はGROS MICHEL。

##### 2) ウラバ地域

約16,000 haの栽培面積で8～10,000 haが現在生産中。

##### 3) ツマコ地域

エクアドル国との国境に近く、1965年調査によると1,000 haであった。

品種は主にGROS MICHEL種であるが、1966年CAVENDISH種が約40,000本新植され、なお1966年末期には同じく40,000本GOYO種が導入された。エクアドルと同じくコロンビアもバナナ病の多発生により、グロス、ミチエル種をCAVENDISH種に切り替えている。

サンタマルタ地域は18,000 haで、1房23～25 Kgで1.0～1.2千万房を生産している。

11月～1月の収穫が最も多く、4～6月が少ない。

#### バインアップル

南米諸国でのバインアップルの主な生産国はブラジル53.9%で生産第1位を示し、メキシコ27.4%、エクアドル8.2%であり、南米は世界生産量の22%を示している。1961年～1965年の平均生産量は696,000トンで、ブラジルが375,000トン、メキシコ191,000トン、エクアドル57,000トン、ベネズエラ24,000トンで、アルゼンチンはわずか2,000トンとあり0.3%の生産量である。

##### 1. アルゼンチン国のバイン栽培と生産

アルゼンチン国のバイン栽培面積は少なく215 haであり、大半はミシオネス郡(183 ha)が占め

国別、年次別バナナ生産率一覧表

期間 1961~1965  
率 1961=100%

国 別	生 産				
	1961	1962	1963	1964	1965
アルゼンチン	100	405.6	312.3	562.3	317.6
ボ リ ビ ア	—	—	100.0	100.7	100.7
ブ ラ ジ ル	100	110.8	115.3	124.6	138.7
コ ロ ン ビ ア	100	90.8	101.6	98.1	114.2
チ リ —	—	—	—	—	—
エ ク ア ド ル	—	—	100.0	100.1	101.7
メ キ シ コ	100	107.5	110.4	114.2	120.0
パ ラ グ アイ	100	114.0	119.8	119.8	125.8
ベ ル —	100	105.7	112.4	120.1	151.5
ウ ル グ アイ	—	—	—	—	—
ベ ネ ス エ ラ	100	87.0	145.0	119.8	122.5
合計 平均	100	105.8	111.5	116.1	126.4

ている。収量も少量で品質も悪く、ブラジルより来るバインよりも小形である。

上に述べたような理由により、アルゼンチン国の輸入量は年々増加しつつある傾向である。1957年の輸入量は7,143トンであり、1963年は10,440トンに上がり、1965年は22,391トンになっておる。1968年は18,731トンでその価格は1,968,600ドルとなっている。

アルゼンチン国のバイン栽培、収量等は下の表に示されているとおりである。

州別バインアップル栽培面積、収量、生産一覧表

(農年度 1968/69)

項目	州別	フォルモサ	ミシオネス	サルタ	合計
栽培面積					
成木	"	11	132.25	15	158.25
未成木	"	7	50.25	—	57.25
計 (ha)		18	182.50	15	215.50
平均収量 Kg/ha		3,500	7,946	10,000	7,149
生産量(トン)					
販売用		30	923	143	1,096
計		38.5	1,047.0	150	1,235.5
パイプ本数(本)					
成木本数		110,000	1,322,500	30,000	1,462,500
計		180,000	1,825,000	30,000	2,035,000

(ア国 農牧省統計)



2. コロンビア国のパイン栽培と生産

ラテン・アメリカ農産物市場協会（ILMA）による調査では、1967年パイン栽培面積は44haに達し、加工用に用い、後増産につれて輸出するものとなる。次に地域別栽培面積、生産等を表に示す。

地 域	栽培面積	食卓用 国内消費用	加 工 用 (ha)		
			国内消費	輸 出 用	合 計
アトランティコ	1,800	495	255	1,050	1,305
ボ リ バ ル	200	200	—	—	—
コ ル ド バ	850	250	140	460	600
Sマドダレーナ	450	240	50	160	210
ト リ マ	200	200	—	—	—
クンディナマルカ	500	100	90	310	400
合 計	4,000	1,485	535	1,980	2,515

3. パラグアイ国のパインアップル栽培と生産

1961年の農牧調査によると、パラグアイ国は生産中の成木を31,000,000本、未成木15,886,000本作付しており、その生産量は2,000,000ケであった。

4. ブラジル国のパインアップル栽培と生産

ブラジル国ではパインは輸出用が大半を占めていて、1967年には18,987トンを生産しており、その額は1,397,000ドルである。主な品種はAMARELO COMUN種、PEROLA DE PERNAMBUCO種、SMOOTH CAYENNE種等である。

5. メキシコ国のパインアップル栽培と生産

メキシコでの1967年のパインアップル栽培面積は10,250haで、生産量251,073トン、価格197,092,000ペソメヒカーノであった。1970年及び1975年の生産はそれぞれ236,660トン、269,259トンに達すると思われる、1970年の国内消費は287,650トン、1975年は384,143トンと予想される。

南米諸国のパインアップル生産量増減率（1961～65）一覧表

国 別	1961	1962	1963	1964	1965
アルゼンチン	100	103.5	101.1	89.3	153.5
ボ リ ビ ア	—	—	100	100	100
ブ ラ ジ ル	100	100.7	100	106.1	—
コ ロ ン ビ ア	—	—	—	—	—
チ リ	—	—	—	—	—
エクアドル	100	94.8	93.1	96.6	103.4
メ キ シ コ	100	100.3	108.9	113.1	116.7
パラグアイ	100	94.2	102.5	110.0	108.1
ベ ル	—	—	—	—	—
ウルグアイ	—	—	—	—	—
ベネズエラ	100	145.6	154.0	181.4	223.3
平均率	100	100.8	103.0	108.7	111.3

## バルタ

バルタは亜熱帯果樹の類に属し、南米諸国では各国とも生産しているが、輸出用としてはあまり重要なものとは思われていない。

### 1. アルゼンチン国のバルタ栽培と生産

ア国の生産地帯は北東地方のツクマン、サルタ、フイ地方である。1968/69年のバルタの栽培面積は900haに達し、その内の660haは生産しつつある面積で残りの240haは新植面積である。なお、バルタの主な品種をあげるとFUERTE, LINDA, HEREDIA, COLLINSON 等である。

亜熱帯、熱帯果樹の生産量一覧表を見ると近年7年間で、その生産が約10倍に増加していることがよくわかる。

単位：トン

農年次	バインアップル	バナナ	バルタ
1957/58	1,964	2,560	831
1958/59	1,950	3,048	1,030
1959/60	1,915	8,585	1,278
1960/61	1,870	11,649	1,870
1961/62	1,935	47,250	1,982
1962/63	1,890	36,380	2,900
1963/64	1,670	65,500	3,030
1964/65	2,370	37,000	3,520
1965/66	2,132	103,760	4,513
1966/67	1,727	129,616	4,293
1967/68	1,745	53,360	10,525
1968/69	1,230	140,900	11,100

### 2. ブラジル国のバルタ栽培と生産

1967年ブラジルではバルタの栽培面積は12.562haで1ha当りの平均収穫量は40,763ケで、全収穫量は512,000,000ケ以上に達し、その生産額は14,900,000NCr\$であった。ブラジル・バルタの主な品種はCOLLISON, LINDA, PRINCE等である。

### 3. バラグアイ国のバルタ栽培と生産

1961年には成木が224,722本、未成木が98,204本あり、生産量は45,200,000ケ以上に達した。1本当り平均収穫量は201ケである。

### 4. チリー国のバルタ栽培と生産

1963年チリーでのバルタ栽培面積は約3,000haで生産量は12,000トンであった。

全生産量の42%をバルバライン郡が占めており、第2にサンチャゴ郡で1,200haのバルタ作付面積を有している。品種はFUERTE種で40%が本品種を栽培しており、その他CHAMPION, MEXICOLA PRINCESA種等がある。

## ナランハ（ミカン）

### 1. アルゼンチン国のナランハ栽培と生産

アルゼンチン国ではナランハの生産量は少なく、その生産水準は非常に低いものである。その理由の一つとしては気象（霜、乾燥）の関係で適地ではないためである。

1966年～67年はサンペドロ地方は、平年では4百万箱を生産していたが、霜によりほとんど全滅したのにもかかわらず、その他の地方は霜等による害が少なかったため全生産量は増加している。

1968年～69年の生産量は非常に増加し、ア国、農牧省による統計では780,000トンにも上がり、ア国での最大の生産量を示した。

アルゼンチンの柑橘（レモン、マンダリン、ナランハ、グレイフルーツ）の農年次別生産高一覧表

農年次	レモン	マンダリン	ナランハ	グレイフルーツ
1958/59	101,450	168,200	490,500	30,750
1959/60	87,600	128,000	484,000	32,000
1960/61	86,600	196,000	521,000	40,200
1961/62	82,000	166,000	518,000	47,300
1962/63	79,300	195,000	496,500	49,500
1963/64	79,000	187,200	528,000	60,500
1964/65	70,000	101,000	420,000	72,300
1965/66	89,000	175,000	614,000	84,000
1966/67	74,600	114,400	640,000	81,800
1967/68	179,000	134,000	682,000	84,000
1968/69	195,000	220,000	780,000	110,000

### 2. ブラジル国のナランハ栽培と生産

1967年は166,000ha以上の栽培面積で、生産量は12,523,280,000kg（平均6kgとして2,087,213トン）で生産額はNO r\$ 166,240,238となる。主なる生産地域はサンパウロ、リオデジャネイロ、ミナス・ジェライス、リオ・グランデデスール、パラナ、サンタ・カタリーナ地域である。1961年はサンパウロは全体の52%の生産を占めている。つづいて、リオデジャネイロであるが、1949～1952年間はツリステータ病が多発生し、生産量が減少したが11%を占めている。

現在サンパウロは40,800kg入箱で約25,000,000箱を生産しつつある。なおリオデジャネイロは約5,000,000箱である。主な品種は、Baia, Baianinha, Pera, Piralima, Valencia 種等である。

1967年はペーラ種を40kg、入箱を2,569,186箱輸出しており、その額は3,455,000ドルになっている。ブラジルよりのナランハの輸出量は年々増加しつつ、1953年の輸出量は2,4900トンで、1963年は143,623トンとなり、1965年は159,046トンとなった。

ブラジルの年次別生産量，輸出量等は下の表に示されている。

ナランハの生産量，輸出量，価格等一覧表

年 度	生 産 量 ト ン	輸 出 量		U\$S/トン
		ト ン	千 U\$S	
1956	1,376,655	42,868	3,581	83.5
1957	1,491,510	45,844	3,764	82.1
1958	1,538,281	72,948	4,747	65.1
1959	1,645,648	111,430	6,812	61.1
1960	1,721,146	112,408	6,089	54.2
1961	1,818,377	112,667	6,007	53.3
1962	1,905,341	104,427	4,686	44.9
1963	2,194,241	143,623	6,169	43.0
1964	2,115,376	96,963	3,814	39.0
1965	1,142,622	159,046	7,398	46.6

財務，経済統計局

### 3. メキシコ国のナランハ栽培と生産

ナランハの生産国としては，南米第2位で，1967年にはナランハ栽培面積80,200 haで，その生産量は882,200トン，生産額780,747ペソ・メヒカーノであった。

メキシコの主な生産地は

MONTEMORELOS 地帯

VERACRUZ "

RIO VERDE "

TAMANLIPAS "

CHAPALA "

OCCIDENTAL DE SONORA 地帯

SIERRA DE PUEBLA 地帯

LA HUASTECAS "

YUCATAN "

等である。

1961年，MONTEMORELO地帯では300,000トンを生産していたが，1962年の霜による害で30%の成木が枯死した。1966/67年には175,000トン，1967/68年には181,000トンに達し，1968年には9,000,000本のミカンが栽培されており，生産中の成木は5,100,000本であった。その内の50%がバレンシア種で30~35%がTEMPRANAS種で，5%がワシントン・エーペルで，10~15%がマンダリンとなっている。

それぞれの収穫期は下のとおりである。

パレンシア種	2～5月
TEMPRANAS	10～1月
マンダリン	11～1月

VERACRUZ地帯では1966/67年には180,000トン、1967/68年は200,000トンのミカンを生産し、1973/74年には400,000トンの生産を目標としている。

主な品種はパレンシア種で全体の75～80%を占めており、その他はマンダリンである。

ミカンの栽培面積、生産量等を示すと下の表になる。

メキシコ国ミカンの生産量(1960～1965)

年次	栽培面積 ha	生産量 千トン	平均収量 トン/ha	トン当り価格 ペソ	生産価格 千ペソ
1960	72,464	766	10.5	630	481,886
1961	72,532	772	10.6	790	610,055
1962	79,094	883	11.1	1,210	1,066,645
1963	78,107	855	10.9	820	704,951
1964	78,500	860	10.9	850	730,638
1965	79,000	865	10.9	880	761,244
平均60～64	76,199	829	10.8	869	720,437

メキシコの1ha当り平均収量を示すと次の表のとおりになる。

ミカンの平均収量

年次別	ha当り平均収量	1本当り平均収量
1950 <sup>年</sup>	9,720 Kg	65 Kg
1951	8,263	55
1952	8,758	58
1953	9,081	61
1954	9,642	64
1955	9,750	65
1956	10,050	67
1957	10,554	70
1958	10,500	70
1959	10,500	70
1960	10,550	71
1961	10,650	71
1962	10,700	71
1963	10,700	72
1964	10,700	73

メキシコのナランハ、マンダリンの輸出量を示すと下の表のごとくなる。

年次別ミカンの輸出量 (1957/58~1967/68)

農年次別	アメリカ合衆国(トン)	カナダ(トン)
1957/58	6,634	16,419
1958/59	12,064	2,775
1959/60	8,332	4,645
1960/61	10,287	12,264
1961/62	9,441	8,371
1962/63	31,328	3,811
1963/64	58,873	2,677
1964/65	40,192	6,318
1965/66	23,514	3,842
1966/67	12,401	5,471
1967/68	43,531	7,162

#### 4. チリー国のミカン栽培と生産

チリーでの栽培面積は1963年には4,000 haであり約913,000本を栽培しており、その内でÓHGGINO郡が生産の大半を占め、2,112 haの栽培面積で450,586本定植されていた。

主なる品種は、ワシントンネーブル種で30%を占め、つづいてTHOMPSON種で710 ha、パレンシア種535 haとなっている。

品 種	栽培面積 (ha)
ワシントン	1,276.3
チレーナ	897.8
トムブソン	710.2
パレンシア	534.7
ツンカーナ	300.6
その他	270.0
合 計	3,989.6

南米諸国のミカン生産量増減率(1961~1965)一覽表  
(1961=100)

国 別	生 産 率				
	1961	1962	1963	1964	1965
アルゼンチン	100	99.4	95.3	101.3	80.6
ボ リ ビ ア	—	—	—	—	—
ブ ラ ジ ル	100	105.1	119.6	116.6	129.7
コ ロ ン ビ ア	—	—	—	—	—
チ リ ー	100	101.2	101.0	101.2	101.2
エ ク ア ド ル	—	—	—	—	—
メ キ シ コ	100	114.2	110.7	111.3	112.0
パ ラ グ アイ	100	104.8	107.9	111.1	114.4
ベ ル ー	—	—	—	—	—
ウ ル グ アイ	100	101.9	103.8	105.8	107.7
ベ ネ ズ エ ラ	100	104.2	108.7	113.3	118.1
平 均 率	100	106.0	112.3	112.2	116.2

#### リンゴ (MANZANA)

すでに一般的に認識されているが、アルゼンチン国に於いて、リンゴ栽培はアルゼンチン国内での消費はもちろんのこと、果物として最も多量に輸出する果物であり、その商業としても著しく、ア国での一つの重要な永年作とされている。

リンゴの生産量の上昇傾向が見られるが、それが商業に対する重要性を持つようになったものである。

アルゼンチン国で最も気象的に果樹栽培に対して適地と云えるのは、アルトバリエ・デ・リオ・ネグロ、ネウケン地方であり、着実な前進をつづけている。

#### 桃 (DURAZNO)

夏期の果物である桃は、他の果物(リンゴ、ナシ等)のような重要性は持たない。アルゼンチン国での1961~1965年の桃の生産量は平均419,000トンで、世界生産量の9%を示している。

南米諸国の全生産量の45.5%がアルゼンチン国で、17%がブラジル、16.7%がメキシコ、14.6%がチリー、3.8%がウルグアイ、2.1%がエクアドルとなっている。

アルゼンチン国では1940/41年より1968/69年までの28年間に桃の生産量は90,380トンより248,460トンと増大し、年間6.2%の増産率となっている。なお今年、ブエノスアイレス郡のサンベドロ地方での桃の新植が著しく、多く増植しており、4年後には多く生産されるものと思われる。

## ブドウ (UVA)

1961～65年のALALCでの生産量は3,087,000トンにまで達しており、世界生産量の7%を示している。

南米では、アルゼンチン国がブドウ栽培に於いては主国であり、75.6%を占めている。続いてブラジルが15.0%、メキシコが2.6%、チリーがわずか0.3%とALALC事務局の統計で示されている。



## <第2編>

### ボリビア綿の輸出ルートの開拓及びペルー国綿作状況について

#### I 調査の目的

沖縄移住地は営農の柱となるべき牧畜が未だ軌道にのらず、また従来農業粗収入の大きなウエイトを占めていた米作に於いては、近年、相次ぐ早魃に見舞われており、当移住地の安定を図るために先づ米作に代り得る有望な新規作物の開発・導入を図る必要にせまられている。

なお地域の気象条件は、綿花栽培に適しており、また、移住地周辺には既に綿花の大面積栽培例があることから当地での綿花栽培は極めて有望視されるが、これを導入するに当っては、事前に輸出市場の有無、又当該国が内陸国であることから、この輸出に当っての搬出方法を調査しておく必要があり、又当国の実情（移住地近傍に繰綿工場があるが、当国の場合そのほとんどが直営農場方式をとっており、自家生産綿の繰綿で手いっぱい、他の生産地綿を繰綿するだけの余力がない）から移住地で新たに綿花栽培を行う場合、それに見合った独自の工場を建設運営する必要も考えられることから、上記調査に併せ繰綿工場の規模・運営方法等を含め近隣先進国であるペルー国等の状況について調査を行ったものである。

#### II 調査者

サンタクルース支部

沖縄移住地入植者 山城 興喜  
比嘉 昭八

#### III 調査地

アルゼンチン国 サルタ市  
チリ 国 アントファガスタ市及びアルカ市  
ペルー 国 リマ市及びタクナ市

#### IV 調査内容

##### I ボリビア綿の輸出ルートの開拓について

##### (i) ボリビア綿搬出コースの距離及び所要時間について

<経路> アルゼンチン国サルタ駅経由、チリ国アントファガスタ港迄の場合

I. サルタクルース駅～ヤクイバ駅間	540 Km	20～24時間
II. ポシート（ヤクイバ駅）～サルタ駅間	416	12～15 "
III. サルタ駅～ソコンバ駅間	576	30～35 "
IV. ソコンバ駅～アントファガスタ駅間	331	10～12 "
	1,863	72～86 "

注1. アルゼンチン国有鉄道の時間表によると、上記IIのポシート（ヤクイバ市）～サルタ市間

は 316Km, 前サルタ市～ソコンバ市間が 571Km となっている。よってこれによる場合計 1,758Km となる。

2. なおチリ一国の通関代理業 ULTRAMAR の調査ではこの間の距離を 1,848Km としている。

(ii) 運賃について

区 間	ton 当り					
	各駅に於ける調査		チリ国通関代理業者		サンタクルース通関業者	
サンタクルース駅～ヤクイバ駅	#b	134.75	#b	137.35	#b	134.75
ポシート(ヤクイバ駅)～サルタ駅	peso#	26.24	} peso#	44.19	} \$b	152.43
サルタ駅～ソコンバ駅	#	31.96				
ソコンバ駅～アントファガスタ港	Escudo	129.73	Escudo	129.73	\$b	70.89
					\$b	358.07

注 1. 各駅に於ける聴取調査による場合のポシート駅からサルタ経由ソコンバ駅間の運賃はサルタ駅大貨物係より聴取したもので、これは綿についての価格であるが、その他サンタクルース～ヤクイバ間、及ソコンバ～アントファガスタ間については一般荷物の運賃である(綿の場合は詳細不明であるが、一般荷物の場合に比し若干安値の由である)。

2. 夫々の調査により若干の相異があるが、これは算出距離数の差と綿品目、一般荷物との価格差によるものと思料される。

3. 本調査は ton 当りで算出されたものであるが、貨車を借切の場合貨車単位による運賃となる。

(iii) 貨車運行回数と貨車台数について

区 間	運行回数(1週間当り)	運行当り貨車台数
サンタクルース駅～ヤクイバ駅	3回	} 10～30 輛
ポシート(ヤクイバ駅)～サルタ駅	5回	
サルタ駅～ソコンバ駅	3回(月・火・金)	10～15 輛
ソコンバ駅～アントファガスタ港	1回以上	10～12 輛

注 貨車運行回数については、不定期特別便を除いた回数である。

(iv) 貨車積載量について

貨車の規格・型式: TARA, 有蓋車, コンパートメント式

重量: 自重 12～16ton, 荷積量 15ton

注 小荷物を除き大貨物の場合、15ton 以下でも貨車料金は 1 貨車となる。

(v) 綿輸出用特別仕立貨車の可能性について

アルゼンチン国サルタ駅には現在貨車等に 1 運行(30 輛)分の余裕があり、注文によりこれが集結は充分可能の由である。(サルタ駅調べ)

(vi) アントファガスタ駅、港の諸手続について

1. アントファガスタ港の荷物取扱可能量は2,000～3,000 ton 程度が見込まれるが、鉄道駅での荷の運搬倉庫等の関係から400～500 ton単位が望まれる。

なお荷が大量となる場合、アントファガスタ駅（港）での積おろし場所が不十分なことから、貨車の到着と船への積込みについて慎重な計画を立てておく必要がある。

2. 綿輸出に関し運賃・諸手続費用、又必要書類等の参考となる事項を海運業者ULTRAMARより入手したので添付する。

なお、ULTRAMAR社長より聴取したところ、サンタクルースよりポリピア綿を5,000 ton 日本向けに現調査の鉄道便コースで輸出した旨、運送兼通関代理業者Morroy (TEL 2-3677 Nulfo chavez 134)より連絡が来ており、現在これのCotizacion (値段表)を作成中であるとのことであった。

(vii) 主な調査先

1. ポシート（ヤクイバ駅）：TARIFA係並びにCONDUCTOR
2. サルタ駅：INFORMACION, TARIFA, 及び大貨物運賃係
3. サルタ市：通関代理運送業者 Villalonga Furlong  
サルタ支店（393 Alvarado Salta）
4. アルゼンチン国チリ領事館（Tel 10827, Zuviria 127, Salta）
5. アントファガスタ駅：Boleto係
6. アントファガスタ市：海運業兼通関代理業 ULTRAMAR
7. ソコンバ市：アルゼンチン側税関出入国係

II ベルー国（リマ市近郊）の綿作と綿織工場について

(i) 綿作状況について

戦後のリマ市近郊の綿作は、リマ市の発展（都市化）並びに近郊に於ける綿作禁止令により蔬菜果樹園芸に転向しつつあることから作付面積・生産量の増加は見られず、減少の傾向にある。なお綿作の中心は南部のPISCA, INCA地方に移動している模様である。

リマ市近郊としては約80～120km離れたValle chancay及びValle haprai等に若干の綿栽培が見られる。なお栽培品種は長毛種TANGUIでEGIPCIO種系と思われ毛の長さは約32mm以上のものが多い。

(ii) 栽培について（慣行法）

播種量：ha当り22～36Kg

植付期：11月～1月（夏期）、条播、畦間0.8～1.2m

中耕除草：人力・機械兼用（フィールドカルチベーター、ディスクハロー、スルカドール等）

施肥：化学肥料、NPK配合肥料

農業散布：数回，ホリドール（有機P剤）系農薬，動力背負散布機（共立社製）を利用，スピードスピレー等の利用は少ない。

灌 溉：中耕除草時に灌漑用溝掘りを行う，用水路は素掘りであるが，各ポイントのサイホンや量水施設は石・コンクリートにて造成されている。なお水源は河川である。

収 穫：4～6月，手摘みが多い。以前機械収穫のテストが行なわれたが，葉の混入で品質を落した経緯がある。

収 量：日系人の最高 ha Rama 180 qq，下位 60 qq 程度（1 qq ≒ 46 Kg）

価 格：製品 qq 当り TAGUI 種 \$ 36.00（工場渡し）

生 産 費：機械抜根熟畑耕地の場合で約 369 \$

損 益：ha 当り 60 qq として製品は 26 qq となる。よって差引収支は  $26 \text{ qq} / \text{ha} \times \$ 36.00 / \text{qq} - \$ 369 / \text{ha} = \$ 567$  となる。

そ の 他：綿花の 1 本当り数量は 100 個以上で草丈は 1.8 m 以上に徒長している。また年間 1 作のみで冬期作がなく地力の消耗が激しい為，最近輪作が考えられているようである。

### (iii) 製品の規格について

品質規格は 7 段階にわけられている。

- |                          |        |        |
|--------------------------|--------|--------|
| 1. Good Middliny         | G.M.   | } リマ地方 |
| 2. Strict Middliny       | S.M.   |        |
| 3. Middliny              | M.     |        |
| 4. Strict Low Middliny   | S.L.M. |        |
| 5. Low Middliny          | L.M.   |        |
| 6. Stricto Good Ordinary |        |        |
| 7. Good Ordinary         |        |        |

Valle chancay, Valle huaral 地方で産出されるものは，3. の M 及び 4. の S.L.M. が多い。

### (iv) 繰綿工場について

1. ベルーの繰綿工場の機械は戦前からのものが多く，年数にして約 20～30 年前のものである。機種は Continental 社製が多く，約 70% と見られる。その他は Murray 社製，Lumus 社製等である。

性能は Continental，Murray 社製が良く，Lumus 社製は若干劣る様である。

なお，この Continental，Murray 社製ですでに 35 年稼働しているものがあるが，今後まだまだ充分活用できるとされている。

2. Valle chancay, Valle hapral 地方の繰綿工場は 5 月から 8 月頃迄稼働しているが，収穫時期頃から霧に被われ湿度が高くなり，繰綿能力（時間当り）が低下するため乾燥を要し，これの大倉庫が必要とされている。

3. Ing Jose Rojas Melgan 氏経営の繰綿工場について

ア. 繰綿機械：規格 Crassley Manchester 140HP 2基 230PPM 英国製（乾燥機なし）

イ. 稼働期間：本年は5月15日から8月末迄の予定。

1日10～12時間の稼働し、約300～350 罎の繰綿能力がある。尚、同工場の自家作付面積は350haのみである。

ウ. 機械管理

綿 吸 入 口	2人	} 全工場計 10人
繰 綿 機 械 付	2人	
プ レ ス 機 械	3人(種子扱含む)	
包 装 梱 包 関 係	2人(出荷 " )	
工 場 エ ン ジ ン 等 管 理	1人	

(v) その他参考事項

ア. Valle Huaral 近郊では綿栽培者が集約的蔬菜作等に転作しており、綿作付面積は減少しつつあるので繰綿機械を工場を含め売却中の例がある。

イ. 油脂工場に売却する種子は1 罎 - 110sol (\$2.6) で、播種用の種子はペルーの国内で消毒したものを使用している。

ウ. ペルー産の長毛 Seda ofibra largo は民芸特産品の羊、リヤマ、アルパカ等の毛織物等に混入させているので国内需要が多い。なお価格もよいのではないと思われる。

エ. ペルー国の綿の輸出状況はデータがなく明らかでないが、日本、西独、英国、北米等の国々に輸出されている模様である。

オ. ペルー国の綿生産量は工場には古いデータしかなく、次のとおりである。

1956	117,000 ton
1957	117,000 "
1959	139,000 "
1960	139,000 "
1963	140,000 "
1964	140,000 "
1965	141,000 "

(vi) 主な調査先

1. Ing Jose Rojas Melgan (Hacienda Jesus de Valle Huaral)

2. Los Gavilanes 280 LIMA (繰綿工場経営者)

3. Peru 沖繩県人会 (TEL 27-1999 Miro Quesada 1060)

会長, 天願庄太郎および副会長

4. Valle Chancay 沖縄県人会長  
伊芸銀勇 ( Valle Jiron maranon 137 )
5. 田添元男  
( Jiro Washinton 956 TEL 28-2982 )

Exportacion Algodon al Exterior/Chile desde  
Santa Cruz/Bolivia

- 1.) La capacidad de exportacion o sea embarque del puerto de Antofagasta no tiene limites. Es factible por ejemplo el embarque de 2000 o 3000 toneladas en un solo vapor, pero en la practica recomendamos embarques de maximo 400 a 500 toneladas por vapor en vista que las canchas de almacenamiento del Ferrocarril de Antofagasta a Bolivia son limitadas, y en el momento de la llegada a Antofagasta hay que descargar el algodn a piso(almacenes) para no incurrir en el pago de estadia de los carros FCAB. Unos dos o tres dias antes de la llegada del buque el algodn sera embarcado nuevamente a carros gondolas o carros planos para su transporte al puerto y su embarque al buque.  
Los obreros portuarios no trabajan en el puerto de bodegas Ferrocarril al buque sino solamente de carros gondolas o carros planos.
- 2.) Sobre el precio Cif. del algodn que importa chile consultaremos Ultramar Santiago y enviaremos contestacion a Toyota o Uds. en Santa Cruz. Igualmente sobre la capacidad de consumo del pais.
- 3.) Gastos de Embarque hasta FOB. incluyendo descarga en los patios y almacenes del FCAB, almacenaje, embarque a carros planos o gondolas, arriendo de gruas y horquillas, arrastre a la entrada del puerto, arrastre al sitio de embarque en el puerto, embarque al buque, devolucion de los carros vacios, comision. Extra Gastos Cables, Telex, Arriendo Lonas para cubrir.

E° 153.78 por tonelada de 1000 Kilos.

Fletes:	Santa Cruz/Pocitos	\$B.	137.35	? Confirmar en
	Pocitos/Socompa	\$Arg.	44.19	Sta. Cruz
	<u>Socompa / Antofagasta</u>	E°	129.73	Minimum 15 Toneladas por bodega pago flete.

Si en la bodega entran solamente digamos 10 Toneladas hay que pagar por 15 Toneladas.

- 4.) Documentos que se requiere para la exportacion a Ultramar-Japon etc.  
Copia de la Carta de Porte del Ferrocarril de Santa Cruz.  
Copia de la Poliza de Exportacion Boliviana debidamente legalizada.  
Certificado de Sanidad (copia) en lo posible.

Para Chile:

Carta de Porte Original Visado por el Consul de Chile en Bolivia  
Poliza de Exportacion Boliviana visada y tramitada.

Factura Comercial l Original y cuatro copias, Minimum,  
Permiso de Importacion del Banco Central de Chile, enviara el  
importador chileno a nosotros.

Certificado Sanitario, Certificado Origen (Alalc)

No insertar en una Carta de Porte del Ferrocarril dos consignatarios. Si en una bodega embarcan para dos consignatarios hay que extender dos cartas de porte.

5.) Instrucciones de Embarque para Exterior:

- A.) Embarcador
- b.) Consignatario
- C.) Notify
- D.= Marcas y Numeros
- F. Cantidad
- G. Descripcion de la Mercaderia
- H.) Peso en Kilos
- I.) Flete por pagar donde o flete pagado??

Antofagasta 11 de Junio de 1971

Juergen Jordan H.

6.) Pagos: Fletes Bolivia en Santa Cruz, Argentina en Pocitos,  
Antofagasta parte Chile.

El flete de la Seccion Chilena y los Gastos de Porte (Embarque)  
Uds. pueden pagar en La Paz en Pesos Bolivianos a nuestros  
Agentens Srs. Pacor Ltda. Calle Potosi 940, Casilla 2236 quines  
remesaran a nosotros el equivalente en Escudos.



ポルトアレグレ支部編

温帯果樹類のサンパウロに於ける市場性について

## I 調査の目的

当地区には、ポルトアレグレ市以外に卸市場がなく、その為販売単位が非常に小さく、このままでは卸市場が行き詰まることが予想されるが、特に温帯果樹類については今後、さらに大きな生産が見込まれることから、サンパウロ等大都市市場の動きも調査把握しこれに対処する必要があり、本調査を実施したものである。

## II 調査者

ポルトアレグレ支部

## III 調査実施期間

1971年2月5日～1971年2月14日

## IV 調査地

サンパウロ市及びその周辺

## V 調査内容

### 1 各種統計資料による分析及びその考察

#### 1) 伯国於ける果樹類の消費量

伯国の食品中に占める果物の位置は一応先進国なみの消費量となっているが、これは当国の気象上極めて容易にどこでも生産されるバナナ、オレンジ、パイナップル等が量的基礎になっているからと思われる。(第1表参照)

(第1表) 主要国別の食品消費状況(国民1人当, 1日グラム数)

区分 国名	期 間	国類	イモ類 及 澱粉質	糖類	豆 類 堅果類	野菜	果物	肉類	卵	魚	乳	油脂類
1 イタリア	1966/67	360	120	72	26	430	321	106	26	16	418	48
2 ドイツ	1967/68	192	303	97	12	172	308	193	40	16	558	73
3 <u>ブラジル</u>	1966	269	453	100	88	52	242	74	8	10	145	18
4 米 国	1967	177	133	133	23	269	239	295	51	17	665	61
5 アルゼンチン	1966	268	202	90	6	124	229	309	21	8	338	41
6 カナダ	1967	186	210	134	12	228	227	250	40	17	638	57
7 フランス	1966	235	277	91	15	350	196	222	31	23	607	65
8 英 国	1967/68	200	283	135	16	173	139	206	44	26	600	60
9 ウルグワイ	1966	277	150	134	6	108	136	310	13	7	584	36
10 日 本	1967	380	188	57	45	362	121	37	31	84	118	19
11 イ ン ド	1965/66	346	39	50	41	—0—	44	4	1	3	110	9

FAO-「THE STATE OF FOOD AND AGRICULTURE=1969」より。

## 2) リオグランデ・ド・スール州に於ける果樹栽培状況

リオグランデ・ド・スール州の果樹生産動向は伯国に於いて他州に余り類を見ない特質を持っているが、これは次の如き背景によるものである。

イ．亜熱帯又は半温帯圏に位置することから、生産種目の範囲が比較的広く、バナナからリンゴに至るまで、しかもそれぞれに特産地区を形成して、比較的調和よく生産されていること。

ロ．過去10ヶ年相当の間に各種目別の栽培面積、生産量上の上下差がかなり大きく見られるが、特に経済作物としての価値づけが流通経済機構の移り変わりによってそれなりになされつつあること。

例えば比較的適地が少いにも拘らずバナナはこの10年の間に栽培面積が倍加し、その上生産量においては約6倍までに成長して生産額でも第2位に進出していること、又オレンジの場合は殆んど生産面では成長のあとが見られない位置に止っていること、又パイナップルの如きは栽培面積は35%程度減少しているにも拘らず生産量面では3.5倍になって第12位から一躍第5位にのしあがっていることなど。

ハ．今後これらの情勢はおおきく変動してゆくのではないかということが、最近の州農業政策の動きからも察知されつつあること等である。(第2表参照)

(第2表) 一統計書にみるリオグランデ、ド、スール州の果樹栽培の動向一

1,960年					
順位	種 目	栽培面積 (ha)	生産単位	生産量	金額 (Cr \$)
1	ぶ ど う	69,683	ton	429,130	3,286,173
2	オ レ ン ジ	17,591	1,000個	921,052	5,083,54
3	バ ナ ナ	3,366	房	451,032	174,032
4	も も	5,238	1,000個	267,754	139,095
5	み か ん	2,866	1,000個	291,782	129,618
6	ト マ ト	428	ton	3,635	62,875
7	レ モ ン	764	1,000個	67,755	47,738
8	な し	2,272	1,000個	91,335	47,337
9	い ち じ く	1,079	1,000個	136,134	45,370
10	か き	1,088	1,000個	72,946	41,698
11	り ん ご	911	1,000個	25,857	31,211
12	パイナップル	3,351	1,000個	6,460	28,069
13	マルメロ	1,153	1,000個	39,649	25,757
14	アバカテ	344	1,000個	4,312	22,050
15	オリーツ	376	kg	318,875	8,438

1969年						
順位	種目	栽培面積 (ha)	対1960 100の 指数	生産量	対1960 100の 指数	金額 (Gr\$)
1	ぶどう	45,228	65	293,959	69	50,780,327.00
2	バナナ	7,710	229	274,349.99	608	33,226,206.00
3	オレンジ	18,918	108	1,116,762	121	24,135,337.00
4	もも	16,331	312	629,980	235	10,635,898.00
5	パイナップル	2,148	64	22,996	356	9,234,690.00
6	みかん	4,001	139	385,061	132	5,367,435.00
7	トマト	1,491	352	12,306	339	5,078,233.00
8	いちじく	1,564	145	182,224	134	1,711,830.00
9	レモン	1,217	159	97,499	144	1,513,401.00
10	アバカテ	506	147	18,205	422	14,896,560.00
11	なし	22,44	98	102,725	112	14,092,960.00
12	りんご	1,011	111	37,250	144	858,458.00
13	かき	1,045	96	80,252	110	765,986.00
14	マルメロ	866	75	39,074	98	661,627.00
15	オリーブ	843	224	845,209	265	655,989.00

ANUÁRIO ESTATÍSTICO DO ESTADO DO RIO GRANDE DO SUL - 1961  
1970. より

なおりオ. グランデ. ド. スール州の果物経済に対する政府機関の開発策の重点柱は次の3つに要約することが出来るが、又このことは第2表によっても充分納得しうるであろう、即ちそれはイ バナナ、アバカテ、パイナップル等熱帯果物産地の経営経済の拡充

ロ モモ、ブドウ、オレンジ、パイナップル等加工業に連なる果樹地帯の拡充と加工産業の積極的な誘致拡充

ハ 温帯果樹地帯の優良品種、技術改善をはかり、生果品としての積極的な移出推進である。

3) 南米地域温帯果樹生産地の気象条件

温帯果樹の開発に於いてリオグランデ. ド. スール州は、恵まれた気象条件を有していると思料するが、しかし、今後生産コストの研究とともに品質的にどこまで伸ばしうるかが問題となろう。

又特に国際市場性、貿易の自由化移行の中にあつては、この点今後の研究が一層重要となってくる。

この意味で特に南米に於ける温帯果樹生産地の気象条件より、今後の動向に検討を加えてみた。

(i) 温帯果樹生産地の月別平均温度比較

先づアルゼンチン国の輸出果樹栽培地方に比べて全般的に伯国内の産地は、冬期の温度が高い、このことは、温帯果樹の経済種目に決定的な制約を与えているものである。但し生産経済の制限要素とはなり得ないぶどう、桃等の場合は、このような平均温度の差異が返って生産時期のズレとなってお互に競合を逃れている。近年ネクタリンの栽培と将来のリンゴ開発で多大の注目を集めつつあるサンタ・カタリーナ州クリチバーノス郡は、少くとも平均温度の傾向からみれば、新興の有力地帯としてその利を得ているものであるが、それでも亜国の既成先進地方と比べれば、冬期の温度には、かなり大きな差を認めざるを得ない。たゞ非常に興味あることは、夏期の平均温度においては、むしろ亜国各地の方がはるかに高いことである。従って年平均では、大して大きな差が認められないことがわかる(第3表参照)

#### (ii) 伯国内に於ける温帯果樹主要生産地の降雨量比較

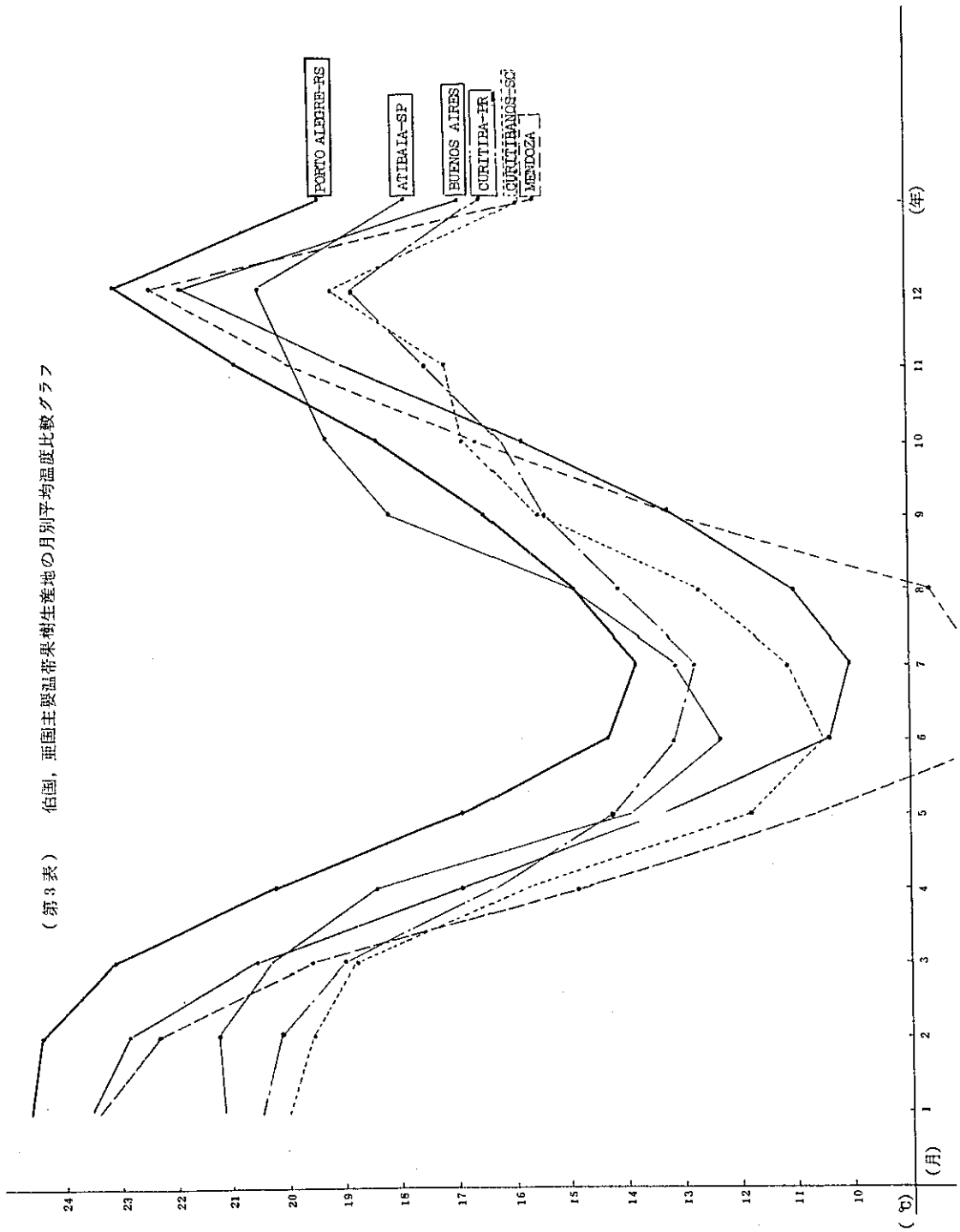
サンパウロ州関係各地では完全な冬乾夏雨型で、しかも冬期と夏期の雨量差が非常にはげしい特徴をもっている。このことは、多くの果樹の萌芽期にある早春期の果樹園灌漑を必須技術設備として発展せしめているわけであるが、そのかわり成熟収穫期に自然降雨が多いため、多くの果物の糖度が低いという欠点をもたらしめている。例えば本調査期間中にサンパウロ中央市場に出廻っているイタリア、ブドウでは、外観は実に美事であるが、糖度13~16度で低く極めて大味であった。

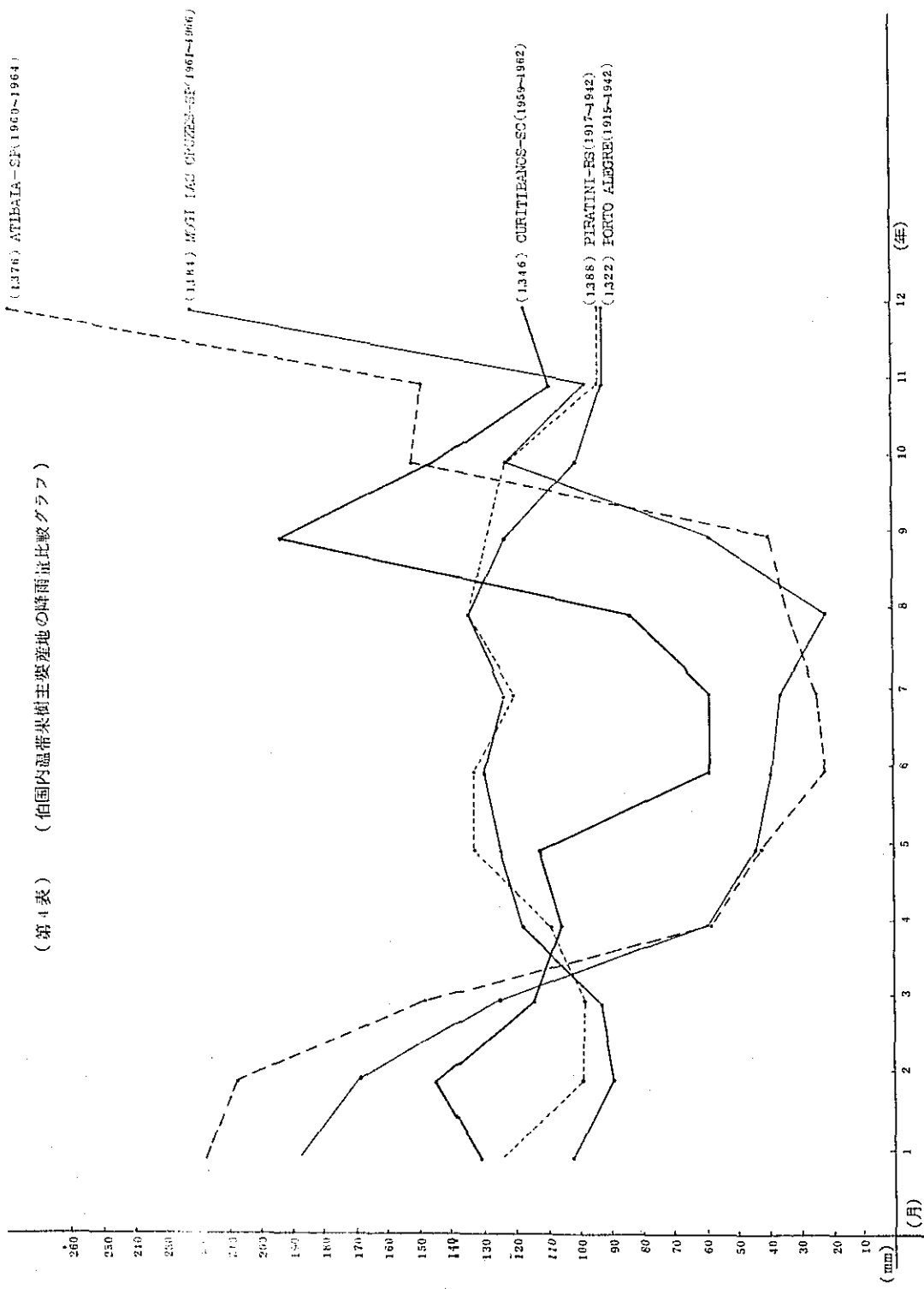
一般的にヨーロッパ各地で定説となっている生果ぶどうの適正糖度18度からすれば、極めて低いものであり、例えば輸出貿易価格上引き合うところまで落ちついたにしても、比較的品質にうるさいヨーロッパ市場で13~16度程度の味では果してどの程度まで進出できるか疑問である。この点例えば11月を中心として伯国の市場に姿をみせているチリ一国产のアレキ・サンドリア種や時期はずれの伯国市場を独占しているスペイン、ポルトガルのブドウは、前記18度を維持していることと比較検討してみなければならぬ。尤も現在のサンパウロ州を中心とする既成の果樹栽培は、流通機構未開発時代に自然的立地条件の不利を技術でカバーして進む日本人を基幹として発展しており、現状は多肥多収に過ぎている感がある。このため果物の特有の味まで若干犠牲にしているきらいもあるので、ヨーロッパ向けの輸出を企画推進する場合は、やはりそれなりの専門栽培が考えられなければならないであろう。

これに対しリオ・グランデ・ド・スール州の降雨配置は、サンパウロ方面とは完全に逆で、しかも年間の雨量が夏期を谷間にして、冬期は比較的多雨多湿という程度で、この点少くとも自然条件に栽培を半ばゆだねた形であり、味の点でも、一応満足すべきものが得られている。事実、この地方の果物は味がよいことは疑う余地がない。

但し、サンタ・カタリーナ州クリチバーノス地方(高冷地)では特にこの傾向が頻繁であるがリオ・グランデ・ド・スール州でも、亜熱帯園地帯の特徴として、この雨量配置が年により大きく狂うことがあり、この点では「今年の果物はうまい、今年の果物はまずい」という波を余儀な

(第3表) 伯国, 並国主要温帯果樹生産地の月別平均温度比較グラフ





くされているようである。

なおこのように南2州の果物は収穫期に雨が少ないということで、平均して味の点ではサンパウロ方面のものの追従を許さないが、収穫単位面積収量果物の大きさの点では概して小型であり、大型有位性のまだまだ強い伯国内果物市場では、現在のところ苦戦は免れないとのことである。

この意味では対外輸出向果物生産は、気象条件に恵まれているだけに、その可能性は高いとみななければならず、この点の経済政策的なものを関係機関、生産者組合に大きく期待したい。

(第4表参照)

4) サンパウロ配給センター(CEAGESP)に於ける各種果物の動き

i) サンパウロ市に於ける野菜果物の卸取引市場は従来のカンタレーラ中央市場が都市膨脹に伴っての規模拡張が出来なかったことから新たに近代市場を目標として郊外に大配給センターを建設した。このカンタレーラ中央市場及びCEAGESPに於ける1968年の果物の取引実績及びCEAGESPに於ける果物の入荷状況は第5表、第6表のとおりである。

(第5表) サンパウロにおける卸市場別主要果物の取引実績(1968年) (Cr \$)

種 目	市 場 別	数 量	平均価格	金 額	%
リンゴ(25kg/箱)	CEAGESP (新配給センター)	99244		853498,40	70,00
	CANTAREIRA (旧卸市場)	42533		365783,80	30,00
	計	141777	8,60	1219282,20	
メロン (kg)	CEAGESP	1180170		708102,00	70,00
	CANTAREIRA	505787		303472,20	30,00
	計	1685957	0,60	1011574,20	
イチゴ(4kg/箱)	CEAGESP	508960		3359136,00	80,00
	CANTAREIRA	127240		839784,00	20,00
	計	636200	6,60	4198920,00	
モモ(2kg/箱)	CEAGESP	1243158		3754337,16	70,00
	CANTAREIRA	532782		1609001,64	30,00
	計	1775940	3,02	5363338,80	
モモ(20kg/箱)	CEAGESP	7819		107745,82	70,00
	CANTAREIRA	3351		46176,78	30,00
	計	11170	13,69	153922,60	
高級ブドウ(8kg/箱)	CEAGESP	123965		2155751,35	70,00
	CANTAREIRA	53128		923895,92	30,00
	計	177093	17,39	3079647,27	
普通ブドウ(8kg/箱)	CEAGESP	1829286		12713537,70	70,00
	CANTAREIRA	783979		5448654,05	30,00
	計	2613265	6,95	18162191,75	



種 目	市 場 別	数 量	平均価格	金 額	%
パイナップル(個)	CEAGESP	7,160,322		5,227,035,06	40.00
	CANTAREIRA	10,740,483		7,840,552,59	60.00
	計	17,900,805	0.73	13,067,587,65	
スモモ(5kg/箱)	CEAGESP	1,433,67		702,498,30	50.00
	CANTAREIRA	1,433,67		702,498,30	50.00
	計	2,867,34	4.90	1,404,996,60	
オレンジ (30kg/箱)	CEAGESP	3,982,688		188,471,141,04	30.00
	CANTAREIRA	9,292,938		42,189,938,52	70.00
	計	13,275,626	4.59	61,037,079,56	
レモン (25kg/箱)	CEAGESP	2,937,26		3,089,997,52	80.00
	CANTAREIRA	73,431		772,494,12	20.00
	計	3,671,57	10.52	3,862,491,64	
ピワ(2kg/箱)	CEAGESP	80,424		727,837,20	50.00
	CANTAREIRA	80,424		727,837,20	50.00
	計	160,848	9.05	1,455,674,40	
カキ(25kg/箱)	CEAGESP	29,539		59,964,17	70.00
	CANTAREIRA	12,660		25,699,80	30.00
	計	42,199	2.03	85,663,97	
カキ(3kg/箱)	CEAGESP	2,152,87		1,382,142,54	60.00
	CANTAREIRA	1,435,25		921,430,50	40.00
	計	3,588,12	6.42	2,303,573,04	

"Comercialização de Produtos Hortifrutícolas no Mercado de São Paulo" - 1,968より

なお、モモ、リンゴ、メロン、ナツ、高級ブドウでは、殆んど2~4ヶ月の期間を除いて、多少の差はあるが、輸入果物が顔を出している事実は興味あることである。しかも年々輸入果物の出廻り範囲は急激にのびている模様で、これを別の面から云えば、サンパウロの如き大型市場では、殆んど年間を通じて需要があり、これが漸次拡充されつつあるということであろう。

この点ポルト、アグレ市場の如く、時期外れの果物に対する消費者の異和感、或は時期外れであるために当然生まれる高値の果物に対する経済的不利感、果物食生活にもまだはっきりしている嗜好範囲のせまき、単調さ等々から来る低調さから見れば流石にサンパウロが南米一の生活文明の都市であることが痛感される。

ii) その他参考資料

(第6表) サンパウロ市配給センター(CEAGESP)における主要果物の入荷状況(1968年)

(配給センター統計資料より)

種 目	入 荷 別	単 位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合 計
パイナップル	CEAGESP	個	824,170	163,347	119,441	131,479	79,890	191,396	257,734	768,504	991,711	1,073,344	1,162,456	1,396,850	7,160,322
ス モ モ	CEAGESP IMPORT.	5K箱	65,180	3,965	2,275	820	—	—	—	—	160	145	6,570	64,252	143,367
		8K箱	1,480	897	1,744	470	80	—	265	434	492	6	1,070	1,614	8,582
オレンジ	CEAGESP	箱	330,619	289,953	322,089	258,020	274,202	270,008	428,364	396,417	338,083	373,223	343,657	358,053	3,962,688
レモン	CEAGESP	箱	29,111	32,573	34,851	30,085	21,373	33,345	20,438	18,780	14,533	16,525	18,527	23,585	293,726
リンゴ	CEAGESP IMPORT	箱	40,196	23,433	9,521	1,663	166	1,920	8,010	5,964	2,133	354	2	5,882	99,244
		箱	17,295	16,491	49,517	52,073	51,786	53,675	69,204	75,367	69,943	69,342	32,873	46,378	603,944
メロン	CEAGESP IMPORT.	Kg	132,690	115,700	109,080	129,840	177,000	102,000	50,000	9,240	44,640	16,500	76,200	217,280	1,180,170
		15Kg箱	491	760	499	—	—	—	—	7,314	4,491	4,415	9,473	209	27,652
イチゴ	CEAGESP	箱	6,130	769	242	2,590	11,329	41,112	95,385	147,967	87,548	77,935	29,791	7,662	508,960
ナシ	CEAGESP IMPORT.	25K箱	44,537	27,117	24,160	4,114	65	—	—	717	103	—	315	19,824	120,952
		30K箱	9,036	15,403	12,367	8,236	7,661	5,936	8,154	9,033	7,115	5,557	3,335	6,101	97,934
モモ	CEAGESP IMPORT.	2K箱	31,578	3,632	75	25	—	—	—	2,611	22,749	183,201	483,164	516,123	1,243,158
		8K箱	1,425	65	463	540	—	—	—	200	465	—	2,520	150	5,828
高級ブドウ	CEAGESP IMPORT.	8K箱	52,453	45,862	16,713	1,426	—	—	—	—	—	—	—	7,513	123,965
		10K箱	—	1,515	4,092	6,328	5,485	3,576	476	1,297	1,189	4,879	5,313	3,011	37,161
普通ブドウ	CEAGESP	箱	748,120	577,402	136,011	95	102	—	—	—	—	—	3,463	364,093	1,829,286
ピワ	CEAGESP	箱	—	—	2,215	3,924	795	113	2	22	8,342	55,149	9,825	37	80,424
渋ガキ	CEAGESP CEAGESP	25K箱	45	21,879	107,583	72,080	13,700	—	—	—	—	—	—	—	215,287
		25K箱	—	2,915	16,751	9,137	736	—	—	—	—	—	—	—	29,539
ボンカン	CEAGESP	箱	—	12	1,911	29,901	77,111	56,280	58,582	33,571	5,387	1,757	33	155	264,700

(第7表) サンパウロにおける国産果物の取引とサンパウロの消費状況(1968年)

種 目	包装単位	数 量 (箱)	同 左 重 量 (トン)	サンパウロの消費量 (トン)
アバカテ	25kg/箱	595,411	14,885	9,923
パインアップル	1.5kg/個	17,900,805	26,851	17,900
スモモ	5kg/箱	286,734	1,433	955
イチジク	2.5kg/箱	807,741	2,019	1,346
ゴヤバ	3kg/箱	179,348	538	358
"	20kg/箱	208,784	4,175	2,783
オレンジ	30kg/箱	132,756,26	331,890	221,260
レモン	25kg/箱	367,157	9,178	6,118
"	35kg/箱	25,471	891	594
リンゴ	25kg/箱	141,777	3,544	2,362
マンゴ	25kg/箱	384,715	9,617	6,411
メロン	kg	1,685,957	1,685	1,123
スイカ	kg	98,707,550	98,707	65,805
イチゴ	4kg/箱	636,200	2,544	1,696
ナシ	25kg/箱	201,586	5,039	3,359
モモ	2kg/箱	1,775,940	3,551	2,367
高級ブドウ	8kg/箱	177,093	1,416	944
普通ブドウ	8kg/箱	2,613,265	22,505	15,003
ビワ	2kg/箱	160,848	382	215
カキ	3kg/箱	42,199	126	84
"	25kg/箱	358,812	8,970	5,980
タンジェリーナ	20kg/箱	59,778	1,195	798
パパイヤ	40kg/箱	604,818	24,192	16,128
バナナ	-	-	221,350	147,566

(注) "Comercialização de Produtos Hortifrutícolas no Mercado de São Paulo" - 1968より

(第8表) サンパウロにおける輸入果物の取引とサンパウロの消費実績(1968年)  
(サントス港陸揚分)

種 目	単 位	箱 数 (箱)	重 量 (トン)	サンパウロ消費量 (トン)	箱当平均価格 (Cr\$)
リンゴ	30kg/箱	2,413,624	72,408	36,804	2635
ナシ	30kg/箱	483,842	14,515	7,257	2915
ブドウ	10kg/箱	168,869	1,688	844	3121
メロン	15kg/箱	78,915	1,183	592	1800
スモモ	8kg/箱	63,996	511	255	2500
計	-	-	90,305	45,152	-

(注) "Comercialização de Produtos Hortifrutícolas no Mercado de São Paulo" - 1968より

(第9表) 輸入果物の年次別陸揚実績対照表(サンスト港関係分)

(箱)

区分 年次	りんご		なし		ぶどう		メロン		すもも	
	数量	指数	数量	指数	数量	指数	数量	指数	数量	指数
1965	1,443,598	100	173,669	100	42,929	100	6,418	100	18,914	100
1966	1,476,499	102	292,840	168	76,831	179	15,769	246	36,693	194
1967	1,997,822	138	440,092	253	119,658	276	29,151	454	53,982	285
1968	2,413,624	167	483,842	278	168,869	393	78,915	1229	63,996	338

## 2. 主要果物の市場的考察

## 1) ブドウの市場性について

(i) 従来伯国内で生産されて来た大部分のぶどうは、大部分がナイアガラ、イザベル等の生食加工兼用の普通ぶどうであったし、これらの種類の味覚は非常に大衆性もあり又栽培適地範囲も広範囲にわたることから、伯国では殆んどどの地方でも普及したようである。

特にイタリア系移住者子孫が多いリオ・グランデ・ド・スールを始めとする南伯4州の生産量は1964年統計に見ると約38万9千トンで、全国生産の実に98.8%を占めている。

特にリオ・グランデ・ド・スールは全体の57.6%、次いでサンパウロは23.6%という具合である。従ってこれらの州では、ぶどうの経済位置は非常に高く、特にリオ・グランデ・ド・スール州ではその生産額において、全農産物の第9位にランクされ、果物の中では筆頭の位置にある。しかも特にリオ・グランデ・ド・スール州においては、上記イザベル種を中心としてぶどう酒工業が非常な発展をすると共に、道路市場機構の改善と相まって、これらの中の選別された生果が市場に躍進するようになっている。

特に近年急激に重大問題化しつつあるぶどう酒市場の不振は、原料ぶどうの価格圧迫となり、生産者は途方に暮れるといった事態となりつつある。当然のことながら、これらの生果品としての市場進出は、年と共に激化しつつある。

このことは、いわゆる高級ぶどうの市場を大いに圧迫しつつあるもので、例えばサンパウロの如き大型市場にあって、高級ぶどうの最盛期である1月～2月の市況不振の大きな要因となっているようである。しかしながら現在までのところ第11表によってもその大勢がつかめるように平均して2.5～3倍の単価が高級ぶどうに与えられている。

これが今後どのように展開してゆくが予断を許さないが、何れにしても今後この時期の市況は大荒れに荒れると見なければならぬであろう。

(ii) 高級ぶどうの代表的品種であるイタリアブドウ(ピロバーノ-65)は、その市場価値について急激な伸びを見せており、先進の地帯では、邦人を支柱として、過去随分大きな利潤をもたらしているように思われる。

このことは当然その生産量にも変化をもたらしている筈であるが、コチア産組中央会のイタリア・

ブドウ入荷量状況(第10表)を統計で眺めてみると、やはり過去7年間にざっと10倍以上に伸びている。しかもその増加カーブがここ2~3年特に大きくなっていることでも明らかである。尤もこの増産量を地方産地別にみると、北パラナの早場物が筆頭のもので、従来の旧産地物の栽培面積が現在では70%を占めているのに対して、1974/5年頃の見込では、生産量においては、北パラナ物が全体の60%以上を占めるだろうとのことである。

たと今後注目してかからなければならぬことは、価格上昇率の問題であろう。すなわち、イタリア・ブドウも、他の多くの農産物のように「時代の寵児」的存在から、漸次経済的には、普通の果物の中にはいつつある事実を直視すべきであろう。

このことは、早熟端境期の有利な市場に君臨している北パラナの増反率に比べてその他の従来の地帯での増反率が非常に下廻っていることから伺える。

(第10表) イタリア、ブドウの入荷量及び価格変動状況表(コチア産組中央会抜)

年次	項目 入 荷 量	平均 価 格	農産物価格指数 より割り出した 価 格 見 積	生計費の上昇率 より割り出した 見 積 価 格
1961/62	5,133	1.85	1.85	1.85
1962/63	12,668	2.83	2.89	2.81
1963/64	20,536	5.23	4.50	4.90
1964/65	24,573	8.54	10.05	9.16
1965/66	32,844	13.91	13.38	14.82
1966	3,510	18.06	—	—
1967	67,575	14.40	19.90	28.14
1968	95,672	18.80	25.73	34.95
1969	160,987	20.17	30.88	41.93

(ii) サンパウロ市場は高級果物の取引については断然先進的である。この間、これら的高级果物に至るまでの過渡期にあっては、生産者側は云うまでもなく取引商人、組合でも予期外の混乱の時期もあったと考えられる。

そして、このような波は、漸次地方都市々場へと及んでゆく傾向にあるが、保守性の強い第2流3流の市場になるに従って、その波及速度は反比例的ににぶってゆく事実を認めざるを得ない。結論的に言えば、多くの市場では、まだまだ普通ぶどうが優先し、高級ぶどう進出、制圧の道は非常にきびしいものであろうと考える。

(付表1) コチア産組中央会が予想しているイタリア、ブドウの生産増強見込表

(箱数)

地区 年次	北パラナ	聖西地区	聖南西地区	聖北地区	計
1969/70	130,000	18,000	78,630	70,000	296,630
1970/71	180,000	27,000	95,000	80,000	382,000
1971/72	320,000	35,000	113,000	85,000	553,000
1972/73	450,000	55,000	140,000	90,000	735,000
1973/74	600,000	100,000	168,000	100,000	968,000
1974/75	700,000	120,000	205,000	110,000	1,135,000

(61.7%)

(付表2) サンパウロ州、北パラナ地方のイタリア、ブドウ栽培予想面積(1970)(ha)

地区	主要地区 (予想面積)	計
北パラナ	Bandeirantes(51), Asai(50), Londrina(41), Maringa(17), その他(24)	183(31.6%)
聖北地区	Suzano(50), Atibaia(33), Mogi das Cruzes(32), Jundiai(30), São José dos Campos(18), Ferraz de Vasconcelos(16), Aruja(13), Jacareí(11), Itatiba(7), Campinas(10), Braganca Paulista(7)	241 (45.3%)
聖西地区	Presidente Predente(10), その他(15)	25
聖南西地区	Nossa Senhora Alcanjo(38), Piral do Sul(17), Ibiúna(10), Sorocaba(8), その他(10)	83
合計	—	532ha.

## 2) イタリアブドウの市場性について

- (i) 月別入荷量の実績を見ると、1967年では1月、2月、3月と増加して4月には半減しているが、1968年では全く逆に1月から3月へ漸減している、又1969年には1月から2月に急に倍増し、3月には又急激に入荷量が減じたという具合で、何月が最も多いというハッキリしたものが出ていないようである。

これは、年により気象が変動したために起る早晚、収獲量の上下によるものであらうと思われる。この点モジダス、クルゼスの実験家で、ぶどうの高級指導者である平松薫氏の次の大体の方程式で示されるように、その年の温度、積算温度、日照量、栽培管理技術の如何により伸縮する

性質のものである。

例えば平松氏（コチア産組技師）の説明の主旨は、次のとおりである。

「イタリア、ブドウを若し7月20日に剪定すると萌芽は大体8月15日で、この間の日数は26.5日期間中の積算温度は約670度である。萌芽より開花の大体9月2日まで17日、この間の積算温度は約340度である。興味あることはこれまでの過程の $26.5 + 17日 = 43.5日$ 間は先づ従来産地別の差は極く僅少である。

問題は、開花から登熟採取までの期間の積算温度は大体2,700度から2,800度で、この間の日数は地方によって100日～160日の差がある。例えばMOGIDAS CRUESの場合、平均して128日である。

実はこの差が収穫期の早、中、晩を決定的なものにしているもので、この論法により、同じ国や地区によって、年による差が出るのは当然である、云々」

すなわち要約すると開花から登熟までの日照受光量が熟期を決定するというものである。実際問題として、例えば1970年/71年の収穫期では、サンパウロ地方の熟期が1ヶ月程度予定よりおくれていたし、当支部管内イボチ移住地の収穫期が、予定より1ヶ月早く来てしまったという番狂わせ的な現象に、一つの科学的示唆となるものであった。

- (ii) 月別平均価格について見ると、1967年は前項(i)で認めたように1、2、3月と入荷量が急上昇したにも拘らず、平均価格面でも、ゆるやかな上昇を維持しているが、1968年、1969年度では、入荷量の程度によって平均価格の上下が激しくあらわれているようで、この点1970年、1971年と更にこの実績は固定化の一途をたどっている。

特に2月は、市場の動きが避暑期でもあり急激に低下する月であるので、前述のように気象条件等が変異から、各地よりの出荷が集中化することでもなれば価格の暴落は必至で、例えば、

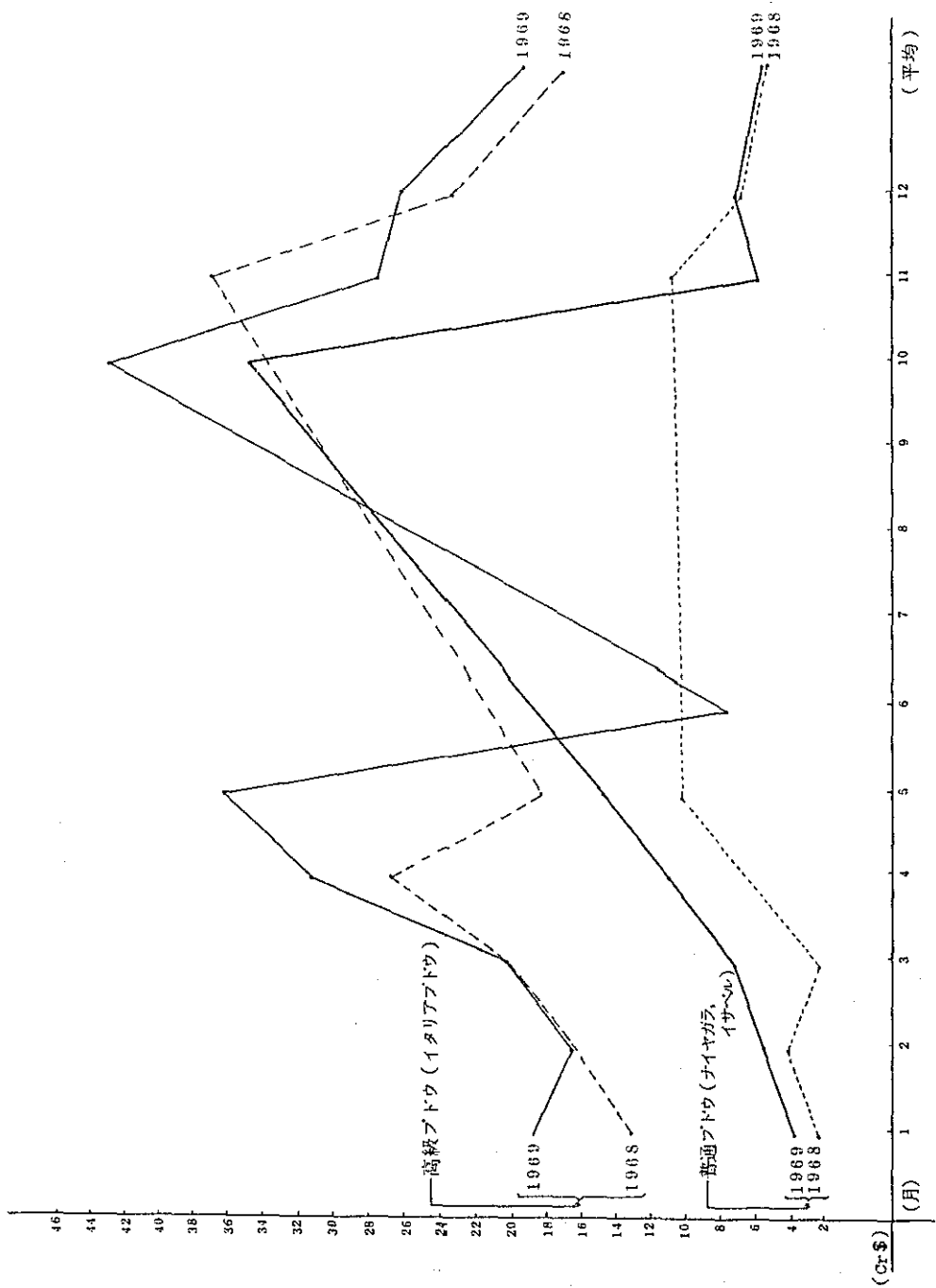
1969年の2月の入荷量と価格実績は、この典型的なものであったとのことである。

しかしながら3月から4月は、避暑あけで、季節的にはなお温暖であるので、その需要は回復するのが常であるところから、又この季節は各種果物の品薄期でもあるところから、価格は急激に好転するのが平均的市場筋の見方であった。

なお今後当分の間増産の道を辿ると云われる北パラナ地方の早出物の経済的市況は10月～12月がねらいであるので、漸次悪化はするであろうが、生産者の経済性をおびやかすような事態まではなお程遠いという感じがする。結局旧産地の聖市近郊各地では、全般的に立地性を反省検討する時期が到来しているようで、この面から、早出物は比較的温暖なアチバイア、ジュンジャイ地方を除いて、意識的にこれを回避して、できるだけ晩熟をねらうという方向に進んでいるようであった。

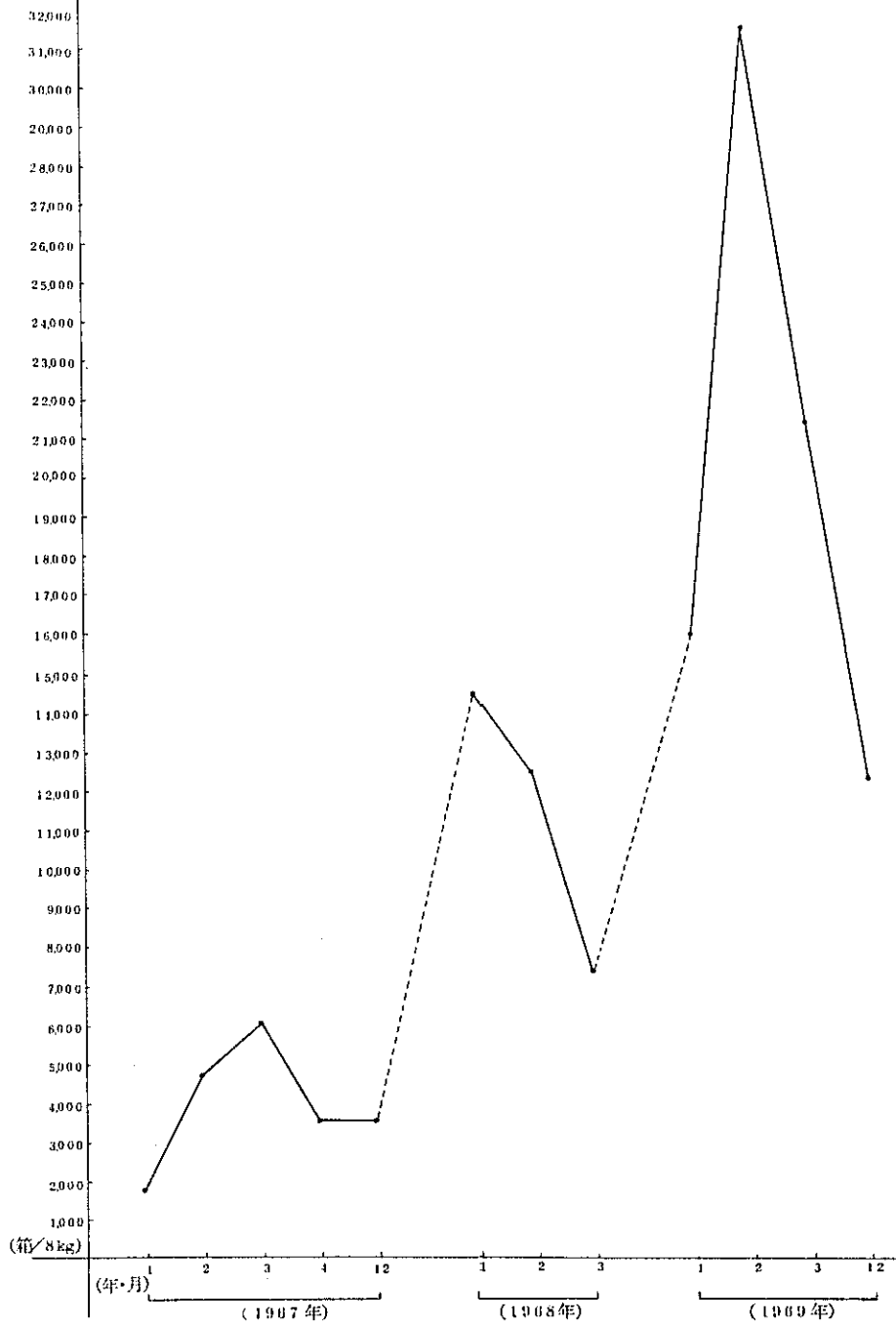
このための栽培技術上の研究が、非常に熱心に行われていることを各地の現地調査で確認できた。

(第11表) ぶどうの種類別価格実績グラフ (サンパウロ市中央南伯産組合扱いの1968~1969年分)

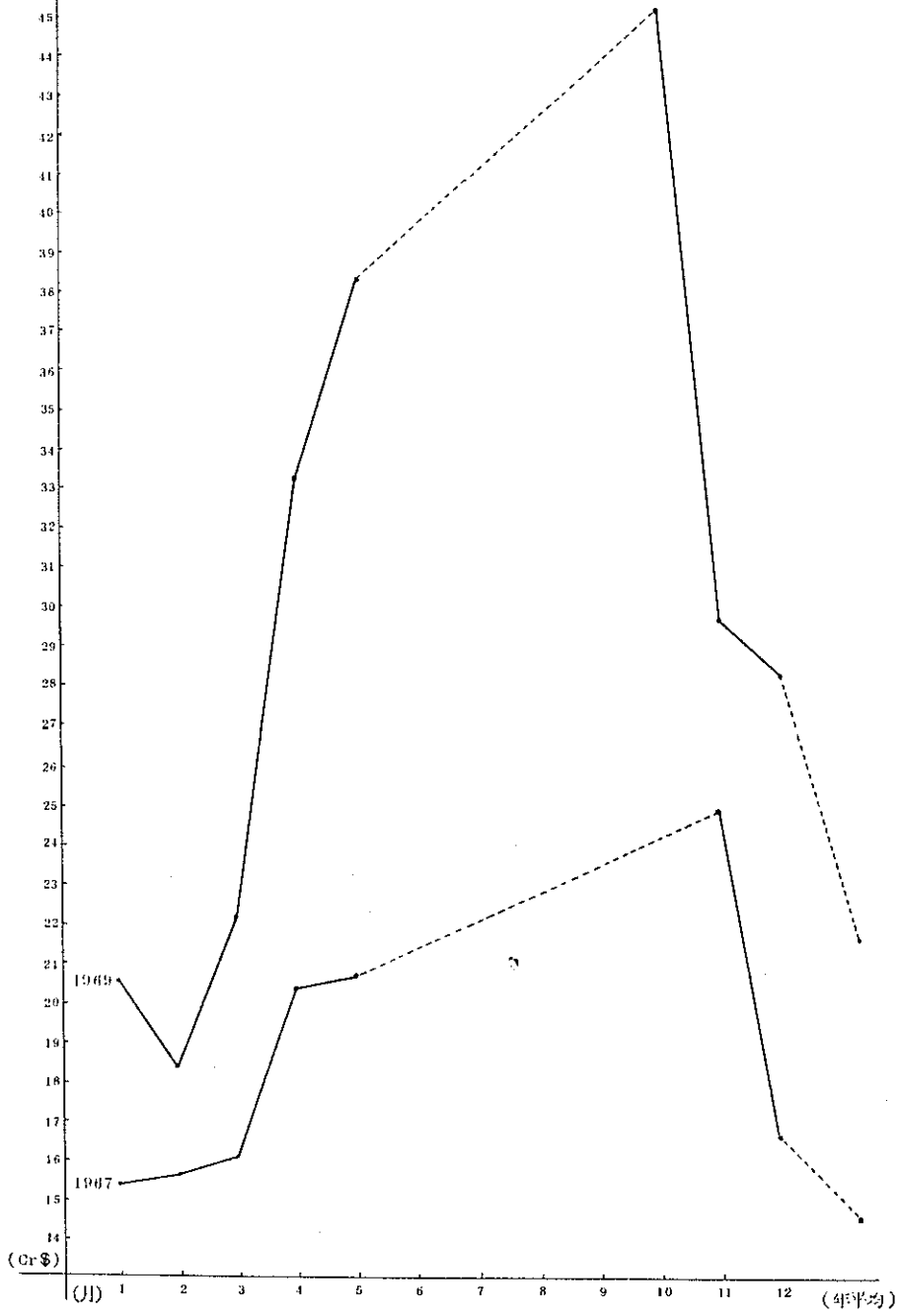




(第12表(伊)) イタリアぶどうの月別入荷量実績グラフ (南伯中央農産組合扱)

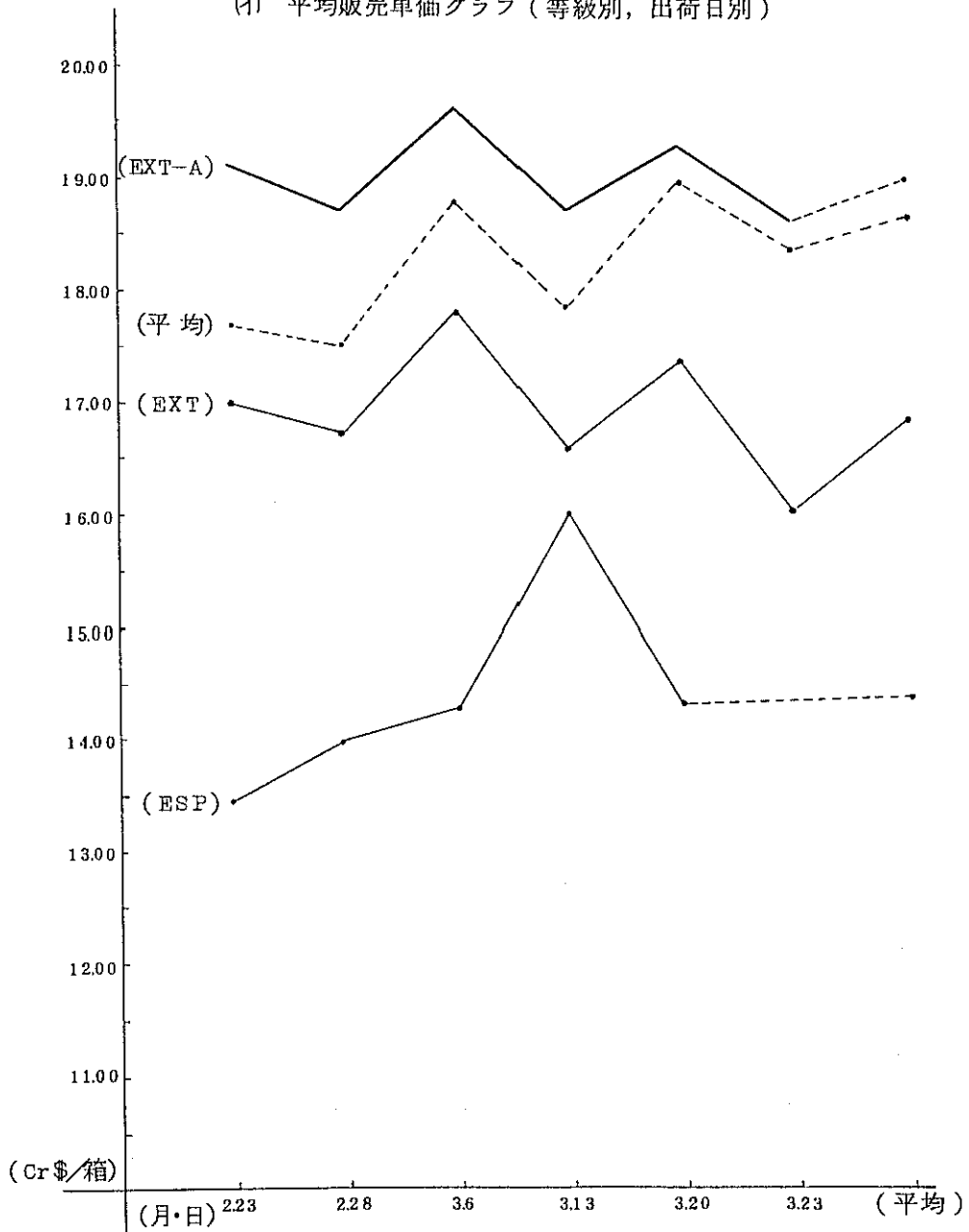


(第12表(回) イタリアぶどうの月別平均価格実績グラフ (南伯中央農産組合扱))

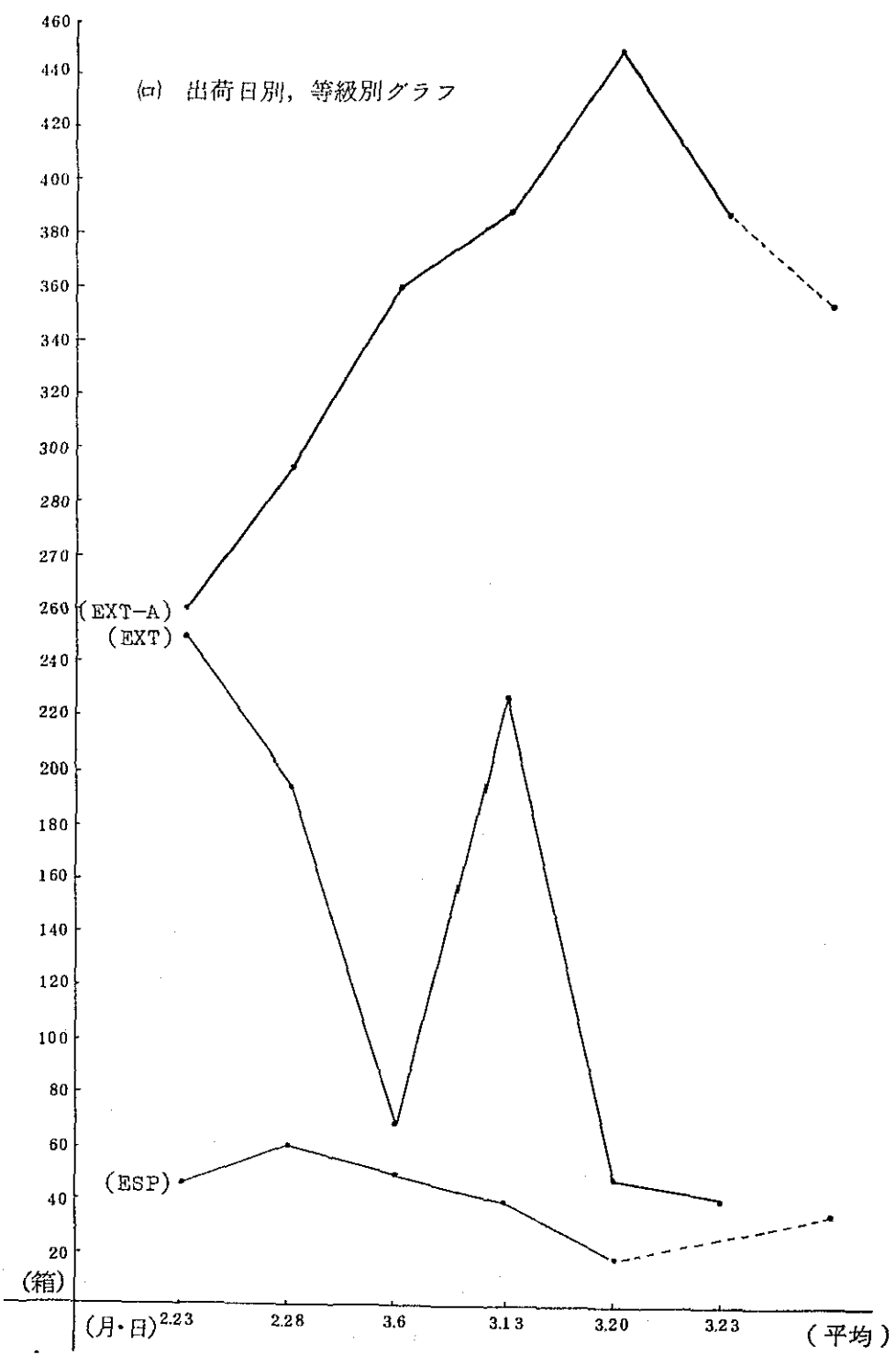


(第13表) イボチ移住地農協のイタリアブドウ サンパウロ市場実績(1971年)

(イ) 平均販売単価グラフ(等級別, 出荷日別)

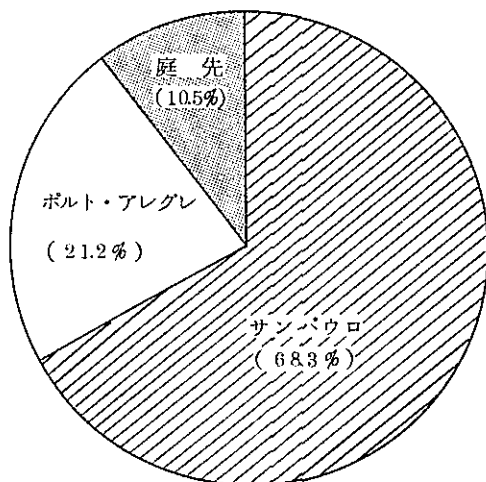


(備考) 各平均単価は、販売を委託した CIBRA-FRUTS 社の手数料10%を差し引いたものである。従って実際の価格はそれぞれについて10%を加算したものとなる。

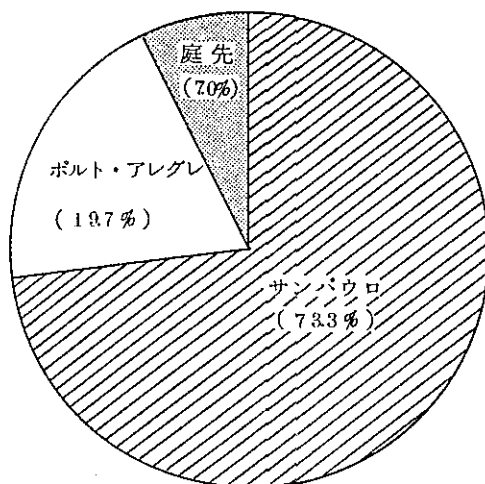


(第14表) イボチ移住地イタリア、ブドウ販売実績(1971年)

(イ) 出荷量



(ロ) 販売高



(II) 次に管内イボチ移住地のイタリア、ブドウの実績は、1971年においては第13表、第14表のとおりであった。すなわち出荷総量は38,671 Kg(4,834箱/8Kg)で、このうち68.3%がサンパウロ市場送り、次いでポルト、アレグレ市場向2.2%、庭先売10.5%となっている。

平均価格の面では、Kg当りサンパウロ市場分がCr\$ 2,563に対して、ポルト、アレグレ市場及び庭先売分がCr\$ 2,079となっているので、販売高では、サンパウロ市場向分が73.3%となっている。又出荷時期は予定の3月下旬～4月が繰り上って2月下旬～3月中旬となったが、平均価格実績では、規則正しい、ゆるやかな波状を示しているが、概して初めから終りまで殆んど横ばいの価格で取引されたようである。(付、3月末頃から市況は急激に好転して生産者を残念がらせた)。

同移住地産のイタリア、ブドウのサンパウロ市場への進出は1971年が初めてであるが、この体制は集団入植地として発足した1967年において、入植者26戸の共同出荷目標で出発したものであり、一応計画どおりのものであった。

この間、移住地営農主幹作目としてイタリア、ブドウ中核の高級ブドウを導入するに当って、その有利性を確信した最大の要素は次の事項であった。

- A. (第4表に掲げた降雨量の年間配置が統計平均と過去十数年の実際体感からぶどうにとって、又他の地方に比べて極めて有利な条件であると考えたこと。
- B. 従来、特にサンパウロ方面で生産されている温帯性果物は非常に大味で、水っぽいので当地方で生産したものは糖度の面では絶対に上位に進出できると考えたこと。
- C. 伯国内の旧産地のうち、特に市場で銘柄的位置を保っているものは、すべて特に邦人を中心とした集団産地のものであるので、この点を取り入れれば品質、経済収量単位もまとも計画的な出荷ができると考えたこと。

これらの各重点要素のうちB・Cについては、1971年実績において、経験度はまだまだ低く今後の共同研究により更に漸次より向上してゆく確信ももてるようになっており、大して大きな狂いは認められないが、Aの気象条件と市場対策については、今後かなり真剣な検討と対策が要求されることがわかった。もともとイボチ郡には気象観測所がなく、どの観測結果に基準をおいたらよいかについて、かなり迷ったわけであるが、一応ポルト、アレグレとカシアス・ド・スールの中間的な気象であると想像される。

1969年度営農普及費で気象観測百葉箱が移住地に配置されたので、1970年5月1日より観測日記を開始した。この結果をポルト、アレグレの平均統計資料と対照したものが第13表、第14表である。又イボチ移住地での5月、6月、7月、8月の1970、1971年2ヶ年間分対照を資料No 19で行なった、この結果、「気象統計表が極めて重要な資料でありながら、実際営農の1年々々を相手にした直接生産者の立場に立った場合、如何に頼り甲斐のないもので

あるか」ということを痛感せざるを得ないことであった。しかしながらこれらの各対照表をもとに、「あてにできない安定気象」下で、今後この不安定をいかに人為的な技術や態度心構えで、カバーして行くかについて、実際上はこのような不利な条件が訪れることもあるのだという認識を心の底に温めながら仕事を進めなければならないとする意識が強く打ち出されたことは非常に貴重な事項であると考えられる。

1970年は、たしかに数十年来といわれる大異変の年であったと思われるが、こんなこともあるようで、例えば1970年と1971年の5、6、7月、8月の雨量実績が748.8mmであったのに対して1971年は554.6で、平均温度の5月～8月合計値67.5度に対して1971年には62.4度という具合に同じ場所でもかなりのひらきである点特に注意すべきことであろう。このような気象異変の結果は、前述のサンパウロ地方の出荷期ずれと同様に、当地方では逆に繰り上りとなってあらわれたようである。

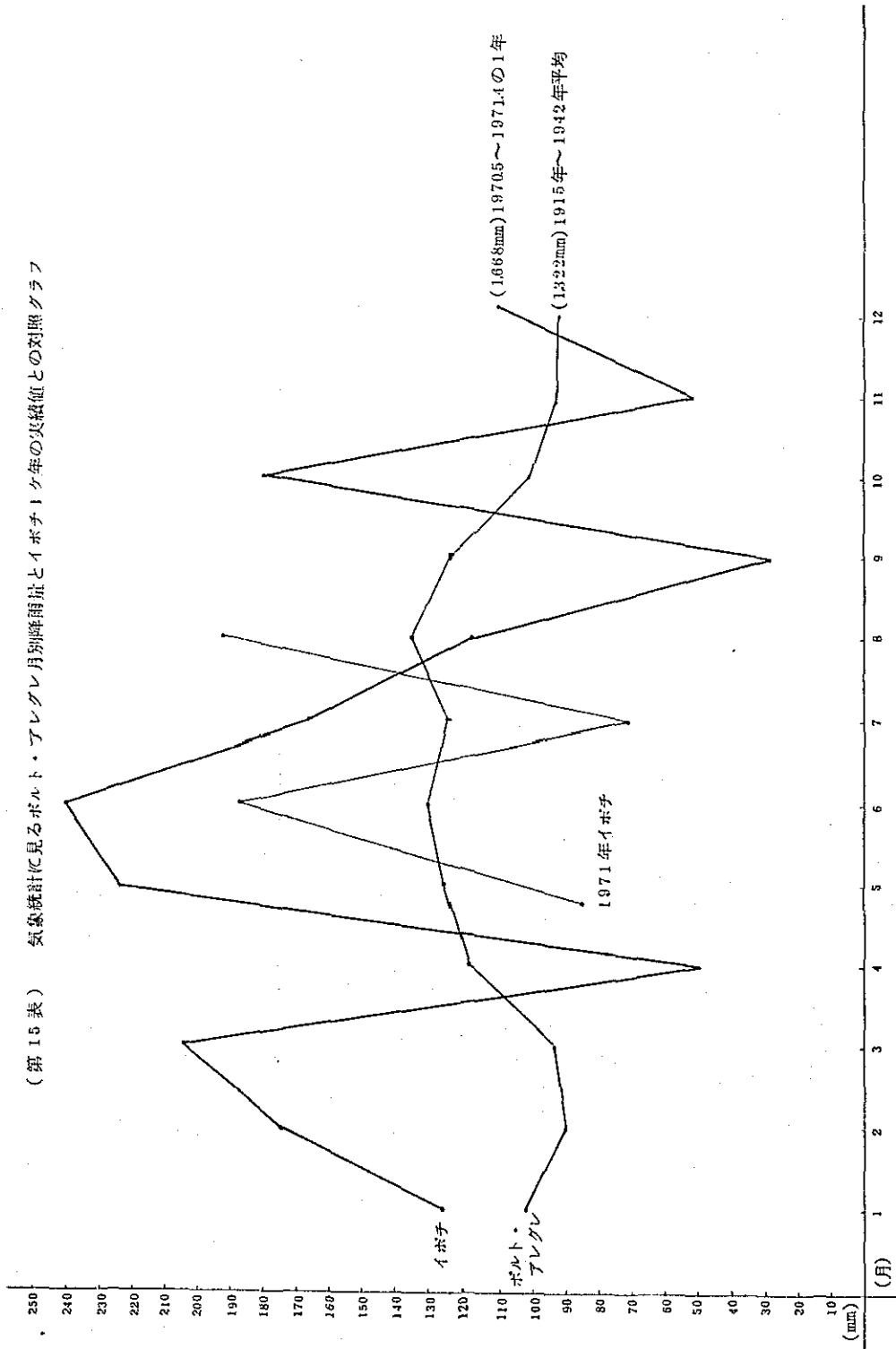
幸いにして市況においては、一応当初目標のところ以上に落ちついてはいるが、収穫量においては40%減となっている。

統計年鑑にみる伯国ぶどう生産状況(1964年)

区 別	区 分		栽培面積		生産量		トン/ha	生産量	
	ha	%	トン	%	Cr\$	%			
リオ・グランデ・ド・スール	46,711	69.1	227,467	57.6	4.9	3,433,530.00	41.6		
サンパウロ	10,793	15.9	93,402	23.6	8.7	9,031,922.00	39.9		
サンタ・カタリーナ	5,580	8.3	48,502	12.3	8.7	2,031,181.00	8.9		
パラナ	2,728	4.4	19,905	5.3	7.3	1,582,330.00	7.0		
ミナス・ジェライス	1,545	2.3	4,910	1.2	3.2	424,684.00	1.9		
その他の諸州	218	—	1,008	—	4.6	156,591.00	0.7		
伯国合計	67,575	100	395,194	100.0	5.8	22,650,238.00	100.0		

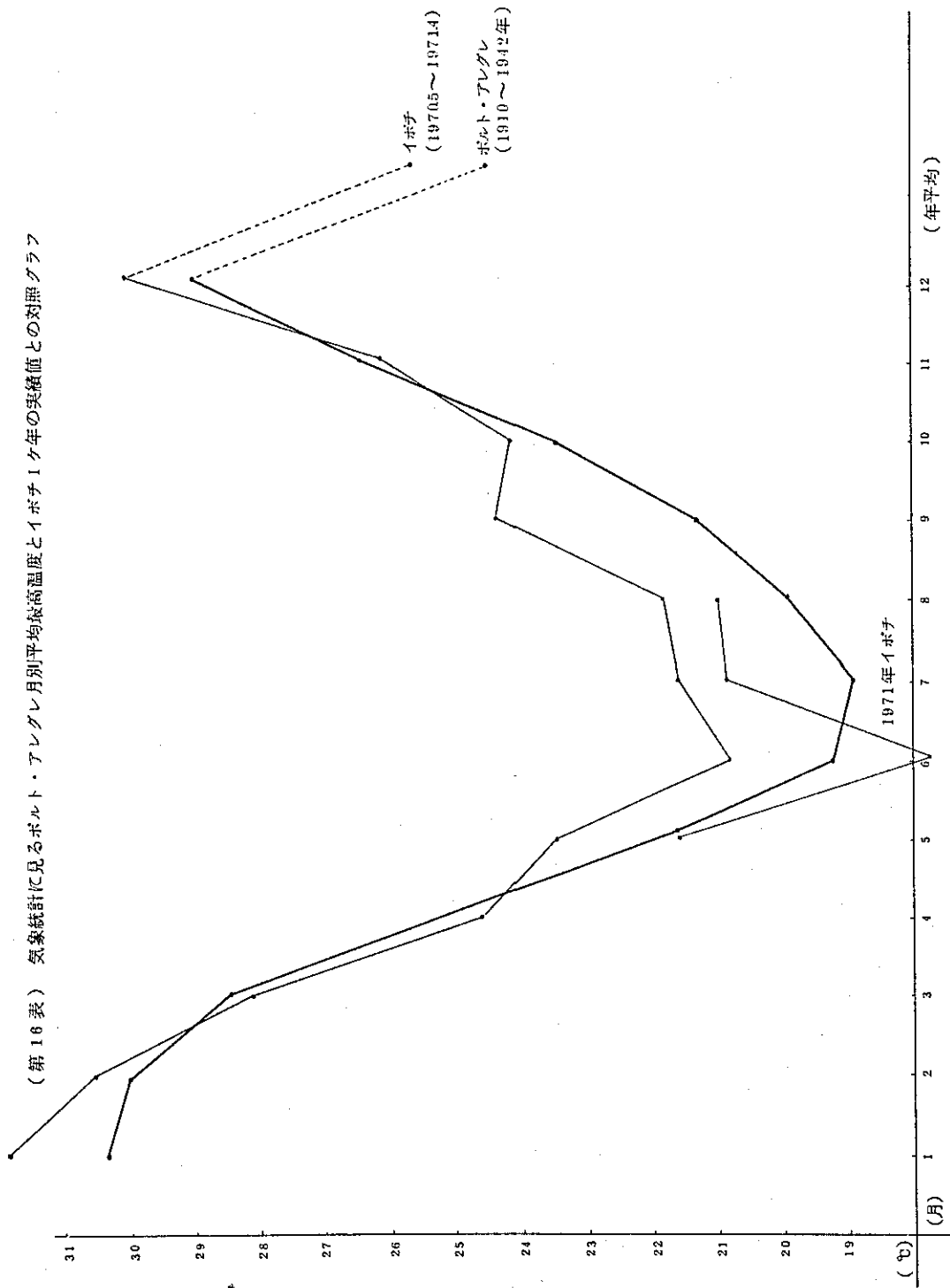
ANUÁRIO ESTATÍSTICO DO BRASIL — 1965 (IBGE/CONSELHO NACIONAL DE ESTATÍSTICA)

(第 15 表) 気象統計に見るポルト・アレグレ月別降雨量とイボチ 1 ケ年の実績値との対照グラフ





(第16表) 気象統計に見るポルト・アレグレ月別平均最高温度とイボチ1ケ年の実績値との対照グラフ



### 3 桃(ネクタリン)の市場性について

(i) サンパウロ市場の国産桃の年間出廻りは(第6表)にみられるように8月をはしりとして10月11月、12月と月が進むにつれて増加し、年が明けると急激に減少することになっているようである。そして1月からの主力は漸次アルゼンチン、ウルグワイ国等からの輸入果物におきかえられるようである。

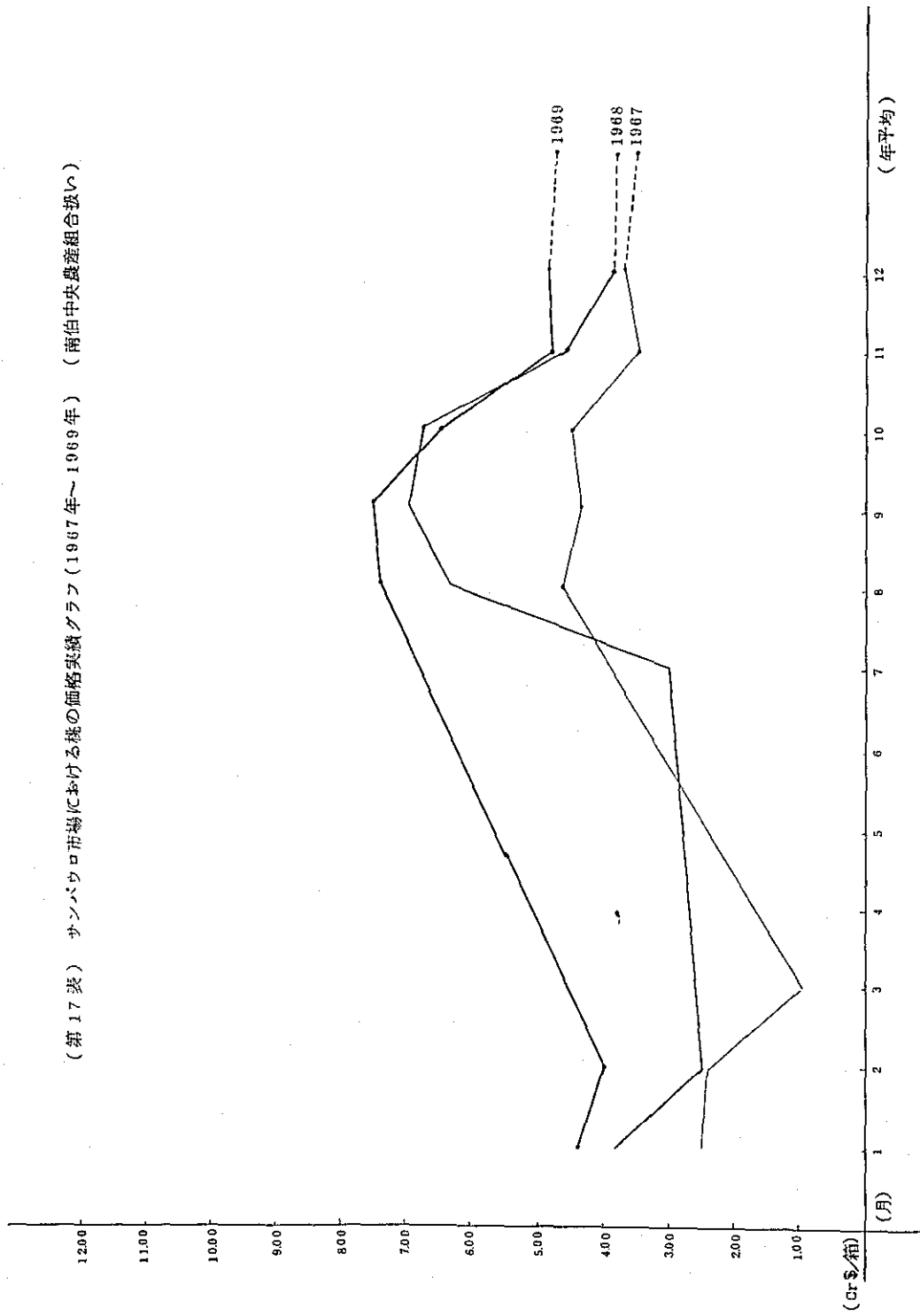
サンパウロ市場においては特に、超大型市場であるだけに12月のクリスマス、正月時期の動きは活況を呈するので、この時期にうまくかみ合っている桃は前項の北パラナ産イタリア、ブドウと共に、二つの大きな柱という感じである。従って出廻りから2ヶ月以上も続いて来てもなお或る程度の価格維持が出来ているように思われ、この点他の果物に見られない強みであろう。

但し、市場での最盛期である11月は平均して低調となることは避けられないようで、このため最近の新植地帯ではこの時期を回避して、できるだけ早場の強みを確保すべく8月~10月をねらった型で進んでいるようである。例えば早生種のジュエル(ダマスコ)、スーパー等を主体に一部レリキア種などの伸びが活潑になりつつあるとのことで、これらが8月~10月の早場を占めている。更にこれらの品種や外国からの母種導入などで、カンピーナス農事試験場では新作品種として収量と品質両面を改善してタリズマン、アロ・ドスーラ、クリスタル等の早中生種も伸びている模様である。この外に過去のモモ経済栽培の歴史と共に親しまれてきたいわゆるブランコ、 zeroes種は、なお生産量からみれば王座的存在であるが、市場機構、流通面の改善と共に品質的に漸次生産は落ちて行く運命にあると見られる。

このようにサンパウロにおいても、いろいろの品種の導入により生産時期が8月~2月まで市場を賑わしていることは、土地範囲が広い中での大型市場だけに極めて興味深く、且意義深いものである。これに対し、従来リオ・グランデ・ド・スール州からは、ポルト、アレグレ市近郊からデリシヤス種が出荷されていたが、時期が11月下旬から12月になるところから、サンパウロ市場よりポルト、アレグレ市場の方が取引有利となり、現在は特別の市場異変がない限り出荷されていないようである。

なお当地方の夏乾型気象は、桃の品質を極めて有利なものにしているので、国立ベロタス果樹試験場では、殆んど専門的に桃の品種改良、育成と取り組んでいるようで、この結果生果用奨励品種として第18表にみられるような品種群を中心に輸出策を強く打ち出して、すでにベロタス地方5郡を中心に50ha、100haといった新果樹農家が誕生しつつあるようで、これらの生産物の輸送が軌道にのる暁には、サンパウロのモモ市場にかなりの変異が起りうると見なければならぬ。(無袋栽培であるので、生産費はかなり安くつく見込である) 生果モモの市場と雖も、年による変動はかなり大きいようで、特に早生種をかなり無理して導入されている傾向がみられるので、特に晩霜の被害が、これを大きく左右しているものようである。

(第17表) サンパウロ市場における糖の価格実績グラフ(1967年~1969年) (南伯中央農産組合扱い)



(第18表) 生果用桃の奨励品種の特性調査結果表 (1970/71 国立ペロッタス試験場資料)

品種名	項目 樹令 (年)	萌芽 月日	開花期			成熟期		生産量		
			5%	50%	100%	始	終	果数	平均果 重(ℱ)	生産量 計(ℱ)
ALVORADA	5	7.26	7.20	7.25	8.12	10.31	11.12	91	126	11,466
PRE	6	8.27	7.23	8.3	8.14	11.9	11.23	583	95	55,385
CARDEAL	5	8.3	8.2	8.13	8.27	11.17	11.30	251	120	30,120
BARONESA	6	8.3	7.28	8.12	8.24	12.3	12.19	210	123	25,830
SINUHJO	6	8.14	8.7	8.18	9.2	12.17	12.18	391	102	39,882
PRINCESA	5	7.28	8.1	8.10	8.24	12.10	12.23	468	103	48,204
CORAL	7	8.14	8.12	8.21	9.18	12.11	12.24	875	103	90,125
	6	8.23	8.14	8.23	9.18	12.18	12.28	241	120	28,920
XAVANTE	6	8.28	8.30	9.4	9.28	12.19	12.28	410	125	51,250
VILA NOVA	6	8.12	8.6	8.14	8.26	1.12	1.26	432	101	43,630
CAI	5	9.4	8.28	9.7	9.28	1.12	1.26	403	102	41,106
RABCOOK	2	8.26	8.18	8.26	9.16	1.14	1.23	18	105	1,890
BONITA	2	8.24	8.13	8.26	9.18	1.26	2.10	8	275	2,200
SPRINGTINE	2	—	—	—	—	11.19	11.25	10	80	800
CASCATA-50	6	8.21	8.14	8.22	9.9	12.21	12.26	139	76	10,564
CASCATA-51	6	8.20	8.6	8.18	9.3	12.13	12.23	215	125	26,876
CASCATA-62	6	9.1	8.23	9.3	9.20	12.30	1.9	156	100	15,600
CASCATA-63	6	8.14	8.14	8.20	8.27	1.12	1.25	158	141	22,278

## (ii) ラーモス移住地のネクタリン

ラーモス移住地は、サンタ、カタリーナ州クリチバーノス郡に州農地改革院と当事業団とが協定して、1964年に造成に着手した移住地で、現在、同移住地を中心に近傍入植者を合計すると約50戸が在住しているが、その大部分はネクタリンを当面の営農の柱としている。

今日、このネクタリンが時代の脚光をあびる恰好となっているが、そもそも始まりは桃を導入するについて、その品種決定の段階で、地域の特性である不時晩霜に対して最も危険度の低い品種を調査物色中に、たまたまラージェス市近傍の果樹園で十数本、他の桃の品種と混植されていたネクタリンが、例年の晩霜に非常な安定性を示していることを発見したものである。(この果樹園に当時果樹指導青年として本多文男氏が就労していたのが幸運であった)。

このように殆んど市場的には偶発的といえる程の形でネクタリンが浮び上がったわけであるが、幸運が又幸運を生むというか、その頃からカリフォルニア産ネクタリンが、リオ・サンパウロ市場に超高級果物として空路入荷するようになり、市場性も漸次高まり広く知られる果物となった。この

ように過去をふり返ると二重三重の幸運に恵まれたネクタリンではあった。

しかし、本来生果品として極めてデリケートで、傷み易いネクタリンを丹精こめて市場まで送り込むのに成功した移住地入植者の努力は、この幸運を完全に物にしたという意味で新産物の開発史に銘記さるべき意義と価値をもっているものと考えている。

実際にこのネクタリンが収穫期にはいったのは、1964年の先発8家族が入植翌年に植え込んだ樹であり、サンパウロ市場への経済出荷は1969年が初めて、その後1970、1971年と一応生産も経済単位としてまとまった形で今日に至っている。

この間1968年1月には、移住地内で実った僅かの量のネクタリンに、前記ラージェス近傍果樹園の生産物を買取ってまとめ、これをポルト、アレグレ市、サンパウロ方面の市場関係筋や新聞広報機関に宣伝、反響調査用として配り、市場対策にそなえた。

この結果、ポルト、アレグレ市場は出荷先としては全然相手にならない結論を打ち出し、市場は当初からサンパウロ一本にしぼることを決め、このために万全の努力を集中したものである。

なお、1970年及び1971年のラーモス、ネクタリン(1部授粉樹として植えた桃のデリシヤス種とマラコン、アマレーロ種を含む)の生産計画目標と実績は第19表どおりである。

1970年の出荷については、その取引先(委託販売先)を外国果物輸入商のCIBRA FRUTS社(本店をCANTAREIRAにおき、支店を市内およびCEAGESPにおいている有名会社)としたが、1971年においては移住地農協の総会、理事会で賛否両論はげしく競合し合った結果、コチア産組中央会に鞍がえを行なった。

この結果再びCIBRA FRUTS社を筆頭に更に南伯中央農産組合等を加えて、どの道を選ぶか意見百出している模様であるが、当支部としてはやはり商道德は大切にしなければならないことを中心として慎重な結論を期待している。

出荷量は1970年の約17,000箱(36~4個詰)が1971年には約33,000箱と倍増しているが、平均価格面ではCr\$19.53から18.19へと下落し、物価上昇(インフレ)率から見れば、実質的には、かなりの下落となっている。

第19表に出ているように、移住地農協では出荷販売作業を能率的にすすめることによってデリケートな果物の損傷腐敗を最少限度にいとめなければならぬので、出荷箱、包荘用品など、すべて前もって完備することになっているが、このため各組合員の収穫量見積申告および組合による査定を実行している。この見積(計画目標)は、1970年出荷(1月~2月)分は1969年7月末、1971年分は1970年11月にまとめているが、この計画目標に対する実績率(目標達成率)は販売金額にして、1970年で58.2%、1971年で66.6%となっており、統計では一応実績率は向上のあとが見られる。

ところで1970年出荷分に対しての組合の当初の平均価格見積単価がCr\$15.00であったのに対して、市場が予想以上に有利に展開し、実績では30%の割高のCr\$19.53に落ちついた。

(第19表) ラーモス移住地 ネクタリン, 桃の生産計画と販売実績対照表 (1970, 1971年)

区分 氏名	収穫 本数	1970			
		計画目標		実	
		箱数	金額	箱数	金額
A 氏	300	3,250	48,750.00	1,200	22,935.99
B 氏	300	3,250	48,750.00	1,200	22,935.99
C 氏	300	3,250	48,750.00	00	0
D 氏	300	3,250	48,750.00	1,400	27,205.86
E 氏	300	3,020	45,300.00	1,500	28,916.48
F 氏	300	3,020	45,300.00	700	15,326.74
G 氏	250	2,330	34,950.00	1,400	27,575.84
H 氏	300	3,250	48,750.00	2,500	47,735.09
I 氏	300	3,250	48,750.00	1,600	31,007.55
J 氏	320	3,250	48,750.00	1,500	28,094.06
K 氏	300	2,330	34,950.00	1,800	34,048.13
L 氏	220	1,795	26,925.00	825	17,601.30
M 氏	300	2,330	34,950.00	1,300	25,797.09
N 氏	120	307	4,605.00	40	643.80
O 氏	50	40	600.00	0	0
P 氏	50	40	600.00	0	0
合計	4,010	37,962	569,430.00	16,965	331,323.97
(平均価格)			(1500)		(1953)

- (備考) 1. 本表は移住地農協よりの報告資料をもとに作成したものである。  
 2. 計画目標の起算時期は、1970年分は1969年7月21日現在、1971年分は1970年  
 3. 1971年実績分は細かな端数による僅少の誤差があると考えられる。

(Gr\$)

績	1971				
	計画目標		実績		
	目標 達成率	箱数	金額	箱数	金額
47.5	3,000	60,000.00	2,700	48,450.00	80.8
47.5	3,000	60,000.00	2,700	47,000.00	78.3
0.0	3,000	60,000.00	2,150	39,900.00	66.5
55.5	4,000	80,000.00	3,230	57,450.00	71.8
63.8	3,000	60,000.00	2,550	45,000.00	75.0
33.8	2,500	50,000.00	2,000	40,000.00	80.0
78.9	3,000	60,000.00	2,700	36,000.00	60.0
97.9	5,000	100,000.00	2,960	57,750.00	57.6
63.6	3,000	60,000.00	2,000	40,000.00	66.8
59.7	4,550	91,000.00	2,230	40,250.00	44.2
97.4	5,000	100,000.00	4,050	78,820.00	78.8
65.3	2,000	40,000.00	1,600	28,800.00	72.2
73.8	3,000	60,000.00	1,500	28,500.00	47.5
13.9	620	12,400.00	400	8,000.00	64.5
0.0	100	2,000.00	80	1,600.00	80.0
0.0	100	2,000.00	0	0	0.0
58.2	4,4870	897,400.00	3,2850	597,600.00	66.6
		(2000)		(1819)	

11月1日現在のものである。

1971年出荷分については、組合では出荷機能の改善、選別の徹底をよびかけ、これにより、一応前年実績値に近いCr\$20.00/箱当りを計画見積単価としてふんでいた。この点はインフレーション率ネクタリンに対する市場性実績より眺めた需要拡大の展望等からみて、かなりひかえ目に打ち出した価格予想であると考えられた、ところが実績においては、かたいと思われていた予想を10%方下廻るCr\$18.19に終る結果となった。収穫量の計画と実績が1970年では50%、1971年で30%減の結果となっていることは見積時期後の不時晩霜(1969年10月17~18日、1970年11月20~25日)による落果と、見積技術の優劣等の要因に或る程度止むを得ないものであるが、過去の実績市況、市場性をよく分析した結果にも拘らず大きな狂いが出て来たことは、非常に重要な検討事項でなければならないであろう。

この市況異変(?)について、今後の対策は勿論現地組合では、経緯の真剣な検討を行なっているが、当支部が調査した客観的情况は概ね次のとおりであった。

① 1970年収穫ネクタリンは前述のとおり、サンパウロ市の輸入果物商CIBRA FRUTS社に一括販売を委託したが、この商社に販売を委託した目的は、ネクタリンが、若干量は北米から輸入され、又1969年にはチリーからも試験的輸入などがあったにしても、市場では広く知られていず、半ば特需性が強い状況から、販売については相当に老練さが要求されること判断されたこと。たまたまCIBRA FRUTS社は、前年のラーモス産ネクタリンを実際に見ており、その品質、収穫見込量等から多大の関心と興味をもっていたようで、この際会社としても初めての試みではあるが、種々外国果物を手広く取扱って来ており、又ネクタリンの出荷に絶対不可欠と思われる大型冷蔵庫を市内各所に設備しており、更にネクタリンの時期は冷蔵庫のスペースが比較的空き時間でもあるので、この点市場出荷の自製も可能であり、是非やってみようとの話になった。この時CIBRA FRUTS社は、どの程度の量と価格で売込めるか、会社だけでは値ぶみが困難であるので、この際生産者組合側から適当な駐在者させてお互いに協議しながら売込んでゆくようにしたいという申出があった、組合ではこの条件をうけ、会社の手数料は1箱当りCr\$1.00とすることを取り決めた。このようにして1970年の販売は、予想以上に好成績で終り、その販売代金の清算事務も極めてスムーズで、組合としては販売市場について不安であっただけに、非常に満足したものであった。

② 当支部でも、又過去においても何彼れと公私両面で協力して呉れたサンパウロ支部においても1971年度も、前年の貴重な実績を活かして、当然CIBRA FRUTS社との継続取引になるものと考えていた。ところが1970年のいわば半ば画期的な成果に終ったことから、コチア産組あたりの前戦が展開され、委託販売手数料の高低をめぐる、種々の勧誘の手が伸びたようである。この時期において、組合では委託先決定を急がねばならない時期に追いつめられ、当支部が会社幹部に面談した折は、すでにコチアに決定されたあとであった。

当日会社幹部と面接した時の幹部の発言はかなり怒気をおびたものであったが、結局このことは、

南伯中央産組を含めて三者に条件折衝で、通俗な言葉で表現すれば「天びんにかけて、甘い話の方に走り去った、もっと話合いをしたいと期待して来訪を待ったのに、結局してやられた云々」というものであった。このことは商業道徳を叫ぶ取引先の立場もよくわかるようであり、又だからといってよい条件を提示した方を採用したのであるから自由競争の世界で、これもよくわかるような気もする。何れにしても複雑な事情、不快を一駒をふくんだ結果ではあったことを認めざるを得なかった。

- ㉔ 組合では、組合員の中になんかの論議を経て、かなり強行決定をしたのではないかという情況も、その後の調査で判明したが、組合がコチアに決定した要素を要約すると概ね次のとおりであった。

- 委託販売手数料の%でコチアの出した条件が格別よかったこと。
- 生産量見積で1971年は最低倍増するが、この場合サンパウロ市場だけで全部売込めるかどうかの不安がある。CIBRA FRUTSはRIO市場に弱いようで、この点コチアは販売網がより強固であるとのこと。
- 不可欠の冷蔵庫についても、コチアは心配ないとの説明をうけたこと。
- ネクタリンは高級果物であるが、コチアは高級果物に強いという自信をもっているとのこと、ところでその結果は余り満足すべき結果ではなかった模様で、再度委託先の問題について組合では再検討を迫られているとのことである。

なおサンパウロ市場の各種業者、組合筋、一般消費者のネクタリンに対する要求は非常にきびしいものがあるが、特に「ネクタリンが高級果物のイメージを失ったら市場価値は消滅する」「ネクタリンも大衆果物の中には行って行くようであれば消費に限界がある」の両反論は非常に重要な意味をもっているように考えられる。

たしかに高級果物でなければならないが、又大衆に親しまれる果物でなければならないような気もする。

このことは特に1971年において急激に出廻量(輸入量)が増加したチリー国産ネクタリンがラーモス産ネクタリンよりかなり安値であること、又前年より品質的に非常に向上しているという事実と照合してみた場合、これは何とか結論を急がなければならないかと考えられた。

この場合問題は生産コストの問題で、どこまで落せるのか将来の大きな課題のようである。たしかに現在のはかつてのイタリア、ブドウのように笑いの止らぬ収益性をもっていることは事実であろうが、今後の生産増強にそなえて、大局的且つ長期的視野での対市場態度が必要であることを痛感した。

特に1~2月の時期的に最も市場の動きが低調となる頃での取引であり、この点慎重な態度が必要であろう。



#### 4. スモモ及びリンゴの市場性について

(i) スモモ：通常の市場取引単位は5kg入木箱であるが、1966年の平均価格はCr\$2.47で、1967年、1968年、1969年では、それぞれCr\$3.19、Cr\$5.55、Cr\$7.19と、29%、74%、29.5%と比較的順調な市況実績(上昇率)を示している。特に早場物の11月、12月は好相場である。例えば、1968年、1969年を比較した場合、11月、12月の相場が上下しているが、年間の平均よりそれぞれ割高となっている。尤も1月以降はスモモの収穫期終りの粗悪品が多い模様であるので、この点を考慮に入れれば年間を通じて比較的安定した市況の果物であるとの市場関係筋の評であった。

入荷量の時期別配置は、1968年CEAGESP統計では、11月に本格的になり、12月～1月が最盛期で、2月になると急に減少することになっている。これはサンタ・ローザ種やサンタ・リッタ種等を中心とする栽培から見れば当然であるが、近年南の方への栽培が伸びており、特にサンタ・カタリーナ州中西部高原地帯(ウイデイラ・フライブルグ・カサドール地方)からの出荷量は相当なものであるとのこと、「年によっては、サンタ・カタリーナからのスモモが1～2月のイタリア・ブドウ市況悪化の促進要因となる」とは、平松薫果樹専門技師のとらえた感想のようであった。

1968年にサントス港で陸揚された輸入スモモの大部分は、アルゼンチン産のブレンデンテ・ダ・ジェン等の品種を中心とし、その量は約64,000箱(512トン相当、箱10kg入)で、1965年の陸揚量を100とした場合、338で約3.4倍とメロン、ぶどうに次ぐ増加率となっているが、その平均価格はCr\$25.00(kg当Cr\$3.00強)となっている。統計資料で見ると、1968年の国産スモモの最高12月の平均価格はCr\$7.69(kg当Cr\$1.53)と輸入品の半値ということになるがこの点非常に大きな問題であろう。更にはりざげた分析が必要である。

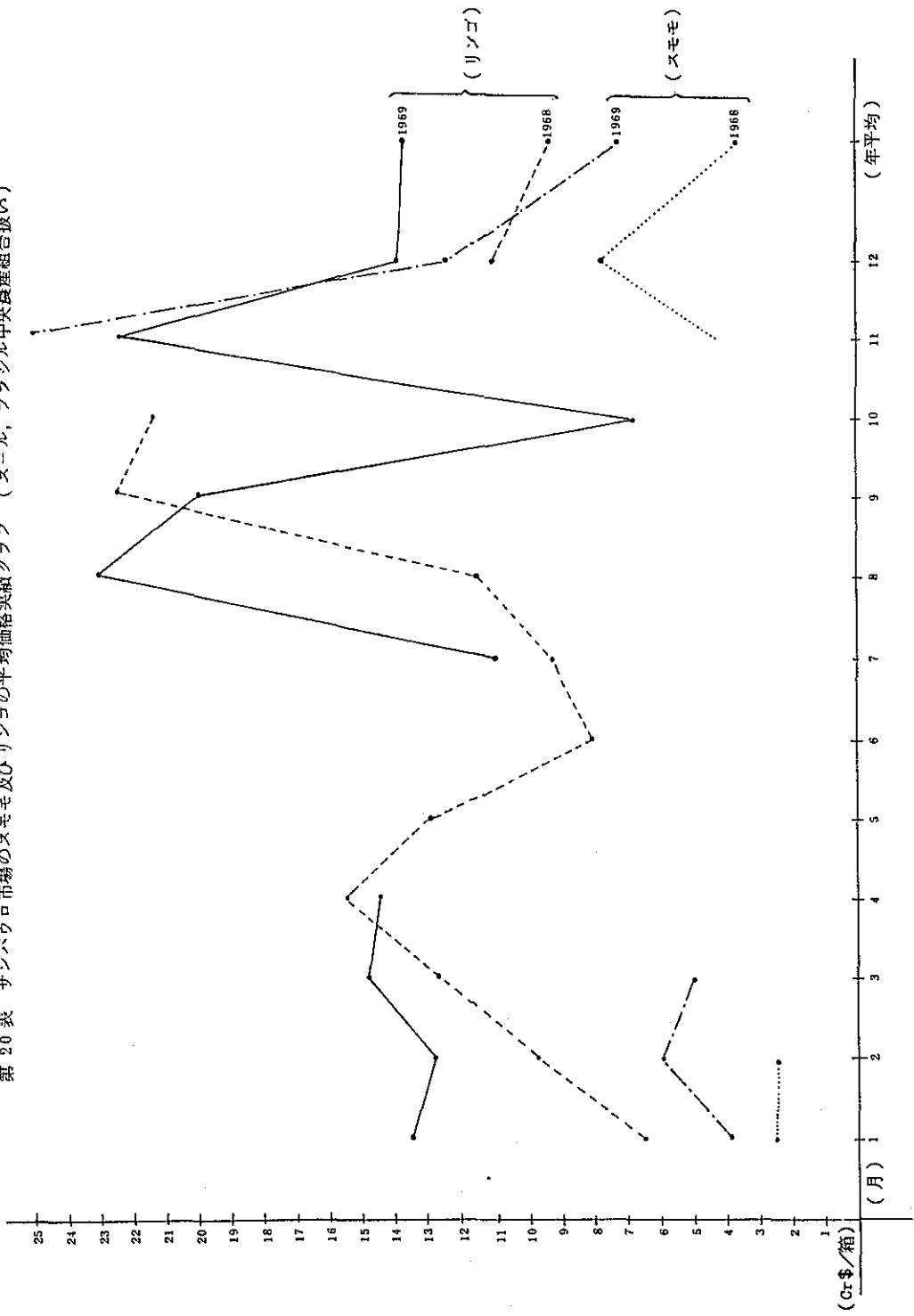
CEAGESPの入荷統計では、国産品の最盛期にも肩を並べて多量に輸入品がはいっているが、全体的に品薄で不足を補うために輸入されているとは考えられず、やはり国産品に上級品がないからこの時期にはいて来るのであろうと考えられた。

本調査実施時期においては、アルゼンチン物が殆んど独占の出廻りをしており、その取引価格や品質状況から見て、南部2州の適地開発により、これは積極的に進出の可能性が十分にあるのではないかと、かなり自信らしきものをつかめた。

特に国産品の包装技術の劣悪さは、これを大巾に改善すべきである点痛感した次第である。

なおラーモス移住地、イボテ移住地ではベロッタス地方において試作中のケルシー種の成績を参考にして、かなりまとまった試作(経済性をとり入れた本数)を本年7月着手したので、これが成樹到来の時には、市場への試送を行って実際上の結論に持ち込むこととした。

第 20 表 サンパウロ市場のスモモ及びリンゴの平均価格実績グラフ (スール, プラジル中央農産組合扱い)



(ii) リンゴ：伯国リンゴ市場は、従来隣国アルゼンチンからの輸入品で殆んど独占されていた感があつたが、最近で北米を始め、ヨーロッパ諸国（フランス、ベルギー、イタリア、ギリシャ等）からの積極的な進出が目立っており、全く国際市場化しつつある。そして今後も世界有数のリンゴ市場に化すと考えられる。例えばサントス港陸揚リンゴでも1965年から1968年にかけて67%の増加となっているが、これは、従来リンゴが伯国内のすみからすみまで、丁度トマトやバナナのように徹底的に大衆に密着した果物であつた事実からすれば、大変な伸長ぶりを見てよいではないかと思われる。1968年のブラジル統計年鑑によるリンゴの輸入総量は113,958トン強（約569万8千箱）となっており、これに費やされた外貨を考えた場合、国産リンゴの開発が検討され始めたのは無理からぬことであろう。

この動きは、例えばリオ・グランデ・ド・スール州の果樹統計（第2表）を見ても、又最近のサンタ・カタリーナ州温帯果樹開発プロジェクトを見ても、その努力のあとがはっきりと伺えるものである。すなわち、リオ・グランデ・ド・スール州において各地のリンゴ栽培面積は約1,000hrとなっており、サンタ・カタリーナ州中部高原地帯のリンゴ開発プロジェクトは、1969年から着手され、その目標面積は10,000hrとなっている。

このように国内のリンゴ栽培は、先進各国との技術、品種流通面の改善と共に、漸次よい方向に進むものと思われるが、中でもすでにサンパウロ市場でこの数年の間に格別注目されつつあるサンパウロ近郊高冷地区でのBRUKNER種経済栽培は、国内リンゴ生産に一条の光明をなげかけているものとして、その先駆者BRUKNER氏、およびこれを今日まで育てあげて来た邦人パイオニア・グループに対して格別敬服の念をもたざるを得ない。

なお第6表でもわかるように、アルゼンチンの早場物の入荷は3月に始まっており、特に盛夏高温期の1～2月は、貯蔵物の放出であり、しかも貯蔵リンゴとしては最も適性に乏るデリシャス系であるので、品質は非常に粗悪である。この時期に貯蔵力においては最も劣るといわれるBRUKNER種は市場に出るのであるから、品質的には最上級品ではないにしても比較品質においては堂々と太刀打ちできるというわけである。なるほど調査期間中にコチア郡のリンゴ農場から出荷された物は、1箱（25kg）Cr\$45.00～55.00で取り引きされていたのを確認し得た。

又第20表のリンゴ市況表は、上記のとりの古い放任栽培地帯から殆んど無選別で出て来るリンゴ（市場的には、これが殆んど大部分）を包含したものの市況のようで、加工向リンゴ市況とみてよいのではないかと考えられた。但し、このような資料と雖も、今後国産リンゴ熱は漸次高まってゆくであろうが、これと共に粗悪品や品種によっては、過去の市況実績から一步も浮び上ることはできまいという示唆として、これを見捨てることは許されないものであろう。

そこで当支部管内のラーモス移住地でも州の温帯果樹開発プロジェクト地域内にあり、これに積極的に対応して、リンゴの栽培を1969年より、かなり本格的に手がけているが、調査の結果、次のようなことが指摘できるのではないかと考えられた。

- Ⓐ 出荷時期の如何では、現在でも充分経済的に成り立つ経営を行うことができること。
- Ⓑ 市場から遠い地帯でのリンゴ栽培は、気象条件、品種、技術の差によって品質の差が出るので、特に上級品の歩上り（1級、2級……）が、経済性を決定する要素になりそうである。
- Ⓒ 従って気象立地性から見れば、明らかに無理を押しした栽培であるので或る程度集約経営でないとうまくゆかないのではないと思われること（技術的カバー）
- Ⓓ 集約経営の場合はどうしても生産コストが問題になるが、特に機械省力化は第1に推進しなければならぬので、地形のできるだけよい所を選ぶ必要があること。
- Ⓔ 無理をおしての経営、市場距離からの運送費割高を考慮した場合、当然でて来ると思われる屑果の加工利用は、当然の付随問題として検討しておくべきであること。
- Ⓕ 品種問題については現在なお最終的結論としては出ていないと思われるが、早生種（A項）での勝負以外は、貯蔵性に富む品種で、完全冷蔵設備のもとに、10月以降の盛夏期をねらうのがよいと思われること（但し、この点は高温地帯産リンゴであるだけにその見込期待はできないのではないか）

#### 5. オレンジとボンカン（タンジェリーナ系）の市場性について

- (i) オレンジについて：—サンパウロ州のオレンジの市場取引量は、1968年の統計によると約332,000トンで、最も大衆的と云えるバナナの約221,000トンを50%も上廻っていることは興味深い事実である。そして各種果物統計表の中で、この2つの果物が、桁がちに多いこと、そして資料No1の伯国民の果物消費量が、先進国をみということは、この2つが中心になっているからであろうと考えられる。

このことは、伯国が、極く一部の南部を除いて、広大な地域で一応どこでも栽培できる結果であり、又気候的に熱帯、亜熱帯圏にあるので1年中消費があるからであろう。

例えば1968年のOEAGESPにおけるオレンジの月別入荷状況を見ると、大体において30万箱前後となっている。ところが市況では、高温の時期（夏）と冬の価格差が非常に大きくなっている。非常に興味あることは、コチア産組の取扱実績によると次のとおり、年による価格変動が非常に大きいことである。その反面、平均すれば一般の農産物価格指数、生活費よりの指数から見れば、割合にこれによくついて来ていることである。このことは、サンパウロ州に限らず伯国全体的に非常に隔年、結果性が目立っており、平均価格状況のみで、オレンジ栽培家の経営経済性を云々することは早計であり、この点市場性判断が非常に難かしいことのように思われる。

リオ・グランデ・ド・スール州のオレンジ栽培面積は約18,000乃至16,000haといわれ、パラ州の約9万ha、サンパウロ州の8万ha、アマゾン州の2万ha、エスピリット・サント州の同じく約2万haに次ぐ第5位で、概算20万トン相当の模様である。

伯国最南端の半温帯圏のリオ・グランデ・ド・スール州が伯国有数の生産州となっていることは注目すべきことではなからうか。しかも当州のオレンジの歴史は、タクワリー河沿岸の200年前

に出発しており、急激な生産が行われるようになったのは第一次世界大戦直後のヨーロッパ市場との関係が特記すべき契機となっているとも云われている。

第21表 年次別オレンジ取扱実績(コチア産組取扱)

年	入 荷 量	平均価格	農産物価格指数	生計費よりの上昇指数
1960	27,708 <sup>(箱)</sup>	0.15 <sup>Cr\$</sup>	0.15	0.15
61	45,750	0.30	0.20	0.20
62	37,276	0.52	0.32	0.31
63	68,183	0.74	0.49	0.54
64	58,934	2.15	1.11	1.02
65	107,250	2.18	1.48	1.66
66	70,488	3.81	1.76	2.43
67	68,545	3.35	2.21	3.15
68	60,124	5.32	2.86	3.91
69	37,539	8.32	3.78	4.86

このリオ・グランデ・ド・スール州のオレンジについて、州柑橘試験場では、諸特質を次のとおり説明して、より組織的な協同活動を呼びかけているようである。

- ① 当地方は伯国で最もオレンジ栽培が多い北伯が完全な熱帯気象に対して半温帯又は亜熱帯気象である。オレンジのもともとの発祥地が中央アジアでもあり、特に品種改良の進んだオレンジの栽培適地は、むしろ当地方のような気象を好むものである。

その証査として、非常に暑い地方のオレンジは、果汁が少く、且つ日持ちが悪く、甘酸適度が生命のオレンジとして決して品質はよろしくないものである。

- ② 亜熱帯圏の中でも半ば温帯圏の気象が混和されている地方では、品種の早晚性の特徴が比較的によく発揮されるので、これらの品種の上手な組み合わせによって、殆んど周年の出荷が可能である。特に品種によってはかなり長期間の貯蔵ができるので、出荷量のコントロールが容易である。
- ③ 夏期比較的雨量が少ないが、例年100<sup>mm</sup>程度平均雨量があるので、特別な事情がない限り果樹園灌漑の必要を認めず、むしろ放任の方が小味のある良質オレンジの生産が出来る。

概ねこのようなわけであるが、当地方でも隔年結果性が実にはっきりしており、この原因追求と対策は夏期の樹のつかれと年による寒冷温(強霜)による新梢破損についてとられねばならぬものと判断されるが、何れにしても味の点は疑う余地がない程すぐれており、これがかつてのヨーロッパ市場との取引に幸いたしたものといわれている。

そこで、当地方のオレンジを、もっと組織的に積極的な姿勢でサンパウロ方面や或はアルゼンチン方面への移輸出にのり出すチャンスは果してないかどうかを資料をもとに考察してみると次のと

おりになるようである。

- ① サンパウロ市場の取引量の最も多い9月、10月、11月、12月、1月は、平均価格の面でも割高であるが過去においても、当地方から出荷しても十分に引き合いがとれる年があったようである。例えば、1969年の統計資料でみるように1箱(30kg)当りCr\$10.00以上の単価の場合、当時の運賃はCr\$2.20~2.40であったので、生産コストを考慮しても十分引き合った筈の価格であった。事実、当地に若干の仲買人がはいり込んで、運んだ実績も一部に残っている。

上述のとおり、オレンヂの隔年結果による価格変動は移輸出体制には最も役介な要素であって、サンパウロが値段がよい時は、こちらも良好ということもあり、なかなか思うようには進まないのではないか。特にこのような不安定な市況下での生産者或は生産地ではどうしても態度が保守的になりがちであろう。

- ② 当地方のオレンヂの品種の中で、前述の試験場でも、市況市場性を考慮して次のようなものを奨励品種として指導を行っているようである。

早生種	{ OEU(サンパウロではLIMAと通称) MANDARINA	} 3~4月成熟
中生種	{ BAHIA BAHIANINHA NATAL UMBIGO MONTE PARNA SO (UMBIGO TARDIA)	} 5~8月成熟 10~11月成熟
晩生種	{ NATAL DERA VARENCIA	} 8~12月成熟 11~3月成熟

このうち、若干の貯蔵を考慮すれば、前記サンパウロ市場向け品種として考えてよいと思われるのは UMBIGO TARDIA, NATAL, DERA および VARENCIA ということになる。これらは味、果型、輸送力の点など一応満足すべき性質をそなえているものである。

- ③ 何れにしても品種がいり乱れている現在の既成産地では、市場開拓の基本条件に問題があるので、近代化されつつある流通機構、市場品種のもとで、当地方オレンヂを前向きに成長させるためには、輸移出目標をはっきりした上での新しい産地形成と協同組合活動を推進しなければならぬであろう。そうでなければ市場開拓のチャンスは先づ見込ないと云ってよからう。
- (ii) ポンカンについて：-サンパウロ地方では、すでにポンカンの生産は一大躍進をとげているが、このような伯国にとっては比較的新らしい果物が、これまで急激に生産が伸びたことは、生産者が特に日本人であったこと、そしてその生産物が鶴首して待期していた大きな日系コロニアの消費層があったことの組み合わせがびったりしていたことが主因ではないかと思われる。

しかも最近では、一応「ポンカンのブームは終わった」といわれているようであるが、このことは、一般のブラジル人への消費の伸びが邦人に対してのようには進まず、徐行線になったと見られ、前記事情を裏付けているように考えられる。

大体ポンカンという果物は、オレンジとちがって貯蔵性、輸送性が劣り、出荷のコントロールもうまくゆかないものようである。

数年前頃から、このサンパウロ産ポンカンがポルト・アレグレ市場にも姿を見せるようになり、その量も漸次増加して、消費も漸次認識されるようになってきている。

当然のことながら、当地方の邦人の間でもこの栽培をすでに開始した者もあり、又前記試験場あたりでも、今後面白い果物として栽培をすすめているようである。(同試験場には、20年生のポンカンが品種見本園に植っており、この発育、収穫調査資料が揃っているが、漸く陽の目を見るようになった感がある)。たゞ冬期の寒冷がサンパウロ各地よりひどいところが多いことと、今後サンパウロよりどの程度の入荷があるだろうかという不安があるようで、この点为本調査のねらいであった。

資料によれば、サンパウロ州各地の栽培状況は次のとおりで、これらの既成産地の出荷最盛期は5月、6月、7月である。従って当地方への入荷が例年サンパウロで安値となる5月～6月に決って入荷しているところを見ると一応次のような結論になるものと思われた。

④ 当地方のタンジェリーナ種群の代表種であるBERGAMOTA COMUMは、次のとおり出荷期が5月～8月で、他のオレンジ出廻りの時期も含めて5月～6月は割合品薄で、市況、消費共、年間を通じて最も魅力ある市場で、サンパウロからのポンカンはこの時期をねらったものである。

当地の品種群の成熟出荷配列は次のとおりであるので、ポンカン同志の競合は充分さけられることになっている。

◎早生種	{ SATSUMA	3～4月	◎晩生種	PONKAN	(8～9月)
	{ CÉU	3～4月			
◎中生種	{ COMUM	5～8月			
	{ DANCY	8～9月			

⑤ たしかに今後当地方のポンカン消費は漸増することは間ちがいないが、消費面の問題もあるので、一時に大規模計画はまたまた無理であること。

なおDANCY種は歴史的にポンカンに先んじているので、この品種との競合については、又別面での産地状況の調査による判断をしなければならぬだろう。

(第22表) ボンカンのコチア産組に於ける取扱量

(Cr\$)

年次	入荷量	平均価格	農産物価格上昇 よりみた指数	生計費よりの上昇指数
1960	15,284 (箱)	0.22	0.22	0.22
61	24,425	0.32	0.32	0.37
62	28,315	0.59	0.47	0.46
63	41,701	0.82	0.73	0.81
64	33,944	2.25	1.64	1.50
65	36,029	2.44	2.19	2.94
66	29,381	4.34	2.59	3.58
67	28,593	4.56	3.24	4.64
68	23,368	7.24	4.18	5.75
69	31,398	7.55	5.45	7.10

(第23表) (ボンカンの主要生産地別栽培面積統計)

(ha)

バ ス ト ス	25.0	イ ビ ウ ナ	3.0
ジャカレイ	8.0	アララクワラ	3.0
モジ.ダス.クルーゼス	7.0	レジストロ	3.0
スザノ	7.0	イタチバ	3.0
アチバエア	6.0	ベベドウロ	3.0
パウル	5.0	アルジャー	2.0
カツボン.ポニート	5.0	その他	4.0
ツパン	4.0		
マリリア	4.0		
ソロカバ	4.0		
イタベチニンガ	4.0		
ブラガンサ	4.0		
リメイラ	3.0		
		合 計	1,070



第24表 サンパウロ市場のオレンヂ、ボンカンの月別平均市況グラフ



## 6. ビワと柿の市場性について

(i) ビワについて：サンパウロ州におけるビワ栽培は、在来小粒種はとも角として（これは南部ブラジル諸州には殆んど自生樹同然の形で栽培している）、現在の代表品種であるミズホ、イタケラ早生、茂木、田中等が経済品種として広く栽培されるようになったのは勿論日本人の手によってである。

従ってサンパウロ市場からはなれた当地方などではNESPERSAという正式の名称をよんでいる者は極く一部の農学関係識者と一部の市場商人だけで、大部分は俗称AMEIXA JAPONESで通っている。原生地が東洋であるところから誰か、こういうよび名をつけたものであろうと想われる。現在の生産地はモジダス、クルゼス、イタケラから近年アチバイア方面まで伸び、この地方だけでも5~6万本の既成園があるとのことである。そしてこれらの地方の出荷は早いものは5月から始まり、最盛期は10月を山場とするということになっているようである。

ビワが現在のように経済果樹の一つとして今日のように急速な伸長をみたのは、この時期が特に温帯性果物の品薄期にあたるため非常に有利に販売できることが大きな原因であったようである。尤もこの果物も後述の柿（甘柿）や前掲のボンカンに見られるように当初は邦人コロニアの消費層が大きかったことを見逃してはならない。

従って今後どこまで消費が伸びるか一般ブラジル人の消費傾向がどう動いてゆくかに鍵がかかっているものとみてよからう。

このような状況下で、当地方市場へも近年ボンカンと同様にビワの入荷があり、特に温帯果物が殆んど姿を見せなくなっている春の店頭を飾るようになっている。

ところで当市ポルト・アレグレでの小売価格は、1969年でKg当Cr\$ 2.00、1970年でCr\$ 3.00、そして1971年の現在（8月）でCr\$ 4.00~5.00という具合に、相当高級なものでないとい寸手が出ない価格で取引されているようである。しかも従来の実績、傾向をみると、サンパウロでの市場価格はかなり年による上下があるが、殆んどこれとは関係なしに入荷しているように考えられる。

このことは、サンパウロの実際価格をもとにして、常にこれに利益を加算して持って来るといふ方式のようで、結局は値段に余りこだわらない特需を対象にした入荷とみることができるといえる。

従って、ポルト・アレグレ市場でのビワ価格は、サンパウロ市場の価格が殆んど完全に支配していることになる。

当リオ・グランデ・ド・スール州でもドイツ人系、イタリア人系集団植民地域には広く分布している在来小粒種を通して、一応呼称は別でも果物としての認識度はかなりあるわけで、（大部分はピンガ酒の中につけ込んで薬用嗜好酒として利用しているようである）この意味では適当な値段であれば、相当の量がはけるのではないかと想像されている。

このことに着目して当支部では、管内イボチ移住地において1969年以来、各品種の試作を委

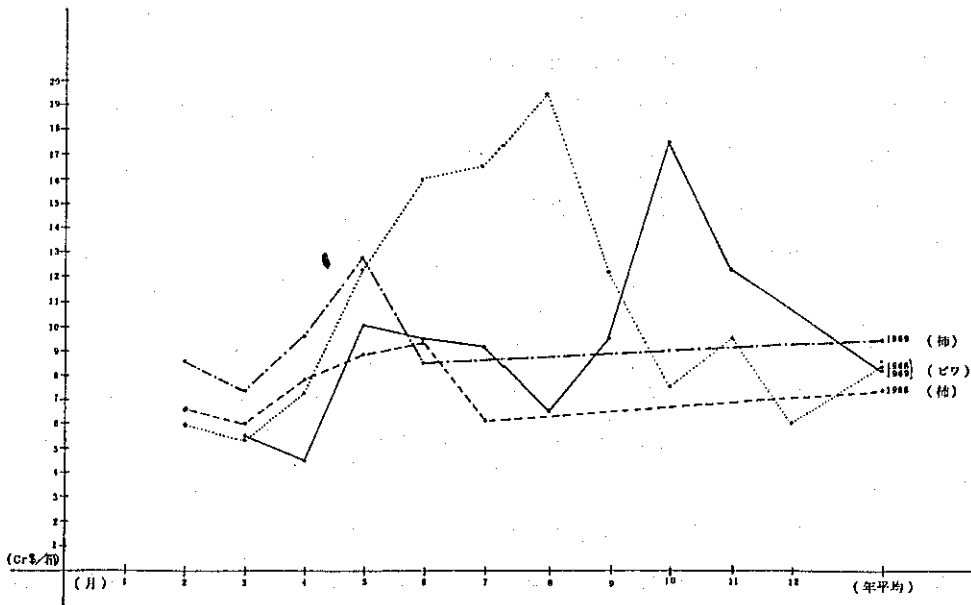
託栽培の形で実施しつつあり、1971年度においては若干の収穫量が見込まれているので気象と市場の適応性を検討した上で、又サンパウロ方面の生産の成り行きを更に継続調査の上で栽培を指導したいと考えている。

(ii) 柿について：一参考までにサンパウロにおける甘柿の動きを見たわけであるが国産温帯果樹果物の大部分が姿を消して殆んど輸入された高価な果物の間をぬって消費はかなり伸びている模様であった。このことは統計資料で年次別平均価格を拾ってみると次のとおりで、着実な価格指数をふんでいることを見ても納得がゆくものである。(1箱25Kg当)

1966年	Cr\$ 4.06
1967年	Cr\$ 6.11 (上昇率50%)
1968年	Cr\$ 7.51 ( " 23%)
1969年	Cr\$ 9.34 ( " 24.4%)

現在のところ、当地方では、一部の邦人が自家用程度に富有柿を栽培している程度であるが、今後は市場にまだ姿を現わしている果物でないだけに経済栽培な当分考えられそうにない。

第25表 サンパウロ市場のピワ、柿の月別平均価格グラフ (メール、ブラジル中央農産組合提供)



## 7. メロンの市場性について

(i) ブラジルのメロン栽培は、近年北米系普通在来メロンから、スペイン、ポルトガル種に急速におきかえられつつある。これは在来種が糖度が低い上に貯蔵輸送力殆んど零ということから出荷のコントロール、販路拡大が思うようにゆかず、頭うちを余儀なくされていたものである。

ところで近年の伯国内スペインメロン市場は非常に速度で進展しつつあることは、資料No.11の輸入量の増加指数を見ても明らかで、1965年から1968年にかけて、すでに12倍の増加を示し、なおこの傾向は継続しつつある模様である。

このように輸入果物による国内市場の新しい反応に対して、国内各地でも試植され、今日では特にパウロ、バストス等の奥地サンパウロ州から今日では更にマツト・グロッソ州へと生産地が伸びているし、又特殊なケースとしては、パラ州トメアス地方での冬期生産等、著名な産地が形成されつつある。又夏乾型のリオ・グランデ・ド・スール南西部でも試験栽培が始められている。

(ii) ブラジル国の建国史が若い上に、人種構成が全くインターナショナルであるため、公的に又私的に世界各国との流通ははげしく、このため非常に速度で、各国の先進文化や技術が導入されていることは大きな特徴といえる。そして特に農園芸品市場はむしろこのような輸移入品が刺激、デモンストレーションとなって、生産開発を促進している場合が多いように思われる。

極く身近な事例では、例えばポルト・アレグレ市場の蔬菜果物市場の発展経緯の中で、先進のサンパウロ州からのいわゆる特需向移入品が数年の後は、大衆的需要となり、これに刺激されて、地元の生産が急に成長しはじめたというケースは決して少なくはない。

スペイン・メロンは要するにこの典型的な発展コースをたどっているものであろう。

(iii) スペイン・メロンの国産品の出廻りは、サンパウロ市場では殆んど周年にわたるようになってくるが、入荷量が最も多いのはやはりサンパウロ州で最も栽培がしやすいといわれている12月～1月であり、例年この時期が比較的安い傾向が認められた。

そして栽培が雨期のため最も作り難いといわれる3～4月出しは例年品薄で、しかも需要は非常に多い時期であるところから価格は比較的安定しており、アルゼンチン国よりの輸入品も、この頃が最も多いことになっている。

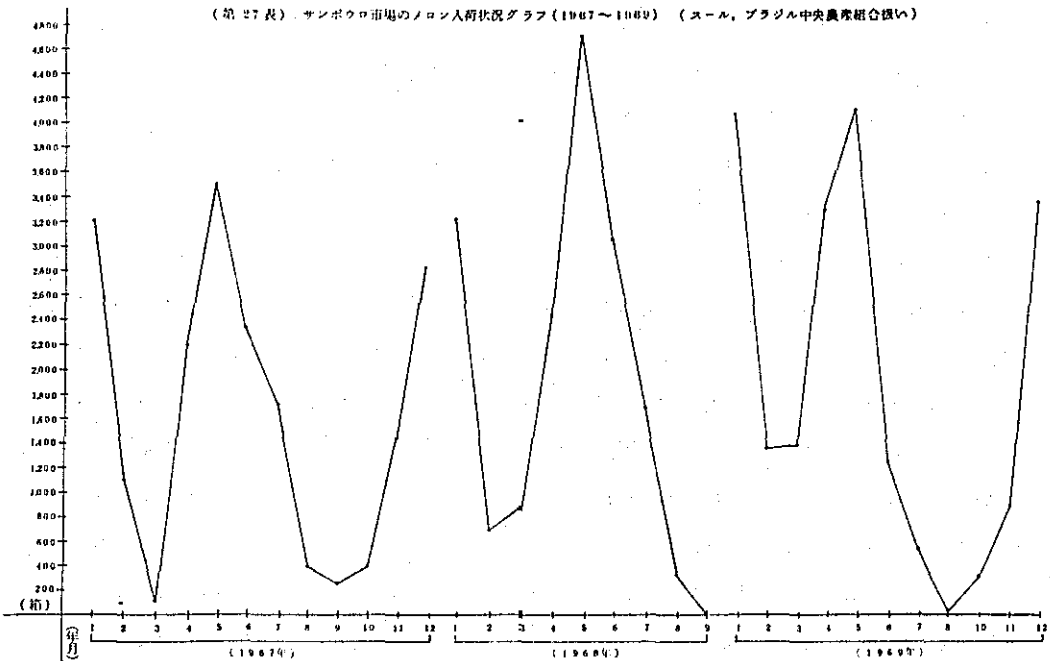
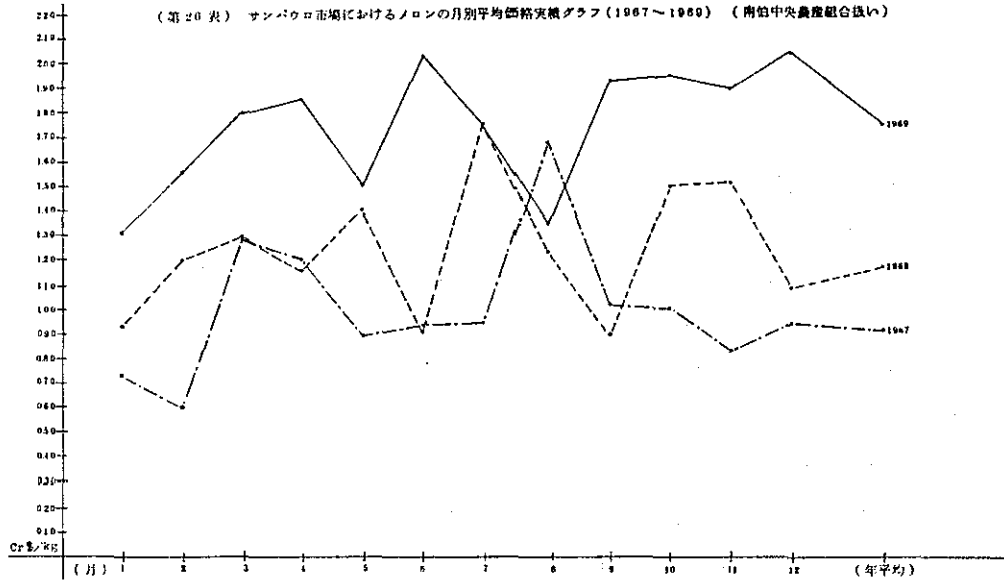
(iv) 伯国内のスペイン・メロンの栽培創生期にあっては、「輸入品＝上質品」という先入観念から国産品の市場開拓はかなり苦難の道であった模様であるが、最近では歴史の積上げと共に認識が高まり、包装、選別さえ十分の管理をすれば決して遜色のないところまで成長してきているようである。例えば1968年の輸入メロン平均価格が1Kg当Cr\$ 1.20であったのに対して、南伯中央農産組合扱いのメロン実績は同年平均でCr\$ 1.17と迫れるところまで行っており、又1971年2月に管内イボチ移住地から出荷されたメロンは、アルゼンチン産メロンと同じ価格で取引されている。

(v) スペイン・メロンの年次別価格実績は資料26のとおりであるが、年平均価格では、1966年がKg当Cr\$ 0.91, 1967年がCr\$ 0.92, 1968年がCr\$ 1.17, 1969年がCr\$ 1.76で、

この間前年比で1%, 27%, 50.4%と上昇率が改善されている点興味深いことである。

この数値は、国産メロンの質の向上とみてもよいのではなかろうか。

(v) さて上記事情下で、伯国では最もスペイン、ポルトガルの気象条件をそなえているといわれるリオ・グランデ・ド・スール州で、国産スペイン・メロンの開発は、最も有望な筈で、この点、現在の産地が適地を求めて殆んど市場距離を無視した形で進んでいることを参考に、積極的な開発を行うべきではないかと考えられた。



## 8. 苺の市場性について

(i) サンパウロ市場のイチゴ入荷状況は第6表のとおり7月～10月が最盛期である。従ってこの時期は例年市況は低迷することになっており、特に近年インフレ率から見れば、平均価格がこれについてゆけないところまで来ているようである。

従って今後サンパウロ州のイチゴ栽培の方向は、これらの時期からの回避を目的とした促成栽培や晩化栽培等の普及、場合によっては産地の移動など行われるものと考えられる。

(ii) 又生産の拡充に伴って、他の市場への転販売は、大きな方向として活潑化するものと思われるので、これらの転送市場を相手とする各地地元生産者群は、このことを充分に考慮に入れた経営が必須のことと考えられた。

例えば、当リオ・グランデ・ド・スール州では、特にポルト・アレグレ市近郊物のはしりは例年7月から始まり、サンパウロよりの移入品が少なかった時代、相当な市況実績を示したが、近年移入物の増加と共に価格面では余り面白味がなくなりつつある。

早熟端境期の出鼻をくじかれる形の当地方生産者としては甚だ痛いところであるが、新鮮さの点では何と云っても有利な立場にあるので、生産技術改善によって良品生産と収穫期間延長で収量をあげると共に、包装の面でも、先進地サンパウロよりの入荷品にひけを取らぬ格段の努力で対処しなければならぬと考える。

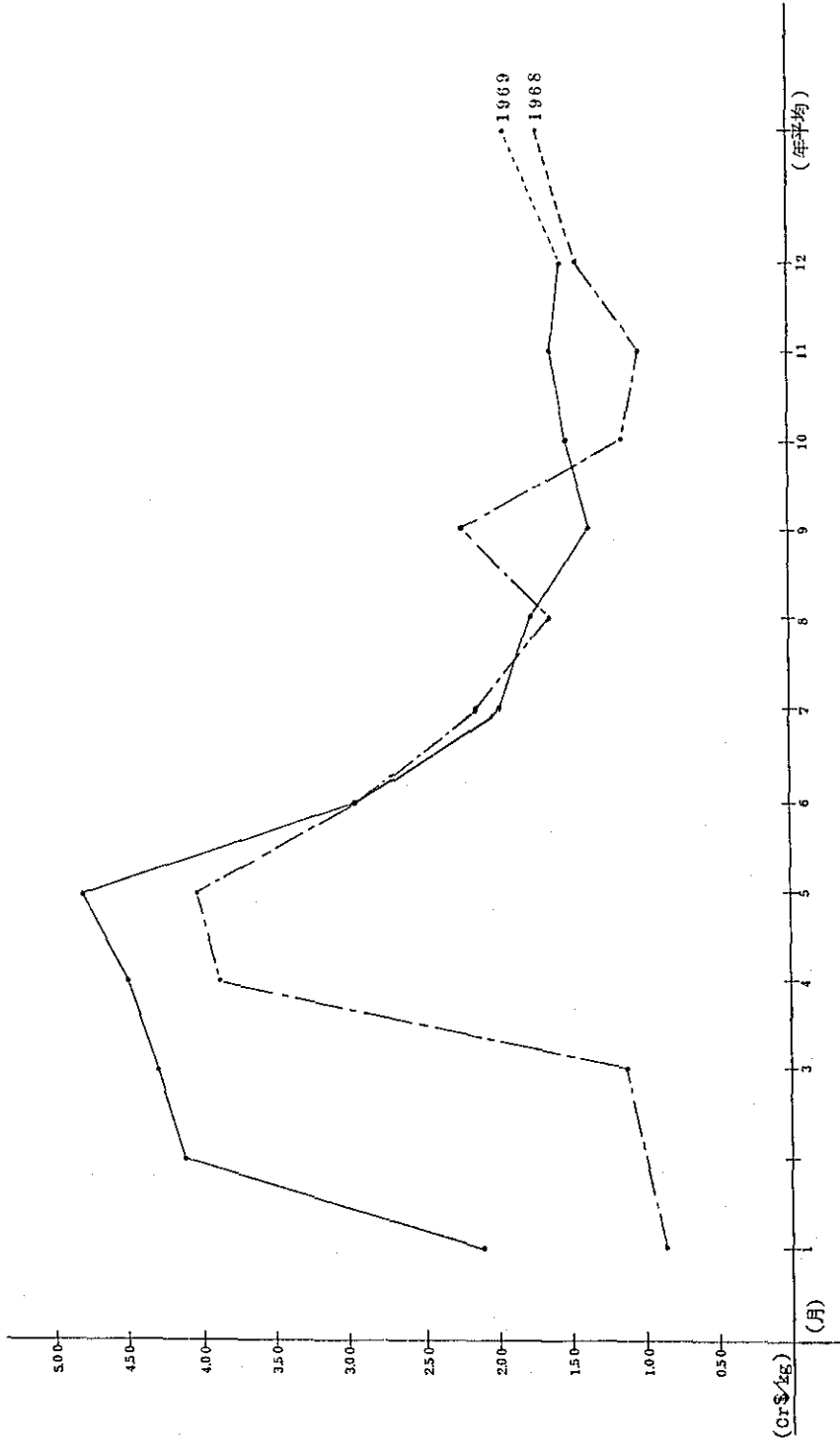
(iii) 当地方苺の生産上、例年8月、9月は比較的降雨量が多い年であり、このため腐敗品が畑で出るので、初期収量は極めて不安定のものである。

なお高冷地々方でも最近栽培熟が高まっているが、晩化栽培の方向で進めば、ポルト・アレグレ市場も年間需要が高いところから、面白い部門と考えられる。

但し、邦人の活動が余りない地方であるので良品出荷という面では余り期待できそうにない。

(iv) リオ・グランデ・ド・スール州南西部に展開している鱧詰桃栽培地帯では、加工業者の指導と桃収穫期までの合間を活用する生産者側の呼吸が一致して、かなり大きな生産があるが、最近ペロッタス国立農試育成の加工用品種プリンセザが収量、耐病性面で注目をあびつつあり、漸次この品種に移行するものと考えられる。

(第28表) サンパウロ市場のイチゴの月別価格平均実績グラフ(1967~1969) (スール, ブラジルの中央農産組合扱い)



9. バインアップルの市場性について

(i) バインアップルの国内市場消費量は、オレンジ、バナナは別格としてもぶどう、すいか、パイア等と殆んど肩を並べて第2位群の中に位置しているようで、全国のみずみに至るまで果物野菜店と名のつく店頭には、殆んど必ず顔を出している。

伯国内での生産状況について、1967年～68年分を伯国統計年鑑で拾ってみると次表のようになっている。

(第29表) バインアップルの生産状況

順位	州名	栽培面積 (ha)		生産量 (トン)	
		1967	1968	1967	1968
1	バライーバ	4,550	3,994	58,686	49,160
2	ベルナンブコ	2,704	2,679	24,768	26,881
3	リオ・グランデ・ド・スール	5,509	2,070	23,646	23,597
4	ミナス・ジェライス	4,003	3,500	26,012	21,843
5	バ イ ア	1,955	2,639	7,992	17,015
6	リオ・デ・ジャネイロ	1,116	1,546	13,466	15,640
7	サンパウロ	2,133	2,111	15,657	15,481
8	リオ・グランデ・ド・ノルテ	1,799	1,719	13,907	11,915
9	ゴヤス	1,069	1,047	7,823	7,591
10	その他	5,687	6,036	33,034	36,108
	合計	30,525	27,341	224,991	225,231

(注) 順位は1968年の生産量を基礎とした。

この表から見ると全国的には栽培面積の増減、収量の年による増減等により、特別に生産量が増加しているとは云えないのではないかと。むしろ歴史の非常に古い作物であるので、殆んど適地と思われる地帯は、すでに既成の産地として利用されつくされているのではないかと考えられる。(原産地である点からも適地適作物として普及したものと推定)

(ii) 但し、従来の原産改良種はいわゆるパイア種と通称されているもので有刺種であるが、戦前或る日本人移住者が訪日旅行の途中シンガポールで得た冠芽を大事に持ち帰ったのがもとで、現在の無刺種スムース・カイエンが市場性において特別すぐれているところからこの20年間の間に、特にサンパウロ州で普及し、現在では、経済品種としての確固たる基盤を築き、古い品種から新しい品種への転換が進みつつあるのであるから今後この品種を中心として新しいより進歩的な産地が



発生してゆくわけではないかとも考えられる。

例えばサンパウロ州の1968年栽培面積2,111 haの内、1,000 haはバウル地方、続いてリベロン・ブレット地方の550 ha、ソロカバ、レジストロの各200 haが生産地ではっきりした経済産地形成ができてるのが特徴であるが、これらの地方では殆んど90%以上をスムーズ・カイエン種が占めている。

そしてこれらの中のかなりの量がアルゼンチン国始め諸外国に積極的に輸出され、外貨獲得に寄与しつつあり、特にバウル方面では、すでに大型経営化が目立って巨万の富を築きつつあるものも現われているようである。

(iii) 典型的な熱帯果物であるパイナップルが、リオ・グランデ・ド・スール州の如き、亜熱帯性と温帯性気象が混和している地方であるにも拘らず、前掲の通り全国第3位の生産量をもっていることは、多くの人には不審な資料であろうと考えられる。事実当地に在住している者にとっても、この数字は想像以上という印象をうけるものである。

しかしながら主要産地であるオゾーリオ郡、トーレス郡は、海洋性亜熱帯で殆んど無霜地区であり、又アルゼンチン国ミッシェネス地方よりの国境地方にも一部無霜地区があり、これらの地方に有力な換金作物として広く栽培が普及していることを実地踏査すれば充分納得ゆくものである。

特にオゾーリオ・トーレス両郡では、バナナとパイナップル普及を主な業務としている州立試験場もあり、最近では、いろいろの改良事業が行われて、質の改善の時代が来ているようである。

これらの地区のパイナップル栽培は、古くからペロッタス方面の桃罐詰加工業の発達と共に桃加工時期(12月~2月)以外の工場運転のための原料要求の最有力果物として発展したものであり、又国内主要産地の中北伯からの移入についての流通面の後進性の中で生果品としての経済性もかなり高かったことなども増産を促した要因と考えられている。

何れにしても、近年州内各都市への流通機構の躍進と共に、生果品としての需要が急速に伸びており、これを刺激として産地の栽培姿勢も従来の掠奪農法から漸次よい品物を作る方向に改善しつつあり、このことが結局は、前にもふれたように、過去10年位の間に第12位の果物から第5位に躍進せしめたものであろう。

(iv) 当地へのパイナップルのうち有刺種スムーズ、カイエン種の需要も又高級果物として急速に伸びつつあるが、この大部分は、サンパウロ州、特に輸送便に恵まれているレジストロ地方のもののようにである。

大体、サンパウロ市場の入荷の動きは資料No.9のCEGESPにみられるように2月、3月、4月はかなり品薄となるようで、このため、上級品は大体3月~4月に市況が上向く傾向がある。事実前記レジストロ方面もこの時期には良質品は殆んど出つくしたあとで、一部のオクレ花の果実があるのみで大勢は終りになっている。

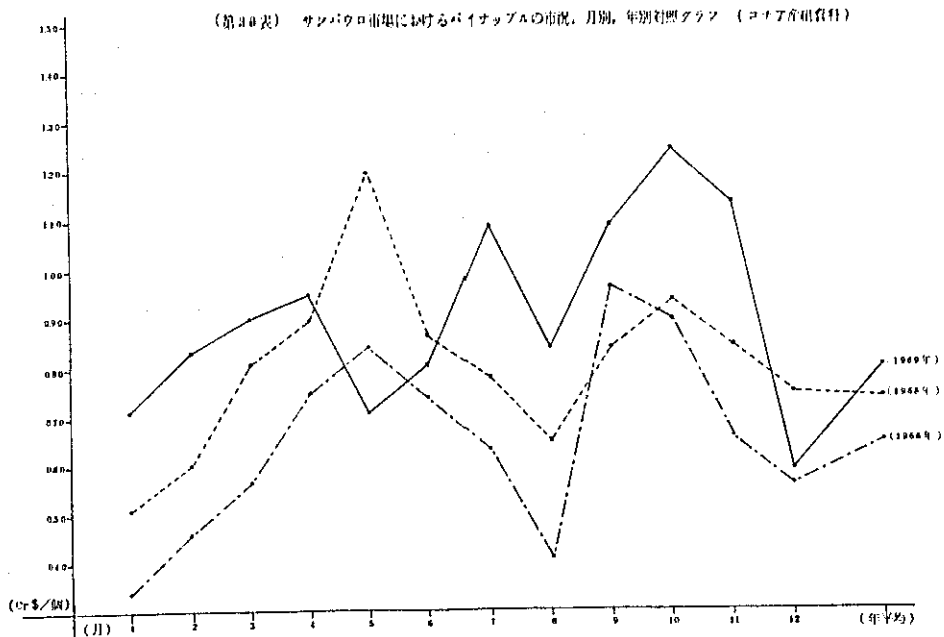
第30表はこの間の価格の動きをとらえるのに有力なものと考えられる。

リオ・グランデ・ド・スール州のパイナップルの出さかりは、サンパウロ方面以北に比べて、時期がずっと後れて3~4月になっている。この点決定的な市場競合が避けられる強みであろう。

(V) このような概況に対して一応、邦人の進出分野の一つとしてマークし、1969年、ヒジストロよりスミス・カイエン種苗7万本を導入して、オゾーリオ郡イタチ地区に創設したイタチ集団入植地で試作を開始した。この結果1971年3月下旬より収穫期を迎え、これをポルト・アレグレ市場に出荷したところ予想以上の好評を得、上述の移入品との競合の面でも、これが完全に回避できるという貴重な実績となった。市況の面でも1個当平均Cr\$ 1.00以上という、在来のパイナップルの少くとも2倍以上の経済性であった。

これらの栽培者達の心配は、「質的(糖度、大きさ)に安心できないのではないか」ということであつたが、市場調査考察の結果により、本年発生した苗は、殆んどそのまま本格的な経済作物としてあらためて新植にふみ切った。但し、土地の利用回転度等の点から云えば、これが単用作は余程の面積の土地をもっていない限り、余り有利とは云えないところから、当面は柑橘、桃等の間作物として利用する方法をとっている。

今後の成績如何では大規模な専業経営も検討の余地があろうと考えられる。



## VI 調査所見

本調査の実施によりサンパロ市場の動きを大まかに一応の傾向としてつかみ得たことは大きな収穫であった。このことは今後更に調査の焦点をしぼって特別の調査をすゝめるのに非常に参考となるものであった。

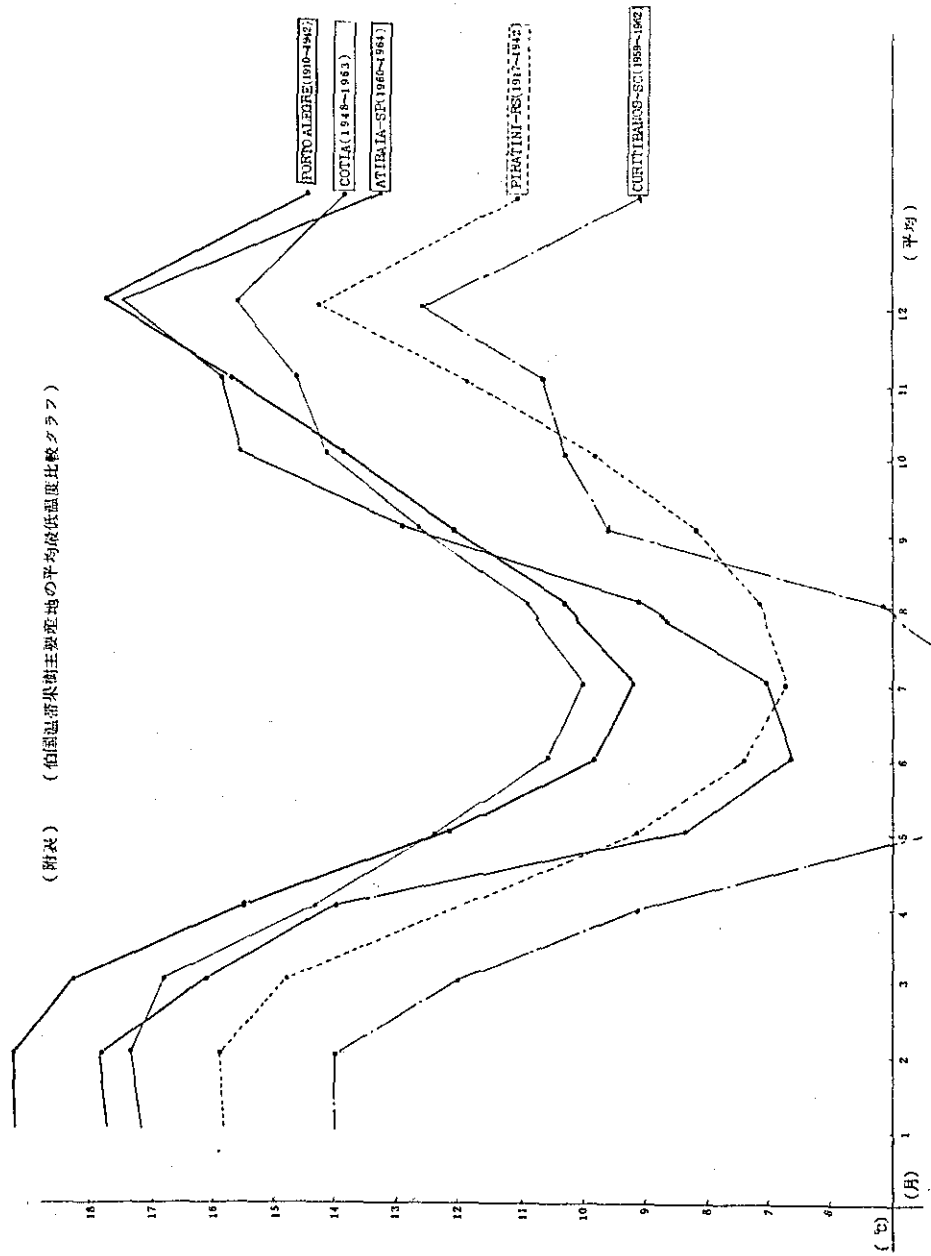
農産物は工業生産物市場とちがって、不規則極まりない天候を相手にし、加えて、殆んど日々の需給のバランスで左右されている農産物の市場のことであり、極端な云い方をすれば「銭をにぎってみなければわからない」という心細いこと此の上ない市場であるので、これは考えれば考える程、調べれば調べる程全く難かしいことのようにある。

しかしながら、これらの各地農産物を生産過程において、種々発生した諸条件、例えば気象条件、病虫害等の発生による豊凶見込など、其の年の市場入荷量そして当然市況に大きな影響力をもっているものなのであるから、これとの関連性を更にほりさげてゆけばもっと現実に即した活きた資料がでるにちがいないと考えられる。

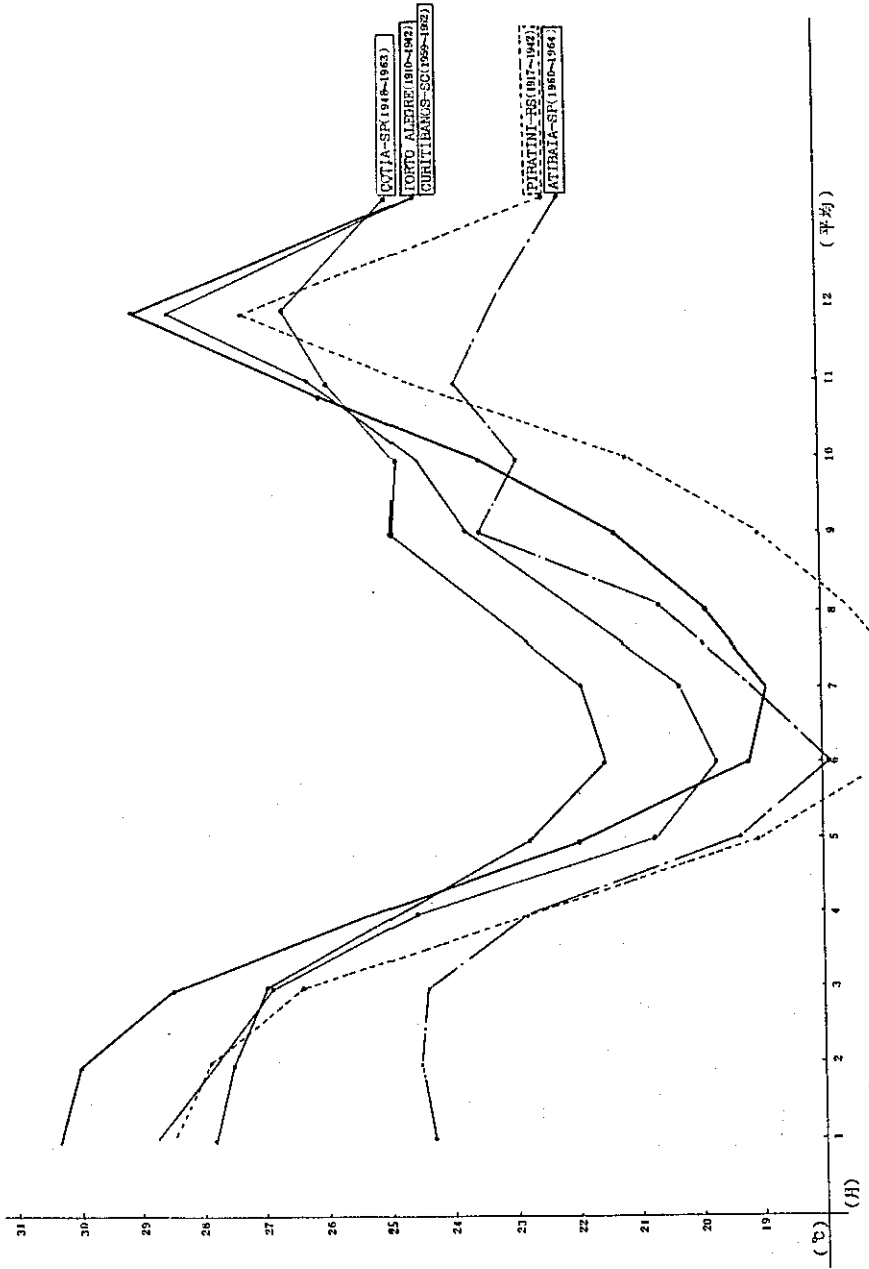
生産者にとって現在最も切実な問題は、丹精こめた農産物が出荷に当たってどの位で売れるかという見込みの問題であり、これを1月でも20日でも早く、大方の数字をつかみ得ることになれば、どの位経済的か、又精神的にどれ程楽しくなるか想像にかたくないところである。

更に特に野菜や果物の消費市場は、同類の野菜や果物で、自由自在に代がえができるという性質をっており、余り高いと他の安くあがるもので間に合わすという消費者の動きも充分考慮に入れておかなければならない筈である。この点各考察の中で必要に応じて若干ふれた点もあるが、例えば「ぶどうの価格は、時と場合によって、同じ時期に入荷するスモモやイチゴ等他の果物の豊凶入荷の差などでも大いに動く性質」も持っているようで、このような事柄を総合した場合、これらの諸関連性をも含めて今後調査を進めてゆかねばならないと考える。

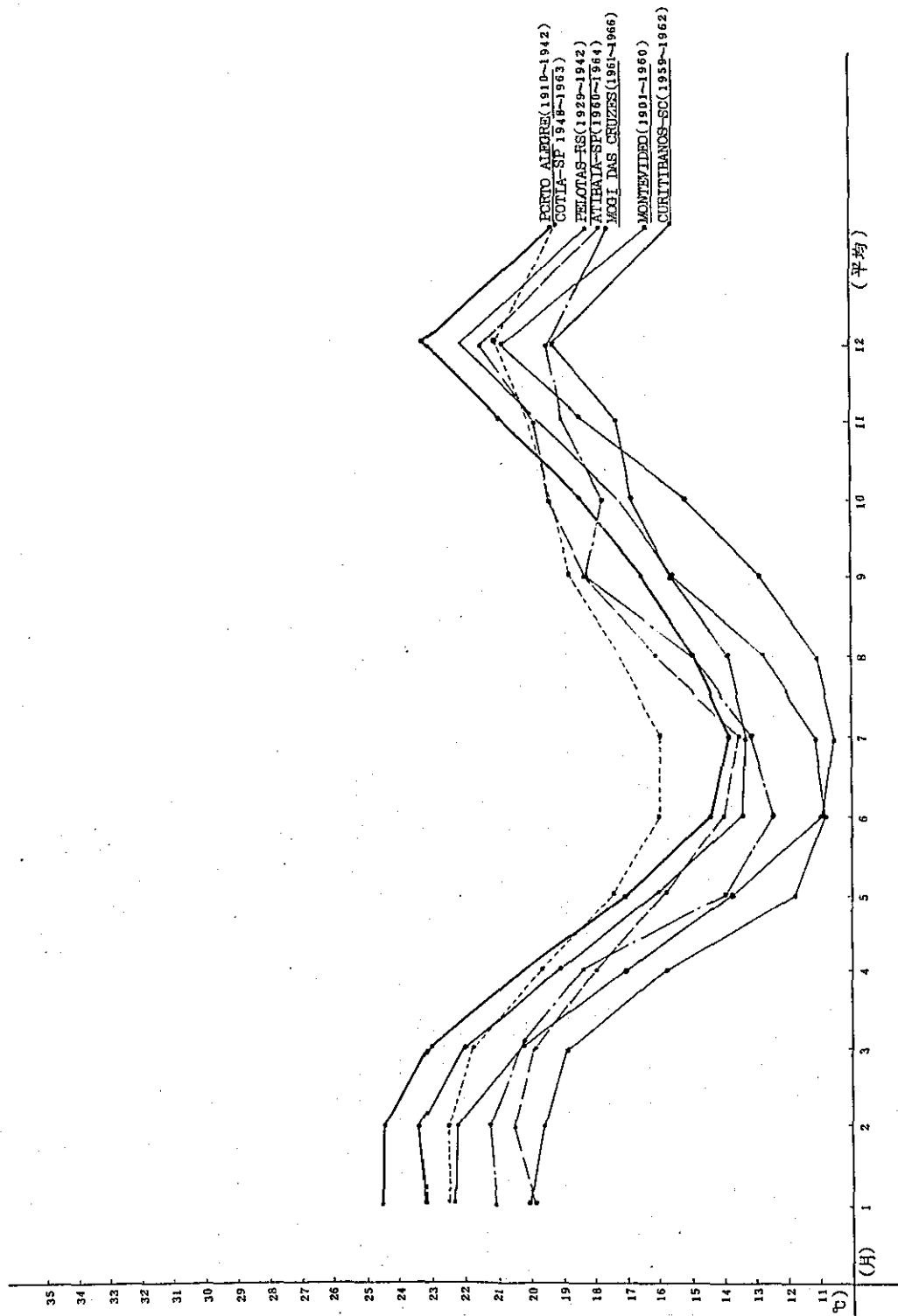
(附表) (伯国温帯東部主要産地の平均最低気温比較グラフ)



(附表) (折国語帯集線の主要産地の平均最高気温比較グラフ)



( 附表 ) ( 果樹栽培主要地方の平均温度比較グラフ )



(附表)

イボチ移住地の5月～8月の気象実績対照表 (1970, 1971)

区分 項目	5月		6月		7月		8月	
	1970	1971	1970	1971	1970	1971	1970	1971
9時気温平均	17.2	15.1	14.4	12.4	14.0	15.0	15.2	16.1
15時 "	22.8	20.4	19.3	16.4	20.5	20.1	20.2	20.1
21時 "	16.8	13.3	14.1	10.6	14.7	13.4	14.0	14.1
平均温度	18.6	16.1	16.0	13.1	16.4	16.4	16.5	16.8
平均最高温度	23.5	21.6	20.8	17.7	21.6	20.9	21.8	21.0
最高極温	33.5	31.0	30.0	26.0	30.0	30.0	32.0	31.0
平均最低温度	12.8	10.5	9.4	7.7	10.7	10.9	10.8	10.5
最低極温	5.0	4.0	0.1	0.0	0.0	2.5	3.0	6.0
降雨日数	13	8	13	12	8	12	10	10
降雨量	224.4mm	104.3mm	241.4mm	288.3mm	166.1mm	70.1mm	116.9mm	192.0mm
1日最高雨量	55.0mm	27.5mm	70.0mm	52.6mm	44.7mm	13.4mm	36.2mm	66.0mm
1.5時平均湿度	68.5%	57.0%	64.4%	63.4%	58.4%	58.7%	55.3%	60.6%

(概況考察) 本年の5～6月は例年より2～3度平均温度が低く、このため果樹の休眠は徹底したようです。ところが7月～8月は完全に昨年並みに急に温度が上がり、適当な雨量もあり、このため萌芽が急に促進されているようです。充分の休眠を得た目ざめのよい果樹ですから、萌芽の勢力もよいということです。

従ってこのまゝでは花芽分化もよい筈で豊作が見込まれますが、7～8月になって湿度が比較的高くなってきているのが非常に気がかりです。このまゝでは、油断すると病害多発のおそれ充分ありますから、薬剤の準備、予防体制には格別の注意が必要でしょう。なお今後の平均温度次第では、収穫期がかなり早まる可能性が強いため、晩熟をねらう場合、果樹園の敷草、乾燥期の灌漑、夏季剪定の加減等、積算温度の引き下げ、日照受光量の制限等の補助技術を施してゆく必要があります。病害発生予察は空気相対湿度(%)が高温下で80%となると出ると考えて、気象観測所に充分の注意を払っていただきましょう。

## サントドミンゴ支部編

蔬菜類のプエルトリコ市場向輸出の可能性について



## I 調査の目的

当地区日系移住者生産の農産物は主として国内市場にて販売されているが国内市場が狭小であるため市場は不安定で価格の変動も激しいことから日系移住者は今なお安定した営農を確立し得ない状況にある。

ついでには農産物の輸出の可能性と近隣国の市場状況を調査把握し販路開拓に努めるべく本調査を実施したものである。

## II 調査者

米国三井物産株式会社 サンファン事務所

(委託調査)

## III 調査地

アメリカ領プエルトリコ

## IV 調査内容

### 1. 一般概況：

#### (1) 位置，面積

北緯  $18^{\circ} - 18^{\circ}30'$ ，西経  $66^{\circ}20' - 67^{\circ}10'$

東西約100マイル，南北約35マイルで，面積8,896平方マイルの小島。広島県より稍大きく，四国の約 $\frac{1}{2}$ である。

北海岸は大西洋，南海岸はカリブ海に面し，西方61マイルにドミニカ共和国がある。

#### (2) 人口

約280万人，内首都SAN JUAN市に約80万人，第二のPONCE市に約16万人。

人口密度は778人PER MILE<sup>2</sup>（世界第6位の密度）北米に約130万人のプエルトリコ人が移住しており，中でもNEW YORK市に97万人，CHICAGO市に8万人と集中している。

#### (3) 人種，言語

白人（主に征服者スペイン人の子孫）75%，混血黒人，土着人25%，公用語は英語，西語であるが，日常生活語は西語である。

#### (4) 宗教

信教は自由であるが，大半はローマン・カソリック信者

#### (5) 気候，地勢

海洋性熱帯気候。SAN JUAN市（平地，海洋）で夏平均気温  $26^{\circ}\text{C}$ ，高地  $20^{\circ}\text{C}$ 。年間を通じて変化は少く，冬  $74^{\circ}\text{F}$ ，夏  $80^{\circ}\text{F}$  AVERAGEの常夏の国である。

湿度は比較的高く，昼間75%，夜間85%。雨期は通常5～12月。年平均降雨量は，太平洋側で1,370～1,420MM，カリブ海側で750～1,250MM。

島の中央を東西に山脈が走っており，高い山で1,300M位。島の約 $\frac{1}{4}$ は山岳地。北部海岸地方

は農耕に適しているが南部は雨量少く土地もやせている。

## 2. 政治的条件：

### (1) 国の名称

西語 "ESTADO LIBRE ASOCIADO DE PUERTO RICO"

英語 "THE COMMONWEALTH OF PUERTO RICO"

### (2) 形態

ア. 1898年米西戦争の結果スペインよりアメリカ合衆国へ譲渡された。現在は、U. S. A. の自治領で、1917年より住民はアメリカ合衆国の市民権を持ち、米国への移住は自由である。

(JONES ACT)

イ. 1952年住民投票により、米国議会が可決した連邦関係法を承認し、これによってPUERTO RICOは外交、軍事、海上警備、郵便等に関する諸権利を米国連邦政府に委ね、そのかわり

①引き続き米国との間に関税障害を一切認めない。

②米国連邦政府に対する税金はすべて免除される。

③米国はPUERTO RICOの内政には一切干渉せず、プエルト・リコ政府は米国から与えられた財政上の恩典をすべてのPUERTO RICO人の最大の利益になる様に使うこと。

等が取り決められた。

ウ. 政治の最高責任者は知事(GOVERNOR)であり、SENEATE(上院)とHOUSE OR REPRESENTATIVE(下院)の立法機関がある。政府機関の長は知事により任命される。

エ. 政党NEW PROGRESSIVE PARTYとPOPLAR DEMOCRATIC PARTYの二大政党があり、前者が多数にて下院を抑え、後者が上院を抑えている現状である。現知事は下者の総裁である。

他に完全独立を主張するINDEPENDENT PARTY或は米国の一州となることを主張する党もあるが、完全な独立国になれば、米国の関税圏の外に出て上記三本柱の一本を失うことになり、又米国の一州になれば連邦税免除の特典を失うことになる。現状COMMONWEALTH維持派が強いのはこの現実的考慮からで1930年代には35%もあった独立支持者は5%以下に減って来た。然し最近はラテン・アメリカ諸国の社会主義化の影響を受け学生層を中心に過激な独立運動が展開され始めているが、一般労働者の支持を受けるまでには至っていない。

## 3. 経済状況

(1) 1940年の国民総生産3億\$, 1966年には30億\$を超えて過去30年の発展は目覚ましいものがある。

砂糖、コーヒー、タバコを主体とした農業国よりの脱皮は、工業、商業、観光等の奨励策により現在も続けられている。

○1968・1969 FISCAL YEARの産業別総生産(NET)次のとおり。

	1968	1969	(単位100万\$)
総生産	3,079.1	3,403.0	
農業	185.4	175.5	
工業	794.2	908.4	
鉱業	9.9	10.2	
建設業	278.9	279.6	
交通, 公共施設	288.3	325.2	
卸売, 小売業	548.4	607.9	
金融, 保険, 不動産業	334.4	384.5	
サービス業	400.9	455.9	
政府関係	430.1	489.0	

即ち、前年比10.5%の増加であるが、農業のみ減少を示している。因に1965年の農業収入は190.3百万\$である。

(2) 国民一人当の NET INCOME

1969年 \$1,234

1968年 \$1,130

ラテン・アメリカ諸国の中では、一位のアルゼンチン\$950(1968)より上であり、隣国ドミニカ共和国は\$233(1968)である。

経済成長率が10年間、10%以上を示していることは日本と比較される所であり、PUERTO RICO人自身が、その急激な発展に驚いている現状である。

(3) 産業別雇用者数次のとおり。

	1968	1969	(単位1,000人)
全産業	701	722	
農業, 林業, 漁業	92	85	
工業	137	144	
建設業	70	73	
交通業	48	50	
卸売, 小売業	128	132	
金融, 保険, 不動産	13	14	
サービス	113	116	
公共事業	99	108	

1965年の農, 林, 漁業人口は、119,000人を示している。

(4) 輸出入状況

ア. 1969年 FISCAL 輸出総額 \$1,607 MILLIONS (砂糖, コーヒー, タバコ, ラム, 衣料, 等)

内 86.9% TO USA  
 6.8% TO VIRGIN ISLAND  
 6.3% TO MORE THAN 60 COUNTRIES

対1968年比総額にて10.9%増加, USA向は11.2%増, 外国へは20.2%増加している。

外国への輸出額の順位は

(i) NETHERLAND \$242 MILLION  
 (ii) DOMINICAN REPUBLIC \$155 - " -  
 (iii) VENEZUELA \$84 - " -  
 (iv) U. K.

1. 1969年輸入総額 (FISCAL... JULY '68~JUNE '69)

\$2,263 MILLIONS

内 78% FROM USA  
 1.2% FROM VIRGIN ISLAND  
 20.8% FROM FOREIGN COUNTRIES

対1968年比USより12.4%増, 90以上の外国よりの輸入は, 22.3%増である。なお外国からの輸入の順位は次のとおりである。

(ア) VENEZUELA \$120.2 MILLIONS (cf. 石油)  
 (イ) JAPAN 54.4 - " -  
 (ウ) CANADA 44.5 - " -  
 (エ) NETHERLAND 33.4 - " -  
 (オ) SPAIN 30.8 - " -  
 (カ) W. GERMANY 22.7 - " -

(5) 観光収入

1968/1969年 (FISCAL) 比較

	VISITORS	SPENT
1968	910,903人	\$190 MILLION
1969	1,067,511人	\$221 - " -

1人当たり支出は, 両年度共で約\$208.-である。

(6) 政府総収入1969年 754,817 (単位\$1,000.-)

内 TAX, LICENCE 収入 FROM COMMONWEALTH SOURCES  
 ..... 508,118  
 NON-COMONWEALTH SOURCES ... 246,699  
 内 CUSTOMS ... 29,306

US EXCISES/OFFSHORE... 81,968

FEDERAL GRANTS-IN-AID... 135,425

輸出 \$ 1,607 MILLION

輸入 2,263 -"-

BALANCE (-)	656	-"-
観光収入	221	-"-
FEDERAL GRANTS	135	-"-
CUSTOMS 他	111	-"-
TOTAL BALANCE(-)	189	-"-

USA他よりの企業資本投資 92.6 -"- (1970年201件)

(7) 工業振興政策

"FOMENTO" (開発) 即ち COMMONWEALTH OF PUERTO RICO ECONOMIC DEVELOPMENT ADMINISTRATION (EDA) が 1950年に設立されてから、従来 PUERTO RICO INDUSTRIAL DEVELOPMENT COMPANY 及び GOVERNMENT DEVELOPMENT BANK が行って来た開発案件の内、プロモーション部門を FOMENTO が引き継ぎ、経済開発の中核体として、この20年間に果して来た役割は、そのまま PUERTO RICO の産業政策の具現に他ならない。

ア. EDA即ち FOMENTO は、現在次の四部門よりなる。

DEPT. OF INDUSTRIAL DEVELOPMENT

DEPT. OF TOURISM

THE PUERTO RICO INDUSTRIAL DEVELOPMENT COMPANY

THE PUERTO RICO PORT AUTHORITY

イ. FOMENTO により誘致設立された PLANT 数の推移は次の通りである。

1962年	143件	
1963	142	
1964	143	
1965	181	
1966	212	
1967	268	
1968	245	
1969	209	
1970	201	合計1,744件

ウ. 1970年度産業別工場誘致件数: 201件

		投資額総計
APPAREL (衣服) & TEXTILE	61件	
PAPER, PRINTING	5	US \$ 9,258,197.6-
CHEMICAL, PLASTIC & DRUG	23	
ELECTRICAL	25	
FOOD	12	
LEATHER & SHOE	9	
METAL WORKING	6	
STEEL	14	
WOOD, FURNITURE	14	
CIGARETTES, TRANSPORT. etc.	21	
GLASS	11	

エ. 工場進出に対する恩典 (INCENTIVE ACT.)

(ア) 免税措置

(a) FEDERAL TAX 不要

(b) 100% LOCAL TAX EXEMPTION

免除期間によって全島を10, 12, 15, 17年の四地域に別れている。これら期間内は夫々に  
 応じ、法人税、資産税、地方税、licence Fee が免除される。

(例 SAN JUAN市周辺は10年間地域、西南部の田舎地方は17年間地域で、この期間内は  
 免除されている)

(c) INVESTOR EXEMPTION

配当金に対する無税措置

(d) EXTENDED TAX EXEMPTION

上記諸税の内、一部を支払う時はその率により免税期間が、夫々の地域の2倍20, 24, 30,  
 34年迄延長される。例えば80%免税を受けて始めた企業は(100%を取らず)、40%に  
 対し、更に同期間の免税を与えられる。70%の場合は60%、60%の場合は80%とEXT-  
 ENDED PERIOD の恩典がある。

(e) COMMENCEMENT OPTION

免税開始の日は、工場稼働後2年以内に決めれば良い。

(f) OTHER EXEMPTIONS

INDUSTRIAL 及び SCIENTIFIC LABORATORIES, HOTELS, LEASING  
 INDUSTRIAL MACHINERY にも免税措置がある。

(g) EXPORT INCENTIVE ACT

米国以外の国への輸出による INCOME TAX は 10 年間免税となる。

(h) FLEXIBLE DEPRECIATION

(1) 金融措置

(a) 米国及 PUERTO RICO 地場銀行よりの通常融資斡旋

THE GOVERNMENT DEVELOPMENT BANK PUERTO RICO INDUSTRIAL DEVELOPMENT CO.

FEDERAL ECONOMIC DEVELOPMENT ADMINISTRATION

これらは U. S. DEPT. OF COMMERCE の下部機関で 25 年迄の融資。FIXED ASSETS の 90% 迄 金利 5.25% P. A.

(b) THE SMALL BUSINESS ADMINISTRATION

FIXED ASSETS 及 WORKING CAPITAL

金利 5.5% P. A.

(c) LOCAL ENTREPRENEURS

PUERTO RICO 企業家が FOMENTO に登録している資本投下準備金は約 7,000 万\$ とのことである。

(d) SMALL BUSINESS INVESTMENT CO.

(e) JOINT VENTURES に対しては、米国、外国を問わず PUERTO RICO 資本 50% 以上の先に対し PRIDCO より、一層 FLEXIBLE を条件にて借りられる。

(f) CASH INCENTIVE GRANTS

操業開始時に労働者数、資本金、工場設置場所等の条件により、与えられる。

(1) 工場設置のための土地と建物

全島にわたり、準備しており、港湾との距離、輸送状況、SKILLED、労働力、水、電力等の資料は FOMENTO で常時揃えてある。

中小企業用、多目的に順応出来る、11,500 ~ 23,000 SQUARE FEET の工場を各地に建設済で、売却、賃貸が可能である。

PRIDCO の標準賃貸 RATE は、地域により異なるが \$ 0.75 より \$ 1.20 PER SQ. FT. 程度である。

(8) 開発計画

FOMENTO 及び各政府機関の進行中又は準備中の PROJECTS は次の通りである。

ア. 銅鉱山開発 (FOMENTO / 知事任命の COMMITTEE)

AMAX, KENNECOTT

公害問題で世論の反対が強く、現在 FOMENTO が説得に努力中。

イ. アルミニウム生産工場 (FOMENTO / 知事任命の COMMITTEE) AMAX

ウ. 発電所建設 (電力局)

AGUIRRE No. 1 & 2 共に 45 万 KW にてラテン・アメリカ最大の出力のものを 2 基建設中で、更に同規模の No. 3 & 4 の建設計画がある。

SOUTHCOAST No. 5 & 6, 43 万 KW EACH 原子力発電所, 60 万 KW

エ. NEW SAN JUAN CENTER (COMITTEE)

HATO REY を中心とした NEW BUSINESS CENTER である。

ホ. RAPID TRANSIT SYSTEM (交通局/企画庁)

通常のハイ・ウェイ拡張計画の他に、SAN JUAN 市中心部の交通緩和のための 1986 年の必要量を予定して、電車、高架バス、モノ・レール、等の適性、経済性を検討中である。

カ. 国際空港新設 (PLANNING BOARD/PORT AUTHORITY)

PONCE, MAYAGUEZ 間, 1973 一部操業開始予定

キ. PETRO-CHEMICAL 関係 (FOMENTO)

UNION CARBIDE

SUN OIL REFINERY

PPG

ク. TOA VACA DUM (PLANNING BOARD)

1972-73 年予算 \$300 MILLION の予定

ケ. HIGHWAY 建設, 拡張 (HIGHWAY AUTHORITY)

DI-DIEGO-ALECIEBO

SAN JUAN-PONCE

他

コ. SAN JUAN PORT 拡張 (PORT AUTHORITY)

PUERTO NUEVO 港

サ. HOTEL 拡張, 新設 (FOMENTO)

CARIBE HILTON, LA CONCHA

東洋綿花日本ホテル

シ. SAN JUAN COLOSEUM

ス. GOVERNMENTAL CENTER

SAN TURCE \$23 MILLION

セ. JUDICIAL CENTER

HATO RET

ソ. CAROLINA PLAZA

SHOPPING CENTERS



4. 交通運輸状況

(1) 海上輸送

ア. 定期便は北米、カリブ海諸国、中南米、欧州、アジアの各港とある。

米国との間は9船会社が毎週約80航海の配船を行っており、平均航海日数はGULF/大西洋岸迄々々3日/4日間である。(最近就航船はNEW YORK迄60時間)

米国船会社4社がCONTAINERの定期便を米国及び世界各国との間に就航させている。

イ. 商港はSAN JUAN(北岸)、MAYAGUEZ(西岸)、PONCE(南岸)の三港で、SAN JUAN港はBERTHING SPACEが31あり、その内7BERTHSはCONTAINERを操作出来る。SAN JUANの新港としてPUERTO NLEVO港が開発され、現在4BERTHを使用、また2BERTHSを建設中。よって完成后は最も近代的な15BERTHSを持つ良港となる。

MAYAGUEZ及び、PONCEの良港も年々改善拡張が図られている。

上記商港の他に、南部の石油化学コンビナートにLAS MAREAS、GUAYA NILLA、YABUCOA港等を既設又は、新設中である。

ウ. ドミニカ共和国との間(SANTO DOMINGO/RIO JAINA港)を就港している定期便は次の通り。所要時間35~40時間。

(ア)CARIBE SHIPPING CO. INC (724-5800)月2便 5~10日、15~20日  
STO. DOMINGO; FREDRIC SCHAD (MO AGENT)

(イ)MARITIMA SANTO DOMINGO (724-5580)週1便

(ウ)SEA LAND SERVICE INC. (783-1414)週3便

(2) 航空輸送

ア. THE PORT AUTHORITYが空港を管理している。

現在、国際空港は、SAN JUAN INTERNATIONAL AIRPORTのみであるが、PONCEとMAYAGUEZの間に新設が計画されている。

イ. EASTERN、TRANS-CARIBBEAN、PAN AMERICAN、DELTA、AIRLIFT INTERNATIONALの5社にて月1,500のFREIGHT SERVICEあり。他AIR FRANCE、AVIANCA等6つの外国会社がある。

ウ. カリブ海各国との間にも、定期SERVICEがあるが、ドミニカ共和国の間には、CARIBAIR、PAN AMERICAN、QUISQUIYANA、及、ドミニカ航空が、いずれも毎日一便或は二便往復しており、ジェット機によるSAN JUAN-SANTO DOMINGO間飛行時間は35分である。

又、貨物運賃は、100LBS迄、\$13.00 MIN. 100LBS以上 1LB.につき\$0.07。

(3) 国内輸送

ア. 全島の道路の長さは合計 4,800 MILES 以上。HIGHWAY, EXPRESS WAY は良く整備されている。

イ. 約 136 のトラック輸送会社がある、なお主要 3 港より、全島のどこに行くにしても 2 時間はかからない。

ウ. 運賃は地域差があるが、MINIMUM CHARGE は \$3.75 より \$4.75 迄、これに 100 LBS 当り、3,000 LBS 迄が \$0.85 より \$1.10 又 3,000 ~ 6,000 LBS \$0.70 - 0.85, 6,000 - 8,000 LBS \$0.55 ~ 0.75 PER 100 LBS. が割増される。

#### (4) FOREIGN TRADE ZONE (FREE ZONE)

MAYAGUEZ に FREE PORT あり。工場用原材料を外国より輸入する場合

- (i) U. S. CUSTOMS DUTY を払う必要がない。
- (ii) ZONE に持ち込まれた時輸入 QUOTA は適用されない。
- (iii) 外国へ輸出された製品には U. S. CUSTOMS DUTY は支払う必要がない。
- (iv) 製品が米国領土内で売られた場合、原材料か製品かどちらか安い方の DUTY を適用出来る。

#### 5. 労働条況

##### (1) 労働人口約 80 万人

失業率は、各年 7 - 1 月が高く、2 - 6 月が低い。

平均 10 ~ 12% の間で、1968 年 12.0%, 1969 年 10.7%, これは 1950 年以來の最低の数字である。

(2) 労働人口の約  $\frac{1}{2}$  が 35 才以下である。この若年層の殆んどが、HIGH SCHOOL を出ており、技術を身につけようとする意欲は強い。

(3) 就職、求職には政府機関 THE PUERTO RICAN EMPLOYMENT SERVICE が、適性テスト、能力診断を行ってくれる。また、教育、訓練もこの機関の仕事である。

(4) 労働生産性は FOMENTO によれば、米本土の対象部門と同等或は、より高いレコードが出ているとのこと。事実、米国、日本(松下電気、三豊)の進出企業のいずれもが良く働くと賞賛している。

##### (5) 賃金水準

WAGE LAW にて、各産業別に最低賃銀が決められている。最高額は、米本土の最低賃銀迄、それ以下で、使用者、労働者の 3 人よりなる委員会で決定される。

#### 6. 公共サービス:(FOR INDUSTRIES)

##### (1) 電力 (THE PUERTO RICO WATER RESOURCES AUTHORITY)

60 CYCLE AC

LP-14 SCHEDULE FOR GENERAL PURPOSE, 2,300 - 8,000 V

LP-16 - - FOR 250 KVA OR MORE DEMAND

LP-17 SCHEDULE FOR 500 KVA OR MORE DEMAND  
COST IN CENTS PER KWH PER KVA PER MONTH

	LP-14	LP-16	LP-17
1ST 100 KWH/KVA	\$ .0235	.0115	.009
2ND 100 "	.0155	.0115	.009
3RD 100 "	.0155	.0115	.006
ALL ADDITIONAL POWER	.0075	.0075	.006
DEMAND CHARGE PER KVA	1.35	1.35	1.35
MIN. MONTHLY BILL	150.00	337.50	675.00

(2) ガス

LIQUID PETROLEUM GAS 全島どこでも購入が可能。なお COST は北部 PUERTO RICO DELIVERED で

\$0.17 PER GAL. OVER 3,000 GALS. MONTHLY

\$0.18 TO 0.22 FOR SMALLER QUANTITIES.

また PROPANE GAS の購入も可能である。

7. 金融, 財政, 税金状況

(1) 商業銀行

ア. 13行あり, その内 PUERTO RICO 9行

U. S. A. 支店 2行 (FNCB, CHASE)

外銀支店 2行 (ROYAL BANK OF CANADA,  
NOVA SCOTIA)

イ. 総預金残高 ASOF JUNE 30, 1969 \$2,185 MILLION

内地場9行にて  $\frac{3}{5}$  を占めている。なお預金高の上昇率は

前年比 1967年-15.8%, 1968年-17.8%, 1969年-21.3%である。

ウ. 総貸出残高 ASOF JUNE 30, 1969 \$1,856 MILLION

内 融資, 割引, 84.7%, 投資 15.3%

前年比 融資, 割引額増は1969年24.1%である

(2) 政府銀行

ア. THE GOVERNMENT DEVELOPMENT BANK FOR P. R. HOUSING BANK OF P. R.

イ. 両行資金 ASOF JUNE 30, 1969 \$356 MILLION

内 GOVERNMENT DEVELOPMENT BANK 95.1% SHARE.

開発銀行の資金手当の半分は CERTIFICATES OF INDEBTEDNESS (負債証券) の発行による。

(3) 趨勢

1964—1969 5年間で銀行預金は約2倍に増加，一方貸出も同期間に約2倍となった。  
貸出先は農業向を除き，全産業向に平均に伸びている。因みに  
農業向融資は1964年以來減り始め1969年には5年前の約半分となり(1964年 \$31.9  
MILLION→1969年 \$16.6 MILLION)，一方，商工業の不動産及び個人向融資はいずれ  
も5年間に約2倍の伸びを示した。

(4) 他金融機関：

ア. MUTUAL SAVINGS BANK OF PUERTO RICO

唯一の SAVING BANK であり，預金高は前年比1968年37.2%，1969年には88.0%増  
加した。

貸出高も1969年は前年の2倍以上に増加した。

AS OF JUNE 30, 1969

預金高 \$2,416.6 THOUSANDS

貸出高 \$2,392.4 —"—

イ. SAVING AND LOAN ASSOCIATIONS

9 ASSOCIATIONS あり，

総資金 ASOF END JUNE, 1969 \$309 MILLION

総預金 —"— \$256 —"—

総貸出金 —"— \$250 —"—

ウ. SMALL PERSONAL LOAN COMPANIES

50社あり。

総資金 \$64 MILLION

総貸出 上記の約96%

エ. INSURANCE COMPANIES

TOTAL 247社が PUERTO RICO で営業している。

1968年の保険料収入は \$148 MILLION である。

なお保険会社による政府債投資 \$140 MILLION であり，又通常 LOAN は \$151  
MILLION である。

(5) 財政歳入 (1969年)

ア. COMMONWEALTH SOURCES

\$508 MILLION …内 91.2% 税金収入

8.8% NONTAX 収入

TAX 収入の内 47.5% INCOME TAX

4.17% EXCISE TAX

1.08% PROPERTY, LICENCE etc.

1. NON-COMMONWEALTH SOURCES

- 輸入税…USA 政府徴集, 後返還される。
- 米国 EXCISE TAX (煙草, アルコール etc.) 上記と同じ。
- FEDERAL GRANTS … 米連邦政府より贈与

計 \$ 246.7 MILLION

内 FEDERAL GRANTS \$ 135.4 MILLION

(6) 歳出	1968	1969 (MILLION)
TOTAL:	677.1	743.4
GENERAL GOVERNMENT	63.7	55.3
EDUCATION	204.3	213.2
HEALTH & WELFARE	156.3	166.4
INDUSTRIAL, AGRICULTURAL & COMMERCIAL DEVELOP.	49.1	56.5
PUBLIC SAFETY & CORRECTION	70.1	69.0
TRANSPORT. & COMMUNICATION	37.1	39.3
INTEREST ON DEBT	16.6	18.1
OTHER	79.9	125.6

教育のための歳出は過去10数年変わらず最高額である。

負債は END OF FISCAL 1969 \$432.2 MILLION となっている。

(7) 関税

米国政府により徴集される。税率は一切米国と同じ。

但し、前述の通り、米本土及自治領からの通関には税金なし。

徴集後、米国政府より PUERTO RICO 政府に返される。

(8) 租税

INCOME TAX- INDIVIDUALS, CORPORATIONS AND PARTNERSHIP

7% + EXCESS, 20% + EXCESS RATE

ESTATE TAX, GIFT TAX, MUNICIPAL PATENTE, SOCIAL SECURITY,  
SELF-EMPLOYMENT TAX, UNEMPLOYMENT TAX, DISABILITY BENEFIT  
TAX, PROPERTY TAX, EXCISE TAXES FOR PETROLEUM PRODUCTS, CI-  
GARETTES, DISTILLED SPIRITS (RUM, WHISKY etc.), WINES & CI-  
DERS, BEER, HYDRAULIC CEMENT, MATCHES etc. 及 PUBLIC SHOW,  
TIRE & TUBES, RUGS, CHEWING GUM, JEWELRY, ELECTRICAL AP-

PLIANCES, RADIOS, TV, PASSENGER CARS TRUCK TRACTORS, BUSES  
etc.

LICENCE TAX.

(9) 特別措置

産業振興のための免税措置は前述の通りである。

又、TAX EXEMPTION を受けられる生産物“DESIGNATED ARTICLES”がありそれは缶詰等食品が大部分である。

(10) 法律関係

憲法は米国と殆んど同様の PUERTO RICO 憲法がある。然し全部ではないが、米国の法律がそのまま PUERTO RICO に適用されると考えて良い。

UNITED STATES DISTRICT COURT FOR THE DISTRICT OF PUERTO RICO が存在する。

通常の訴訟は SUPERIOR COURT-SUPREME COURT OF PUERTO RICO の決定が最終だが、米国憲法或は PUERTO RICAN FEDERAL RELATIONS ACT により、UNITED STATES SUPREME COURT 迄上申することが出来る。

特に PUERTO RICO との貿易に関しては、DEALERS ACT 75 が存在することを忘れてはならない。これも違憲問題として上記上申の手続は可能で、実際にも判例がある。

ACT 75 はドミニカ共和国の LAW 173 と考えれば良い。

ACT 75 と共に ANTI-TRUST, MONOPOLY 等、米国の法律が併存する訳である。

(II) 農業概況

1. 農業発展の限界

(1) 一般概況が示す通り、この20年間に急速に農業国より工業国へと脱皮を急いでいる PUERTO RICO では農業政策がともすると影にかくれて目立たない存在となってしまっている。

事実離農人口の多いことが示す通り、この国で農業を行ってはいは時代遅れの感で都市への人口集中度は急上昇している。

一方現知事 FERRE が昨1970年日本を訪問の後、新聞紙上にて、工農が調和して発展している日本の現状に深い感銘を受け、日本に学ぶ可きとの発言をしている。然し乍ら、当国農業の中心は、なんと云っても砂糖である。しかし砂糖及び関連 RUM 酒資本の土地支配は、砂糖の対米割当消化或は増量が続く限り、外貨獲得の最適手段として尊重されても、一度不振におち入った場合、他農産物への転換が困難となっている。

(2) STEPHEN R. MORGAN の実例

三井物産が発電所を建設中の南岸 AGUIRRE の近くにて、たまたま MR. MORGAN (当年53才、カリフォルニア出身の米国人で一生を農業に捧げて来た技術者)が、AGUIRRE COM-

PANY と称する農耕会社を作り、トマト、PEPPERS、メロン、キュウリ等野菜と果実の栽培を1967年より開始したが AGUI RRE に於ける栽培は、多くの困難に直面しながら除々に成功、少し宛農耕面積を拡げて来た所、砂糖会社及び周辺政治家よりの圧力によって、閉鎖せざるを得ない状態に追いこまれた経緯がある。「素手の一米国市民として、また他国のどこかで、土地と共に生きるとは容易だが、農産物の大量輸入国の地位に甘んじ、自ら生産をしようとしな、又、方法を知らない PUERTO RICO、の人々のために、自分が黙って、このまま PUERTO RICO を去ることは耐え難いとして、自分の経験による資料及び忠告を、知事宛に手紙にまとめ提出しておりそれによると次の様に知事に直言している。

ア. 農業局長は SUGAR CANE より、PROCESSING CROP ( 缶詰用に加工する作物) の方が収益率はるかに大きいことを認めたが、一方砂糖産業の再建のため政府は多額の資金を投資していることから、政治的側面もあって、若し自分が政府の土地でも使用することを SUGGEST したら、その場で或は明朝には局長の椅子を失ってしまうであろうとの回答を受けた。

イ. DEL MONTE が 1966年に SOUTHCOAST にて、トマト栽培の土地を探したことがあったが、1 ACRE も手に入らなかったとの事である。現在 PUERTO RICO ではMAYAGUEZ PLANT ( 缶詰工場) 向けの農産物の手当は何等行っていない。

ウ. SUGAR CANE 産業は、もっと規模を小さくして経営する以外存続出来る可能性は少ないと判断するが、若し適宜に計画性を持ったら牛肉、野菜、TROPICAL FRUITS、柑橘類の将来は非常に有望と思う。

而して同氏は結論として、知事に次の様に進言している。

a. 果物、野菜の生産

WHERE, HOW MUCH. ABILITY. AGRICULTURAL NECESSITIES. PRACTICAL AND ADVANCED METHODS OF CULTURE (日本人、中国人、米国人に短期間指導を受けた方が良い)。WHEN - WHAT CAN WE DO

b. PROCESSORS (PACKERS...IBEC, DEL MONTE, STARKIST, LIBBY etc.) との協力。FRESH MARKET REQUIREMENTS. PACKING. STORAGE AND MARKETING.

c. SECRETARY OF COMMERCE と協力して INTER-COUNTRY TRADE PROGRAMMING.

或る品種はドミニカ共和国と分業の形で生産する。

d. 砂糖産業との関連で、上記(イ)を決定し、適当な土地を割当て、国内向、輸出向、及び PACKERS 加工用と DIVERSIFY すること。

これなくしては、PUERTO RICO は味のない単作経済に終わってしまうであろう。

(3) PUERTO RICO が完全な農作物の輸入国であることは統計資料の示す通りだが、しかし政

府は最近、砂糖、コーヒー、煙草の旧作物への援助と共に、牧畜、酪農の導入、果実特にパイナップルの栽培に力を入れ始め、いずれにしても、多角農業化を志向していることは事実である。

なお、前述の知事の訪日感想より、日本よりの技術援助の試験的移民による栽培、指導等、政府間BASEで話し合う機会、近い将来、必ず実現すると判断するが、上述砂糖産業との関連問題の解決なくしては、机上の空論に終ると思う。

## 2. 農耕地面積及作柄：

- (1) 全島の40%が山岳、35%が丘陵で、僅か25%が平地である。
- (2) 海岸沿いの平地は見渡す限り、砂糖きび畠にて放牧地域が、その間に点在している。
- (3) 中央部山岳地帯は、コーヒー、煙草、その他、雑作蔬菜地である。
- (4) 農耕地内訳：(1968年現在)

合計	1,838,000 CUERDAS
平地	620,000
砂糖きび	260,000
コーヒー	180,000
タバコ	8,000
その他	172,000
丘陵地	820,000
開墾地	480,000
未開墾地	340,000
山岳雑草地	233,600
森林	89,400
道路、湖、他	75,000

(註) ① CUERDA = 3,929 平方米 = 6 タレア

- (5) 芋類及び生鮮野菜類は、主として中央山岳地帯(コーヒー、タバコ生産地帯)で10-25 CUERDAS 所有の多数の小農民により、タバコ等の間作として栽培されているが、市場、価格(輸入品との競合)、保存貯蔵等の不安定要素をかかえているので、政府は生産、販売面に於ける経済的援助を実施している。又販売方法の指導、地方市場の再編成、適正価格の保証、購買センターの建設等、農業サービス機関の整備を準備しているが、これら小農民を代表する政治家の力はまだ微力である。

## 3. 国内市場

### (1) 取引市場

国内産物の約85%は国内で消費されている。

主要取引市場は次の7市場である。



- ① RIO PIEDRAS (SAN JUAN 市)
- ② SAN TURCE (SAN JUAN 市)
- ③ MAYAGUEZ
- ④ PONCE
- ⑤ BAYAMON
- ⑥ CAGUAS
- ⑦ ARECIBO

(2) 売上高 (FISCAL YEAR OF JULY/JUNE)

ア. 主要5市場売上高 (単位 \$ 1,000)

	1967/68	1968/69
RIO PIEDRAS	4,695	5,800
SAN TURCE	855	946
PONCE	2,321	2,441
MAYAGUEZ	1,502	1,619
ARECIBO	1,295	1,357
合計:	10,668	12,163

イ. 主要7市場産物別売上高 (単位 \$ 1,000)

	1967/68	1968/69
芋類	6,268	7,694
豆, 穀類	605	739
果物	2,612	3,011
菜類	3,444	3,223
肉, 乳製品	636	643
その他	90	122
合計:	13,655	15,431

(註) SAN JUAN市 (RIO PIEDRAS 及 SANTURCE), 消費量は, 全体の約43%。

(3) 他需要

国内向85%, BALANCE 15%の用途は北米 PUERTO RICO 人向輸出及び PUERTO RICO 加工業者(PACKERS ETC.)向である。

加工される品目は, バイン, アップル, マンゴ, パパイヤ, グアジカバ, グアンドウレ(豆), グアナバナ(果物), インゲン豆, ココ椰子, プラタノ(食用料理用バナナ), 等である。

4. 生産額

(i) 芋 菜類 (単位 \$ 1,000)

	1967/68		1968/69	
	量	金額	量	金額
プラタノ:	215,000 <sup>千本</sup>	7,955	242,950 <sup>千本</sup>	10,500
バナナ:	702,000 <sup>千本</sup>	4,303	751,140 <sup>千本</sup>	4,807
ヤマモ:	280,000 <sup>キントール</sup>	2,296	295,000 <sup>キントール</sup>	2,714
サトイモ:	275,000 <sup>"</sup>	3,025	296,000 <sup>"</sup>	3,191
カボチャ:	300,000 <sup>"</sup>	1,236	303,243 <sup>"</sup>	1,249
ピーマン:	92,000 <sup>"</sup>	1,242	77,000 <sup>"</sup>	1,059
キャベツ:	55,000 <sup>"</sup>	247	53,129 <sup>"</sup>	239
トマト:	311,000 <sup>"</sup>	1,151	179,320 <sup>"</sup>	1,062

(2) 果物 (単位\$ 1,000)

	1967/68		1968/69	
	量	金額	量	金額
トロンハ:	13,000 <sup>千個</sup>	251	13,650 <sup>千個</sup>	314
オレンジ:	172,000 <sup>"</sup>	1,359	180,000 <sup>"</sup>	1,401
アボカド:	26,000 <sup>"</sup>	1,209	26,000 <sup>"</sup>	1,303
ココ椰子:	15,300 <sup>"</sup>	759	13,000 <sup>"</sup>	715
パイナップル:	64,530 <sup>t</sup>	3,516	54,323 <sup>t</sup>	2,970

いずれも、たいした伸びを示していないが、PUERTO RICO の気候より、熱帯、亜熱帯果樹の栽培には適している。対日本輸出も将来実現不可能ではない。勿論、米本土、欧州向需要も伸びる一方であるため将来極めて有望な事業となり得る。

パイナップルについては LAND AUTHORITY が加工工場を持ち、缶詰で以ってアメリカ向に輸出している。

5. 輸出入統計 (対 U.S.A. を含まず)

(1) 輸出 (品目別数量, 金額)

別添1 参照

(2) 輸入 (品目別数量, 金額)

別添2 参照

(3) 輸入業者リスト

別添3 参照

(4) 輸入関税率

別添4 参照

6. 需給関係の現況と見越し

(1) 輸出入税額：

生鮮農産物及び加工品 (単位\$)

	輸 入		輸 出	
	米 国	外 国	米 国	外 国
1965/66	5,233,478.9	3,151,210	8,063,503	2,141,723
1966/67	3,897,746.9	4,927,529	8,053,256	1,554,150
1967/68	4,828,601.6	7,251,084	7,721,044	1,604,483
1969/70		6,922,256		1,046,735

上表の通り輸出入共、米本土との取引が 80-90% を占めているが、これは関税、品質、輸送能力の問題及びジャガ芋、玉ネギ等農産物が他のカリブ諸国で多量生産出来ないことなどによる。

また、国内生産額と比較すれば、全く輸入に頼っているといえる。

(2) 輸入業者の意見：

農務省より紹介あった大手 2 社の社長より聴取

ア. FRIGORIFICO DOMINGO GILORMINI, INC, CAPARRA HEIGHTS STATION  
SAN JUAN, P. R. 0092。

社長 GILORMINI 氏よりの聴取結果 (仏人、プエルトリコで約 20 年青果物取引の経験がありドミニカ共和国には 10 数回訪問しており、コンスタンサの日本人と取引したこともある由)

ドミニカよりの輸入は

① SAN JUAN DE LA MAGUANA に住むドミニカ人 MR. MATOS を窓口とし、手紙の往復にて発注している。

② 価格は MR. MATOS に対し、プエルトリコの市場時価から輸入税、輸送費等諸掛りと利潤を差引いた FOB HAINA 或は AIRPORT SANTO DOMINGO 価格を指示して集荷を依頼する。所謂輸出入業務をブローカーを通さないため相当の利益があがる現状である。

③ 航空便が主体で、トマトに関しては約 7 社の輸入業者の内当社が最大手である。

一回の注文は約 1,500 箱 (@ 40 LBS.)

生産地発送より 24 時間で到着する。

④ SEALAND CONTAINER 積だと 2, 3 日かかり、トマトの場合 ONE CONTAINER 900 箱 MIN。

ドミニカより MIAMI 向け 2 CONTAINERS 出荷し腐ったことがあるが、これは積み込み方が悪かったためで通常トマトの CONTAINER 輸送に問題はない。

腐敗の場合、ドミニカ側生産者が受渡し迄の品質を保証するので、腐って到着しても買手は関係がない。また、トマトに関しては、保険会社が腐敗保険を引き受けないので生産者の全損とな

っている。

⑤ 4, 5, 6月の雨期は、ドミニカよりの輸入が駄目なためフロリダ等より輸入している。

⑥ハイチより山芋を相当量買っている。NEW YORK に 2 CONTAINERS を売ったことがあるも N. Y. 向は IMPORTER が 15%以上の口銭を要求するため、あまりうまく商売ではない。

⑦冷蔵庫、撰別機等が揃っているがいずれも買い切りであり、主に PUEBLO, GRAND UNION 等 SUPER-MARKET 及び青果市場に卸す DISTRIBUTOR である。

⑧支払条件は到着後米\$による現金払。

SUPER-MARKETS の支払は納入後30日位、現金払。売上は3ヶ月で平均 \$200,000.00位の現状である。

⑨プエルト・リコ政府による野菜増産計画はあるが、農業人口は国内及び米本土の高賃銀他産業部門に逃散し、輸入は増える一方である。

⑩在ドミニカ共和国日本人移住者が、共同組合的なものを作って、プエルト・リコ向輸出を始めたら、この位儲かる話はないと思う。

⑪輸入品目としては、レタス、トマト、ピーマン(大、小)の三種はいくらでも売れる。

他、キャベツ、里芋、山芋、南瓜、等。

玉ネギは米本土、カナダより大量安値で入るので無理と思う。

果実はレチョーサ、メロン、サンディヤ、トロンハが売れよう。

⑫品種毎の現価格(仕入れ価格 DELIVERED)

ト マ ト \$7.00 ~ 7.50 PER CASE

レ タ ス \$5.00 ~ 5.50 PER 24 個

ピーマン \$7.00 PER 30 LBS

キャベツ \$0.03 PER LB. (現在は特に安い。なお国内でもかなり生産されている。)

南 瓜 \$0.10 PER LB.

山 芋 \$0.10 PER LB.

## 2) DISTRIBUIDORA SAN JUAN INC.

P.O. BOX 3943, SAN JUAN, P.R. 00936

社長 LOUIS LOPEZ GARCIA よりの聴取結果は次の通りである。

①玉ネギ、ジャガイモ、ニンニクが主体で年間の売上げは約600万\$である。なかでもジャガイモの扱いが最も多く、米本土、カナダより輸入している。また、玉ネギは全部NEW YORK積出し。ニンニクは季節により異なるが、MEXICO, SPAIN, PERU より輸入している。なおいずれも海上輸送による。

②ドミニカ共和国より輸入しているものは、南瓜、サツマイモ、山芋等で、これも海上輸送によ

る。

但し、トマト、ピーマンは航空便で入れる方が多い。SANTIAGO 市に住む MR. LLANEZA に REPRESENTATIVE として集、出荷を依頼している。

③ SEALAND の CONTAINER は 40,000 LBS. MINIMUM PER CONTAINER.  
\$600 PER CONTAINER.

④ 支払条件は SANTIAGO 市にて PESO 払いだが、荷物到着後 US \$ 払いをすることもある。  
輸送費、輸入税等諸掛りは、同社がフェルト・リコで支払っている。

⑤ 撰別、包装後、主に SUPER-MARKETS に卸すが SUPER の支払は納入後 15~30 日 現金払。

⑥ エニクは木箱詰のものを約 10 人、女性傭人が撰別し、小網に包装し直し、50 LBS 位を大網袋にまとめて SUPER に出荷される。

ジャガ芋は CONTAINER バラ積で、卸場より撰別、包装迄一貫流れ作業。ジャガ芋は 50 LBS 網袋入りにて到着、そのまま SUPER に出される。

⑦ 青果物輸入は、この 10 年間毎年 10~15% 伸びている。ドミニカ共和国より輸入をすすめるものには南瓜、トマト、ピーマン、山芋、サツマイモ等である。

現在、ドミニカからは一週間に 7~8 CONTAINERS 入れている。(HA INA-SAN JUAN 間 24 時間、航海)

⑧ 保険は CONTAINER 当り \$8~\$10 の保険料で済むが、通常の保険のみで、腐敗については保険会社は引き受けない。腐って到着した場合は供給者側の責任となるが今迄、一度も起らず、ドミニカとの間は心配ないと思う。

⑨ 最近の SUPER-MARKETS に対する卸値は

玉ネギ	\$ 2.00	PER	50	LBS.
ジャガイモ	\$ 5.00	PER	100	LBS.
エニク	\$ 0.30	PER	LB	
トマト	\$ 8.00	PER	40	LBS.
南瓜	\$ 0.10	PER	LB	
山芋	\$ 0.14	PER	LB	
ピーマン	\$ 7.00	PER	30	LBS.

(3) 当国最大の SUPER-MARKET PUEBLO では、ドミニカよりの野菜類は SANTO DOMINGO 在住の MR. LUIS MIGUEL と直接取引し、輸入業者は通してないとのことだが、前述、MR. GILORMINI によれば、輸入業者からも買っているとの事ゆえ、特定方針はなく、その都度の価格によるものと思われる。

### 〔Ⅲ〕 農産物輸出に際しての問題点考慮

ドミニカ共和国の日系農業者が生産する農産物をプエルト・リコ市場に出荷することは、極めて有望であり、特に青果物（野菜類も含めて）相当のペースで輸出することが出来よう。然し、輸出に際しては次の点に留意することが必要と考えられる。

1. 価格については、全くプエルト・リコ市場価格に左右されている。更にドミニカ側の生産状況により、過剰な時は買い叩かれるおそれがある。従って、まとまった数量を扱う大手輸入業者（冷蔵倉庫のある）とタイアップして、計画的に生産し、出荷時期、数量を予め打ち合せ、価格以外の条件は出来れば年契しておくことが望ましい。
2. 日本人の生産物と云うことだけで品質は O.K. と云う先入観を持っている様だが、PUEBLO, GRAND UNION 等の SUPER-MARKETS は米国の優良品と比較するので、決して油断はならない。
3. 上記、買叩き（輸入業者約 50 社の大半は何らかの形でドミニカ供給者と関係がある）を防ぐ為には、個々の取引は出来る限りさけて、日本人の窓口を一本に絞ることが肝要である。
4. 取扱品目の撰定、集荷方法等の組織化を図り、輸入業者に安定感を持たせること。
5. ドミニカ在住の集荷業者、輸出業者の LIST を作り、SUPER-MARKETS, 輸入業者と結びつきを把握して地域によって起用の可否を考えること。

但し、価格面より制約がある故、出来る限りブローカーを使わず、輸入業者と直接取引した方が良い。

6. SUPER-MARKET と、直接取引は受渡しの期限がうるさいこと。輸入業者を刺戟すること、等より、当初はなるべくさけて、軌道化後に SUPER 側からの APPROACH を待った方が良いでしょう。

### V む す び

青果物輸入の増大及びドミニカ共和国よりの安値流入に対し、政府、業者より批判の声も聞かれるが、当国自体が生産及び計画に見る可きものなく、又労働人口の趨勢より今後共、青果物の輸入が増大することは間違いなからう。

従って、日本人移住者を組織化して、優良品質をプエルト・リコに輸出する案件は、商流として充分成り立つと判断される。なお青果物に関して、当該国の流通量過剰の時は当然の如く買い叩かれるが、これはドミニカ生産者側の無組織、無抵抗にあること及び無計画な出荷・輸出にあると思われる。よって年間を通じての供給品目の撰定、集荷、輸送（FOB HAINA 港、SANTO DOMINGO 空港）のルート、方法を撰定し、プエルト・リコ大手輸入業者と、数量及び価格の交渉を行い乍ら、組織化を促進することとともに計画的な生産出荷（輸出）を行う必要がある。

以上

TOTAL EXPORTS OF SELECTED VEGETABLES AND FRUITS  
INTO FOREIGN COUNTRIES FROM PUERTO RICO  
FISCAL YEAR 1970

<u>Products</u>	<u>Unit</u>	<u>Quantity</u>	<u>Value (\$)</u>
<u>Vegetables</u>			
Potatoes, fresh except sweet potatoes	Lb.	78,081	6,920
Navy or pea beans, dried, except seed	Lb.	80,000	6,400
Red kidney beans, dried, except seed	Lb.	3,600	725
Pinto beans, dried except seed	Lb.	1,111,700	114,018
Beans, dried, N.E.C., except seed	Lb.	20,900	1,640
Green peas, dried except seed	Lb.	77,500	5,256
Lentils, dried except seed	Lb.	2,500	269
Tomatoes, fresh	Lb.	79,962	21,269
Beans, fresh	Lb.	19,800	2,385
Onions, fresh	Lb.	823,045	48,849
Cabbage, fresh	Lb.	205,760	15,933
Carrots, fresh	Lb.	79,513	3,964
Celery, fresh	Lb.	3,100	700
Lettuce, fresh	Lb.	76,595	16,970
Vegetables, fresh, N.E.C.	Lb.	381,453	101,770
Vegetables, frozen	Lb.	51,040	8,645
Vegetables dehydrated except potatoes and leguminous vegetables	Lb.	117,272	34,735
Asparagus, prepared or preserved	Lb.	16,768	7,939
Peas, prepared or preserved	Lb.	25,568	5,994
Beans, prepared or preserved	Lb.	8,792	2,043
Tomatoes, prepared or preserved	Lb.	9,109	1,633
Vegetables prepared or preserved, N.E.C.	Lb.	45,976	11,268
Cucumber pickled	Lb.	1,200	504
Olives, green prepared or preserved in bulk	Lb.	17,722	5,772

<u>Products</u>	<u>Unit</u>	<u>Quantity</u>	<u>Value (\$)</u>
Vegetables prepared or preserved N.E.C.	Lb.	21,272	5,198
<u>Fruits</u>			
Oranges, fresh	Lb.	108,727	16,454
Citrus fruits, fresh, N.E.C.	Lb.	26,250	4,725
Apples, fresh	Lb.	580,835	64,580
Grapes, fresh	Lb.	326,863	62,919
Walnuts not shelled	Lb.	5,000	1,700
Coconuts	Lb.	8,479	3,900
Almonds, shelled	Lb.	1,465	920
Pears, fresh	Lb.	27,225	2,860
Peaches and nectarines, fresh	Lb.	1,500	700
Tropical fruits, fresh except bananas	Lb.	332,542	26,494
Figs, dried	Lb.	3,540	1,971
Grapes, dried (raisins)	Lb.	44,685	16,412
Peaches, dried	Lb.	33,620	7,598
Mixed fruits, dried	Lb.	2,550	685
Fruits prepared or preserved	Lb.	4,464,758	687,296
Maraschino cherries prepared or preserved	Lb.	8,134	3,071
Peaches prepared or preserved	Lb.	69,664	10,701
Pears, prepared or preserved	Lb.	31,415	7,625
Pineapples prepared or preserved	Lb.	20,294	3,126
Fruit cocktail prepared or preserved	Lb.	237,433	43,792
Nuts, except peanuts, prepared or preserved, N.E.C.	Lb.	2,870	812
Fruits, prepared or preserved, N.E.C.	Lb.	5,000	1,875

SOURCE OF INFORMATION: Puerto Rico Planning Board  
Statistical Listado 1970



TOTAL IMPORTS OF SELECTED VEGETABLES AND FRUIT INTO  
 PUERTO RICO FROM FOREIGN COUNTRIES  
 FISCAL YEAR 1970

<u>Products</u>	<u>Unit</u>	<u>Quantity</u>	<u>Value (\$)</u>
Vegetables (Fresh or frozen)			
Cabbage	Lb.	5,600	399
Celery	Lb.	5,000	300
Cucumbers	Lb.	9,000	300
Dasheens	Lb.	2,768,656	203,940
Eggplant	Lb.	11,730	704
Garlic	Lb.	5,734,184	884,029
Lettuce	Lb.	5,600	400
Peas	Lb.	1,630	276
Other	Lb.	132,340	25,626
Peppers	Lb.	4,036,851	329,332
Potatoes	Cwt.	308,183	929,856
Other	Cwt.	198,578	573,157
Other	Cwt.	57,043	168,299
Tomatoes	Lb.	1,227,750	77,219
Tomatoes	Lb.	37,640	2,258
Tomatoes	Lb.	352,320	22,134
Turnips or rutabagas	Lb.	8,852,004	456,575
Vegetables, fresh, chilled or frozen and cut, sliced, for otherwise reduced in size (dried or dehydrated)	Lb.	171,328	16,820
Beans	Lb.	177,943	16,438
Other	Lb.	75,000	7,286
Chickpeas or garbanzos	Lb.	2,067,305	183,397
Peas	Lb.	385,195	36,808
Garlic (prepared or preserved)	Lb.	4,400	1,445
Onions	Lb.	28,143	5,328

<u>Products</u>	<u>Unit</u>	<u>Quantity</u>	<u>Value (\$)</u>
Peas	Lb.	3,760,720	698,006
Peppers	Lb.	2,219,932	555,835
Tomatoes	Lb.	7,839,674	1,046,735
Other	Lb.	238,995	16,423
Waterchestnuts	Lb.	3,675	900
Artichokes	Lb.	7,056	1,790
Asparagus	Lb.	6,127	2,260
Other	Lb.	55,988	9,244
<u>Fruits</u>			
Apples prepared or preserved	Lb.	4,550	680
Avocados fresh or prepared or preserved	Lb.	511,561	46,012
Oranges (mandarin)	Lb.	15,263	3,088
Grapes: Raisins prepared or preserved	Lb.	159,852	26,365
Mangoes fresh or prepared or preserved	Lb.	11,422	2,372
Melons: Cantaloupes, fresh	Lb.	62,880	3,773
Watermelons, fresh	Lb.	127,596	7,124
Olives, fresh, not more than .3 gal.	Gal.	10,793	14,210
Olives, fresh more than .3 gal.	Gal.	197,806	95,237
Olives (Ripe), but not pitted or stuffed	Gal.	877	1,482
Ripe, pitted not more than .3 gal.	Gal.	344	2,182
Ripe, pitted more than .3 gal.	Gal.	16,353	16,477
Ripe, stuffed not more than .3 gal.	Gal.	203	582
Other	Gal.	3,865	6,947
Ripe, stuffed more than .3 gal.	Gal.	189,327	393,790
Papayas prepared or preserved	Lb.	3,625	675
Pineapples, fresh in bulk	No.	94,000	2,750
Pineapples, prepared or preserved in airtight containers	Lb.	60,000	6,438

<u>Products</u>	<u>Unit</u>	<u>Quantity</u>	<u>Value (\$)</u>
Plantains, prepared or preserved	Lb.	29,036	17,892
Mixtures of two or more fruits, prepared or preserved	Lb.	1,713	661

SOURCE OF INFORMATION: Puerto Rico Planning Board  
Statistical Lists 1970

プエルト・リコの農産物輸入業者

1. Balzac S. Co. Sucrs., Inc.  
G.P.O. 955, Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Santiago R. Palmer  
Esq. Libertad 51  
Mayaguez, P.R.
2. Barletta, Reynaldo  
P.O. Box 610, Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Post 66 Norte  
Mayaguez, P.R.
3. Bayouth, Alfred  
"West Indies Import Sales"  
P.O. Box 682, Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Mackinley 217  
Mayaguez, Puerto Rico
5. Carrera S. Hermanos Inc.  
P.O. Box 3007,  
\*Marina Sta. Mayaguez, Puerto Rico  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
6. Comercial Detallistas Unidos de Mayaguez, Inc.  
\*Comercio 57  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
7. Damian del Moral, Inc.  
P.O. Box 3638, Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Aduana 271 Este  
Mayaguez, Puerto Rico
8. Sucesores de Esmoris S. Co., Inc.  
P.O. Box 3065  
\*Marina Sta  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
9. Sucesores de Jose Feliciano, Inc.  
Ferreteria Feliciano  
P.O. Box 171, Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Post 126  
Mayaguez, P.R.
10. Manuel Feliciano  
Muñoz Rivera 8 Oeste  
Mayaguez, Puerto Rico 00709
11. Luis Ferrer, Inc.  
\*Libertad 64  
Mayaguez, Puerto Rico 00709

12. Jaime Ferrer  
\*Aguila 61  
Mayaguez, Puerto Rico 00709
13. E. Franco S. Co. Inc.  
P.O. Box 3045  
Marina Station Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Mendez Vigo 233 Oeste  
Mayaguez, P.R.
14. Primitivo Grau e Hijos  
P.O. Box 3047, Mayaguez, Puerto Rico 00708  
\*Calle Comercio Esq. Mendez Vigo  
Mayaguez, P.R.
15. Alberto Irizarry  
\*Balboa 75  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
16. Rafael Lugo, Rodriguez  
\*San Vicente 14  
Mayaguez, Puerto Rico 00709
17. Santiago Mari  
P.O. Box 4352  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
18. Sadoth Morales Asencio  
P.O. Box 488  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
19. Esmeraldo Muniz Figueroa  
\*Balboa 55  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
20. Eugenia Rivera Cargo  
\*Ruby 4, Urb. Vista Verde  
Mayaguez, Puerto Rico 00700
21. Maises E. Rodriguez  
P.O. Box 1645  
Mayaguez, Puerto Rico 00708
22. Reynaldo Ruiz, Inc.  
P.O. Box 3037  
Mayaguez, Puerto Rico 00708

PONCE

23. Jose Acosta Valenciano  
\*Leon 22  
Ponce, Puerto Rico 00731
24. Miguel Amadon Ponton  
\*Tricoche 52  
Ponce, Puerto Rico 00731
25. Bonnin & Company, Inc.  
P.O. Box 35  
Ponce, Puerto Rico 00732
26. Juan Herminio Cintron Garcia  
\*Calle Atocha 7 Victoria  
Ponce, Puerto Rico 00731
27. Colomes & Suarez  
\*Comercio 9 Plaza  
Ponce, Puerto Rico 00731
28. Rafael Feria  
P.O. Box 651  
Ponce, Puerto Rico 00732
29. Colon Brothers, Inc.  
\*Molina 72  
Ponce, Puerto Rico 00731
30. Sixto Figueroa  
P.O. Box 1247  
Ponce, Puerto Rico 00732
31. Agencias Intermares, Inc.  
P.O. Box 2625  
\*Marina I  
Ponce, Puerto Rico 00903
32. F. Badrena e Hijos, Inc.  
P.O. Box 3032  
San Juan, Puerto Rico
33. Ballester Hermanos, Inc.  
P.O. Box 5631  
San Juan, Puerto Rico 00904
34. Betancourt Inc. R.S.O.  
P.O. Box 6368  
Loiza Station, Puerto Rico 00914

35. The Borden Foods Company, Inc.  
P.O. Box 1859  
San Juan, Puerto Rico 00919
36. Caceres Johnson Corporation  
G.P.O. Box 3968  
San Juan, Puerto Rico 00936
37. F.S. J.M. Carrera Inc.  
P.O. Box 3432  
San Juan, Puerto Rico 00904
38. Distribuidora San Juan, Inc.  
G.P.O. Box 3943  
San Juan, Puerto Rico 00936
39. Ramon Escriba, Inc.  
P.O. Box 3706  
San Juan, Puerto Rico 00904
40. A. Fernandez Hermonos, S. Co.  
P.O. Box 1650  
San Juan, Puerto Rico 00903
41. B. Fernandez & Hermanos, Inc.  
P.O. Box 3629  
San Juan, Puerto Rico 00904
42. Manuel Freira e Higos, Inc.  
P.O. Box 1768  
San Juan, Puerto Rico 00936
43. Freiria & Co., Inc.  
G.P.O. Box 4165  
San Juan, Puerto Rico 00936
44. Frigorifico Domingo Gilormini, Inc.  
P.O. Box 10125  
Caparra Heights Station  
San Juan, Puerto Rico 00922
45. Frigorifico Caldas, Inc.  
P.O. Box 20099  
\*Ave. Ponce de Leon 1167  
Rio Piedras, Puerto Rico 00928
46. General Foods, Inc.  
G.P.O. Box 4068  
San Juan, Puerto Rico 00936

SUPERMARKETS

1. Grand Union P.R. S.A.  
Metro Shopping Center  
Hato Rey, Puerto Rico 00919
2. Pueblo Supermarkets  
G.P.O. Box 3288  
San Juan, Puerto Rico 00936
3. SM Supermarkets  
258 Ave. Central Hyde Park  
Hato Rey, Puerto Rico 00919
4. Cooperativa Metropolitana de Consumo  
Box 969  
Hato Rey, Puerto Rico 00919
5. Luckey Seven of Puerto Rico  
Ave. Jesus T. Pineiro 1151  
Puerto Nuevo, Puerto Rico
6. Federacion Puertorriquena de Consumo  
Ave. Barbosa, Esq. Central  
Centro Comercial Dos Pinos  
Rio Piedras, Puerto Rico 00928
7. Comisaria Supermarkets Inc.  
260 De Diego  
Rio Piedras, Puerto Rico 00928
8. San Juan Supermarket  
361 Tetuan  
San Juan, Puerto Rico 00902
9. Cooperativa Metropolitana de Consumo  
Central Dos Pinos  
Rio Piedras, Puerto Rico 00928
10. Supermercado Los Muchachos  
Ave. Ramos Antonini y Ponce de Leon  
Cataño, Puerto Rico 00632



# 農産物に対する関税率

(TREASURY DEIJ. 調べ)

1) プエルト・リコ ← 外国(米を除く)

蔬菜類	キャベツ	ポンド当り	0.63φ
	砂糖大根	FOB価格×	2%
	人参	"	× 8.5%
	花キャベツ	"	× 7.5%
	セロリー	ポンド当り	1.0φ
	カボチャ	"	1.4φ
	とうもろこし	FOB価格×	25%
	豆類	ポンド当り	3.5φ
	キュウリ	"	2.2φ
	やま芋	FOB価格	17%
	ナス	ポンド当り	1.5φ
	ニンニク	"	0.75φ
	レタス	"	0.59φ
	玉葱	"	0.80φ
	ピメンタ	"	2.5φ
	ジャガイモ	100ポンド当り	37.5φ
	赤大根	FOB価格×	8.5%
	トマト	ポンド当り	2.1φ
	その他の生鮮, 冷凍蔬菜類	FOB価格×	17.5%

果実類	バナナ	FOB価格 × 5%
	" (加工)	" 10%
	オレンジ	" 1%
	ミカン	ポンド当り 0.3φ
	アホカード	" 0.75φ
	イチゴ	" 0.75φ
	トロハ	" 1.08φ
	パイヤ	FOB価格 × 12.0%
	パイナップル	1個につき 1.5φ
	" (加工)	ポンド当り 0.75φ
	メロン	FOB価格 × 20%
	西瓜	" 20%

2) フェルト・リコの対米本土との関税はFREEである。

